

Ⅱ 18歳以上の区民の方が対象

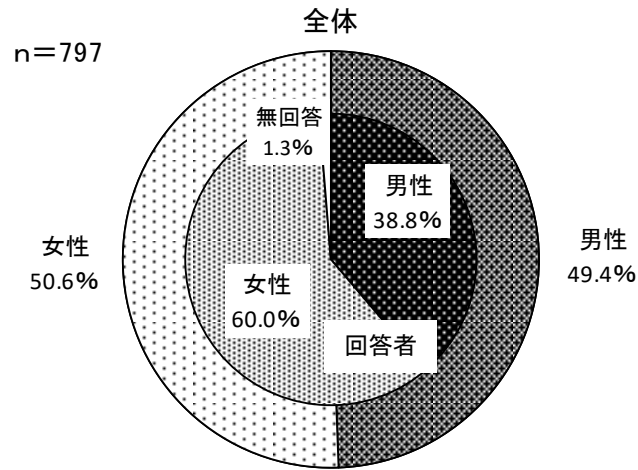
①地域力・まちづくり・環境分野などの調査結果

1 回答者の属性

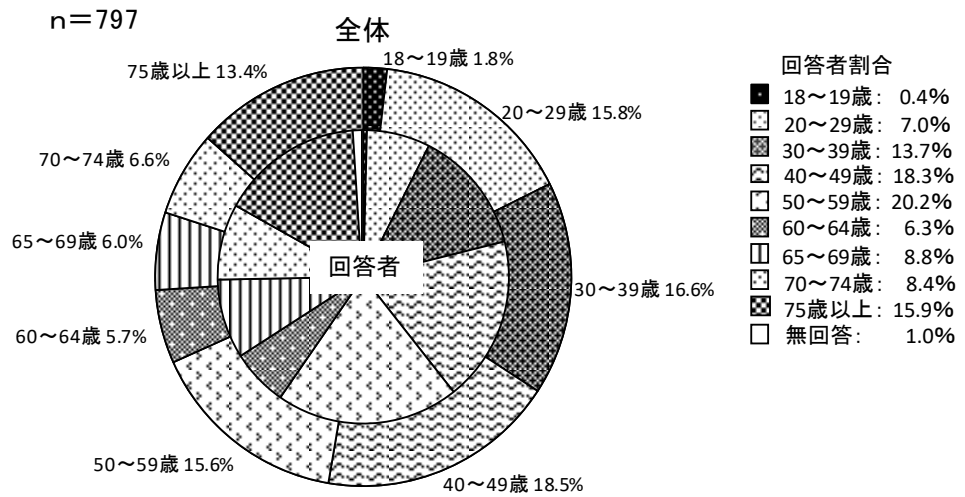
【性別】

全体：大田区の18歳以上の人口（n=638,789）※令和2年1月1日

回答者：有効回収数（n=797）

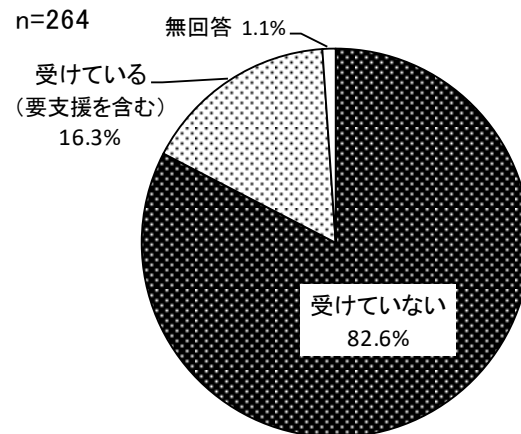


【年齢】

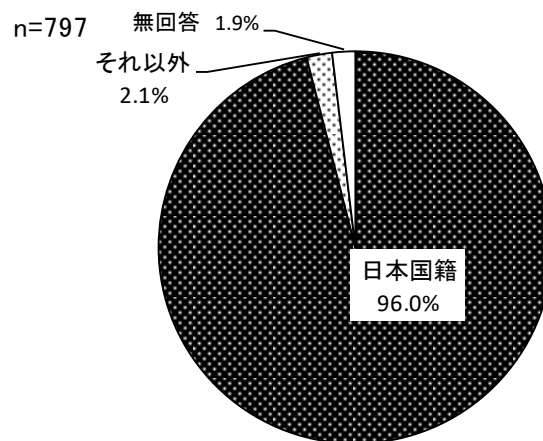


【出典】大田区：年齢別人口報告表資料（日本人+外国人）令和2年1月1日現在版

【介護保険制度の要介護認定を受けているか（65歳以上の方）】



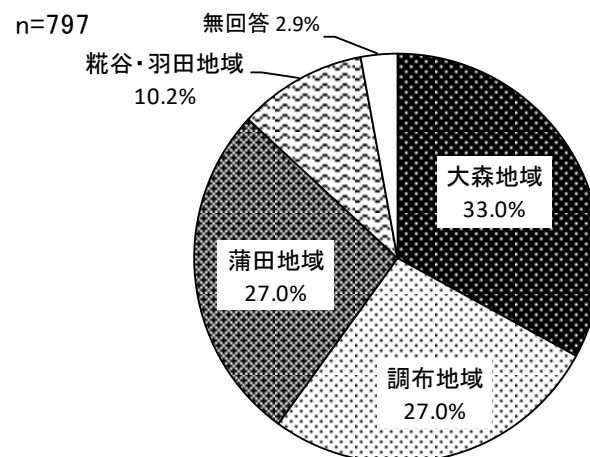
【国籍】



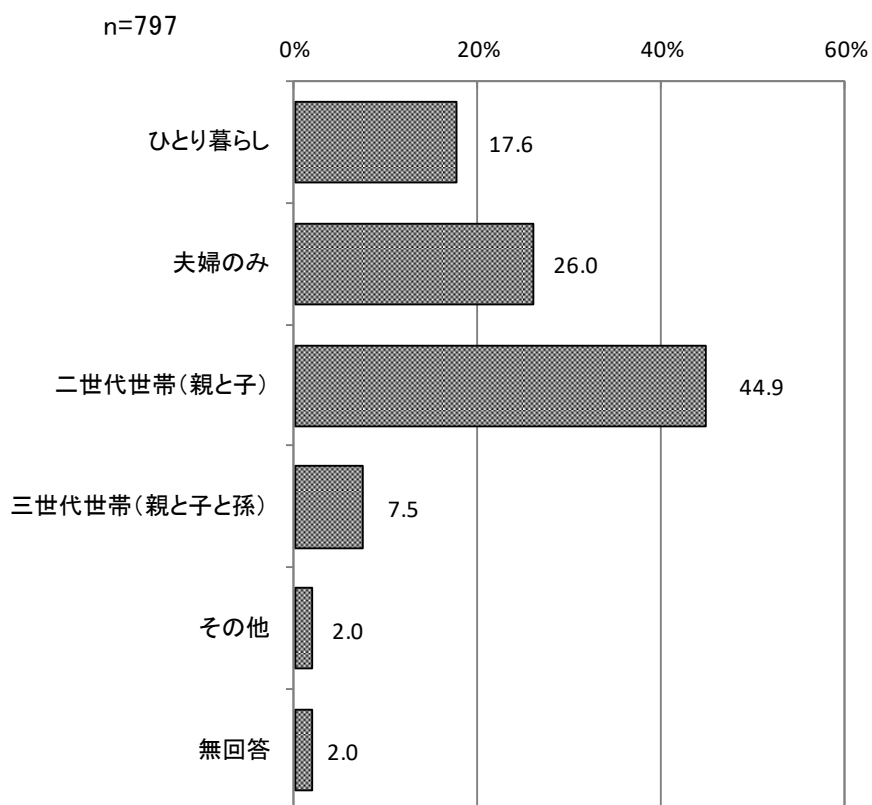
(日本国籍以外)

| | 中国 | 韓国 | 台湾 | フィリピン | アルゼンチン | ネパール | 無回答 |
|----|----|----|----|-------|--------|------|-----|
| 人数 | 9 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 |

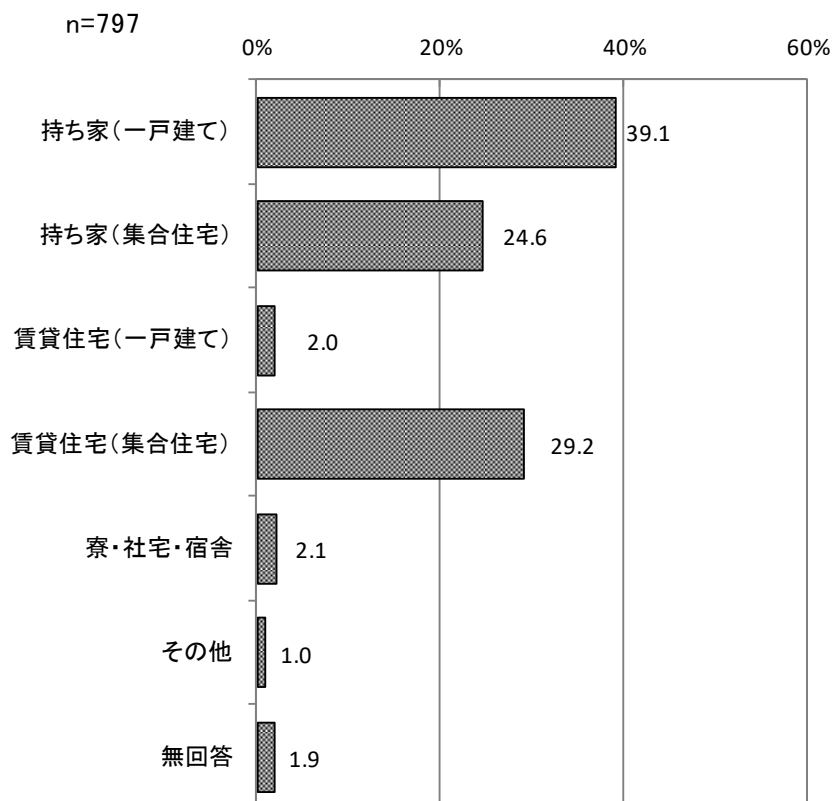
【住まいの地域】



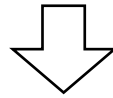
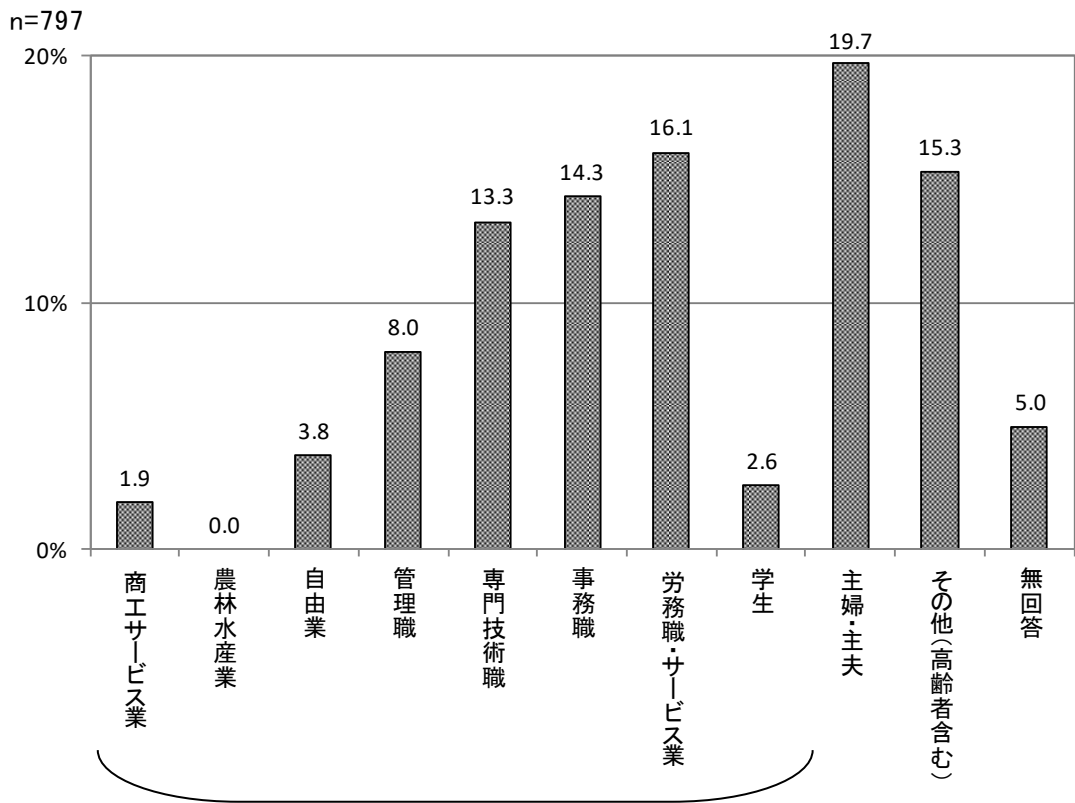
【家族構成】



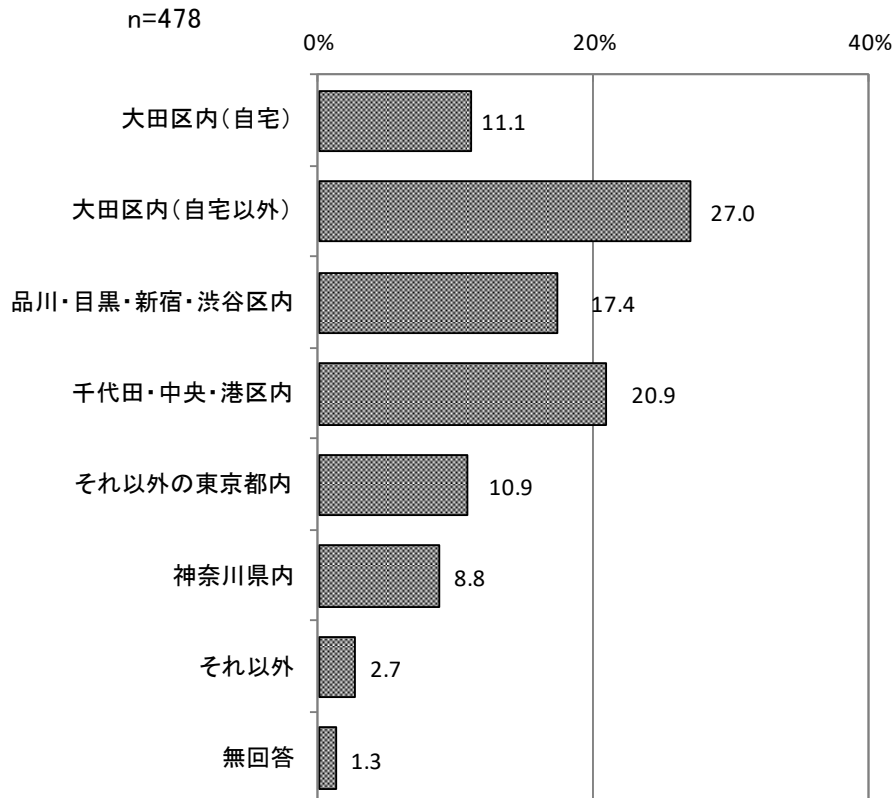
【住まいの種類】



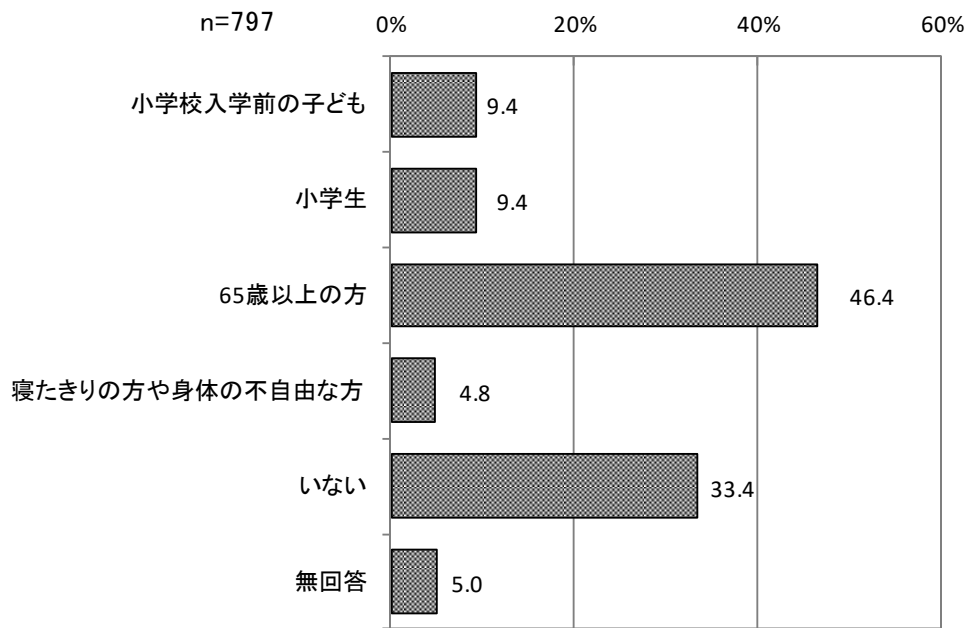
【職業】



【主な通勤・通学先】

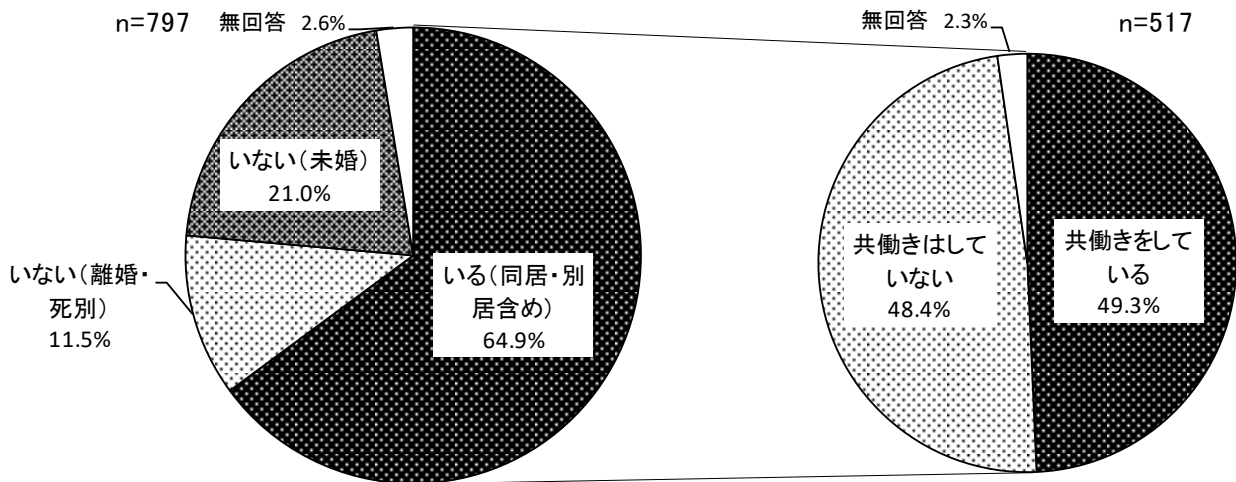


【同居家族】

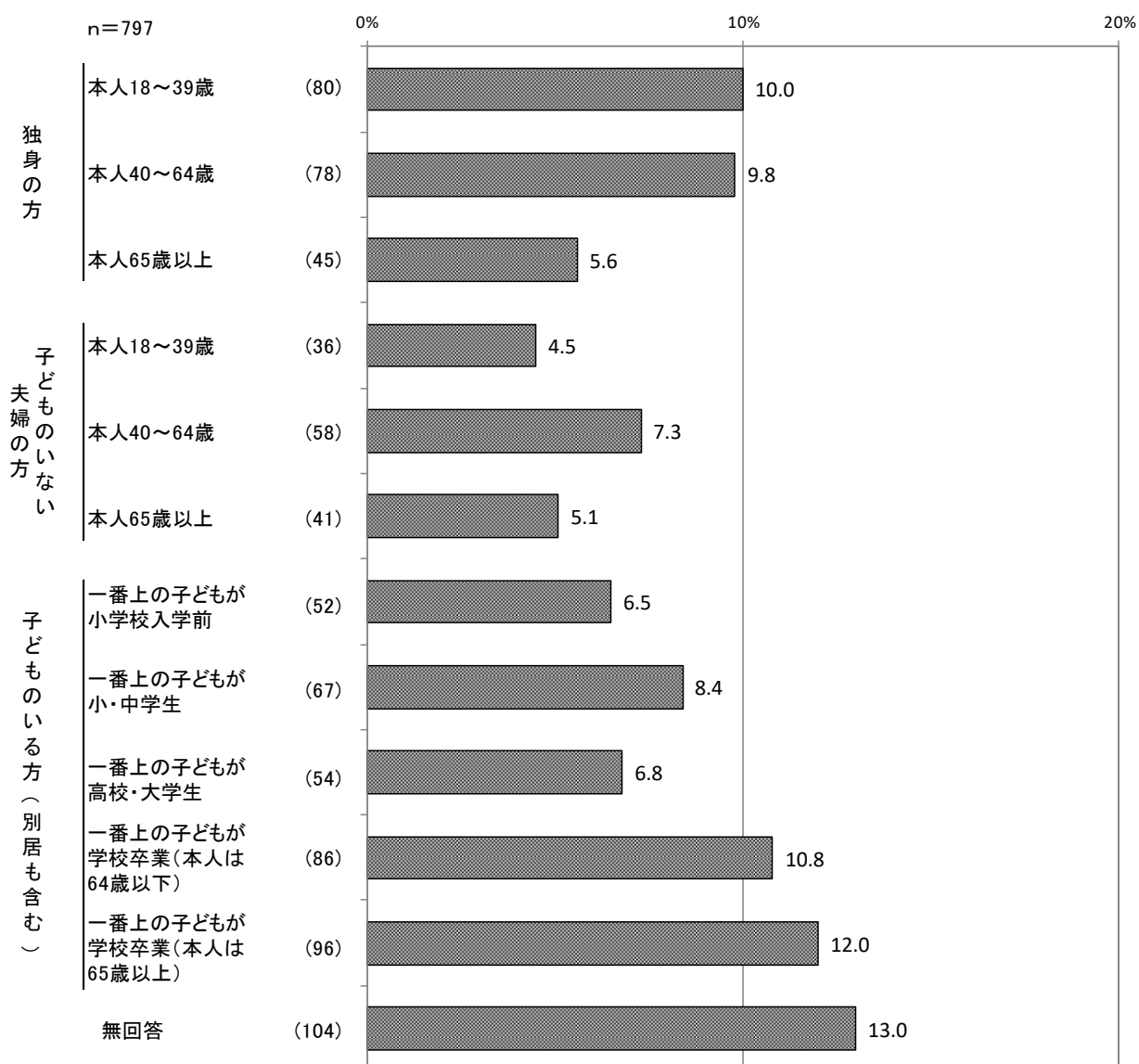


【配偶者の有無】

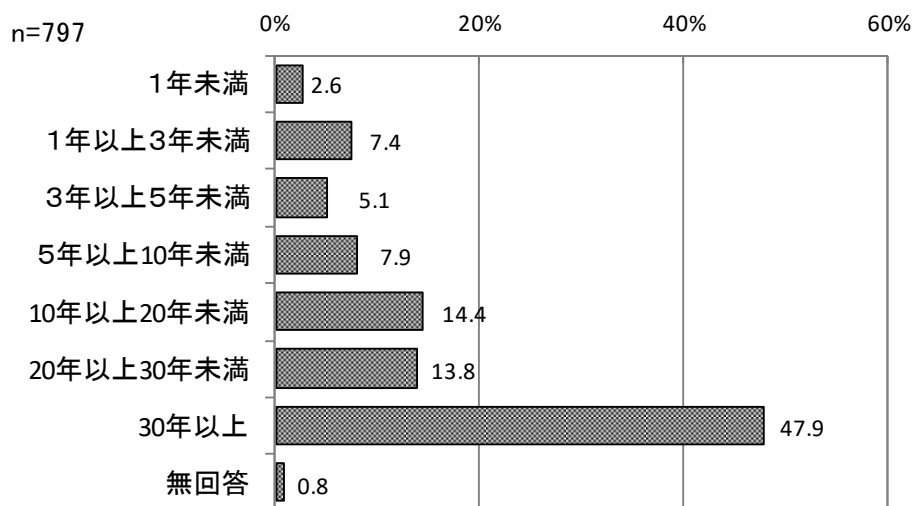
【(配偶者のいる方) 共働きについて】



【ご自身のステージ】



【大田区にお住まいの期間】



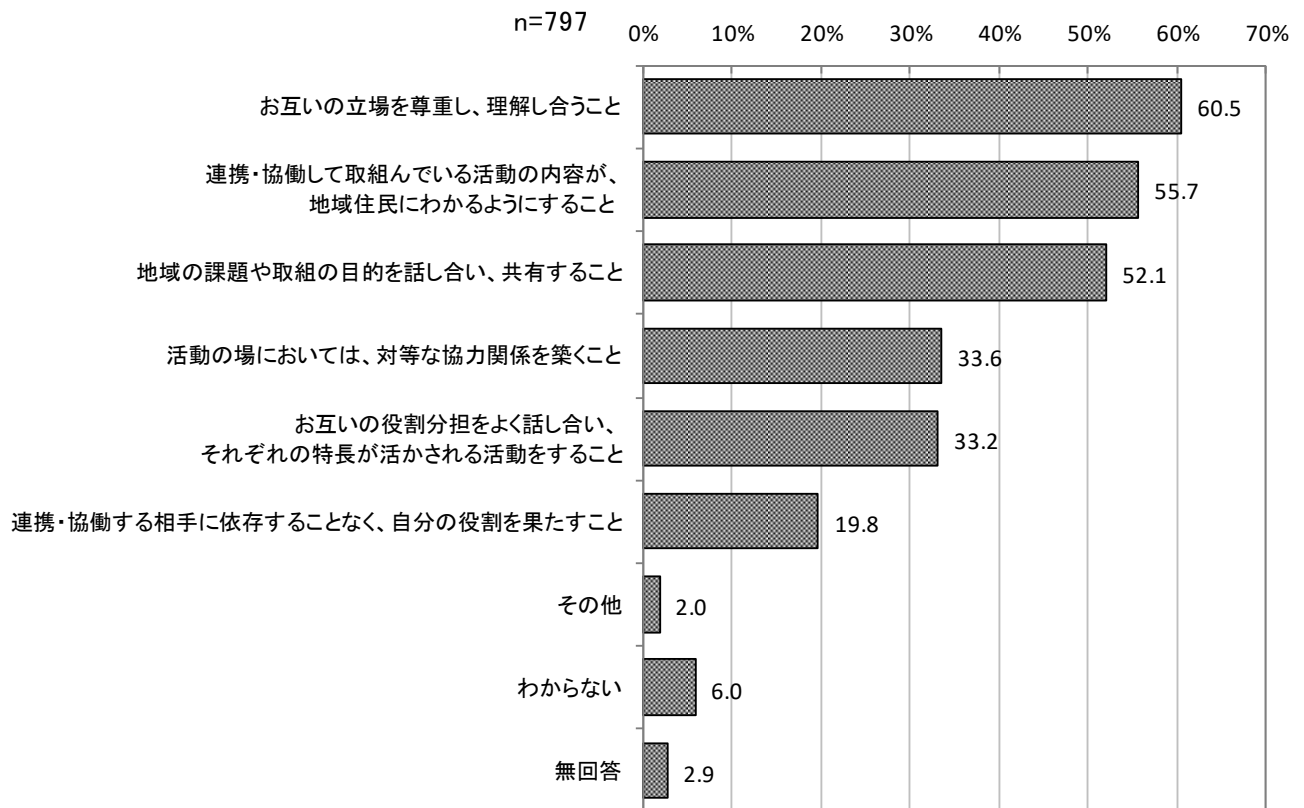
2 地域活動・生涯学習について

(1) 連携・協働をするために重要なこと

◎ 「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」が約6割で最も高くなっている

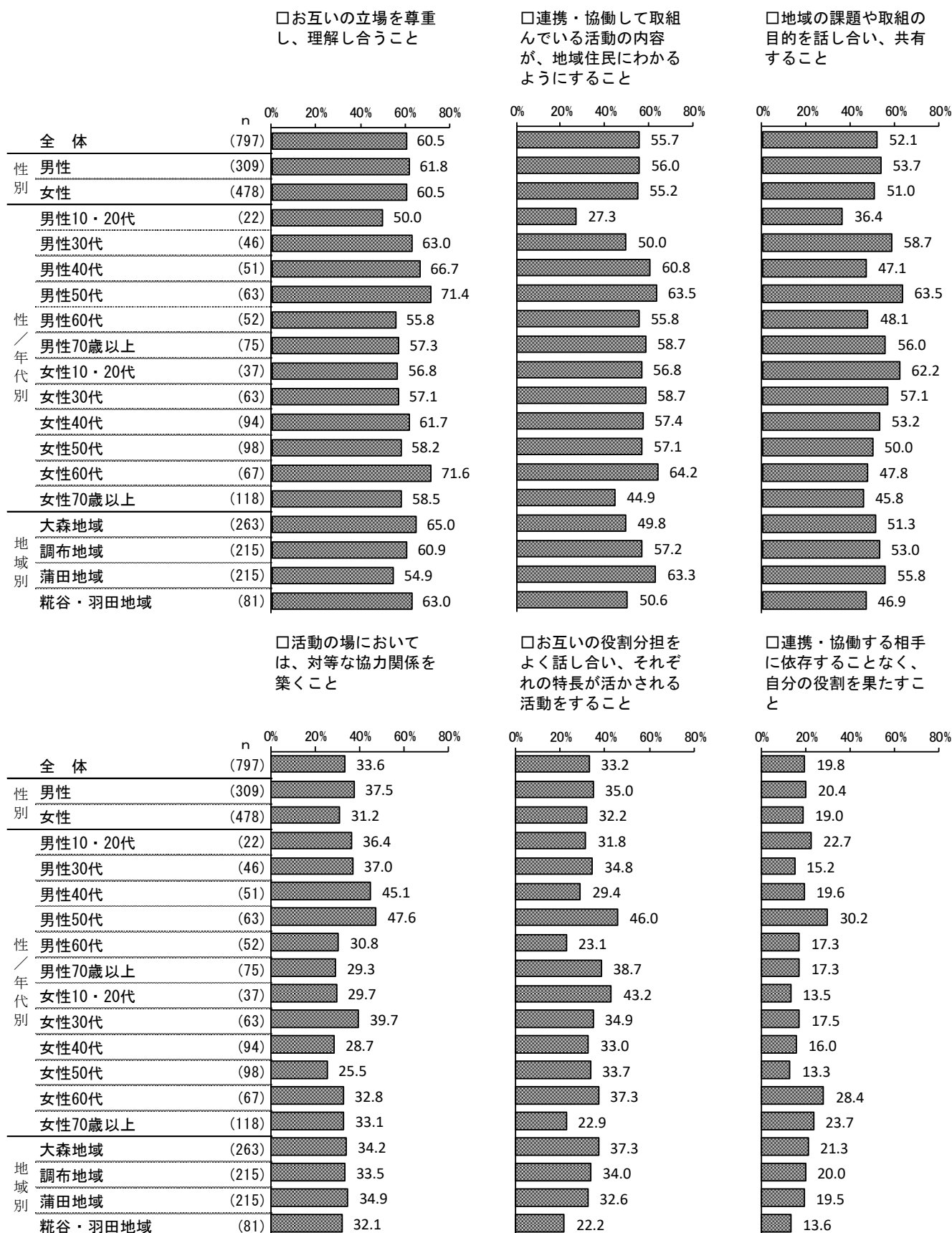
問1 豊かで魅力に満ちたまちづくりを進めるための連携や協働をするにあたり、どのようなことが重要だとお考えですか。(〇はいくつでも)

図表2-1 連携・協力をするために重要なこと



連携・協働をするために重要なことについて聞いたところ、「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」が60.5%で最も高く、次いで、「連携・協働して取組んでいる活動の内容が、地域住民にわかるようにすること」(55.7%)、「地域の課題や取組の目的を話し合い、共有すること」(52.1%) などとなっている。(図表2-1)

図表2-2 連携・協力をするために重要なこと（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



連携・協働をするために重要なことについて、上位6項目を性別で見ると、「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」では男女ともに大きな差異は見られない。「活動の場においては、対等な協力関係を築くこと」では男性（37.5%）、女性（31.2%）と、男性が女性を6.3ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」では男性50代、女性60代が7割台で他の年代より高くなっている。

地域別で見ると、「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」では全ての地域で5割を超えている。

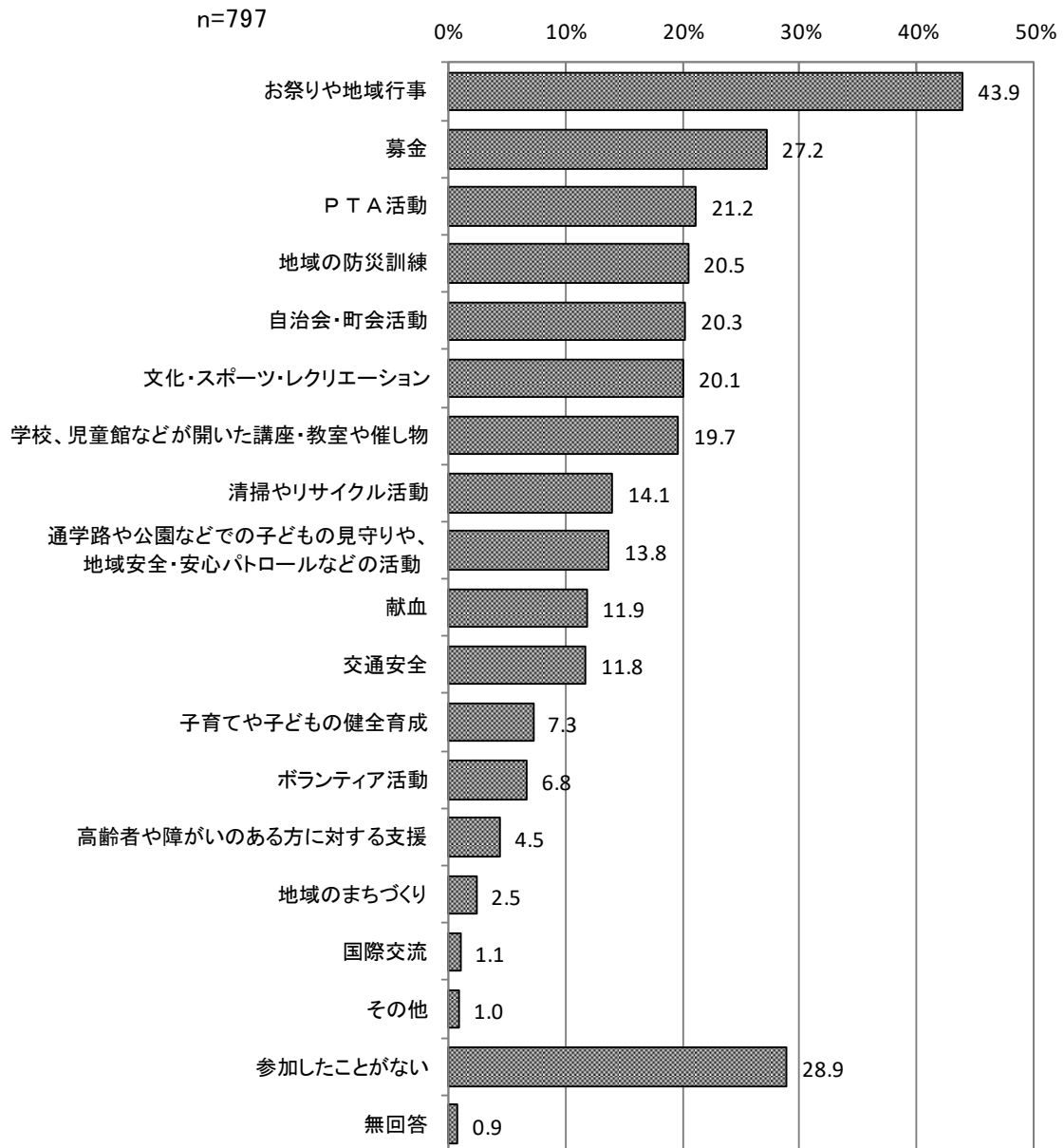
（図表2-2）

(2) 参加したことがある地域活動

◎ 「お祭りや地域行事」が4割前半で最も高くなっている

問2 今まで、大田区内の地域活動に一度でも参加したことがありますか。参加したことがある活動をお答えください。(〇はいくつでも)

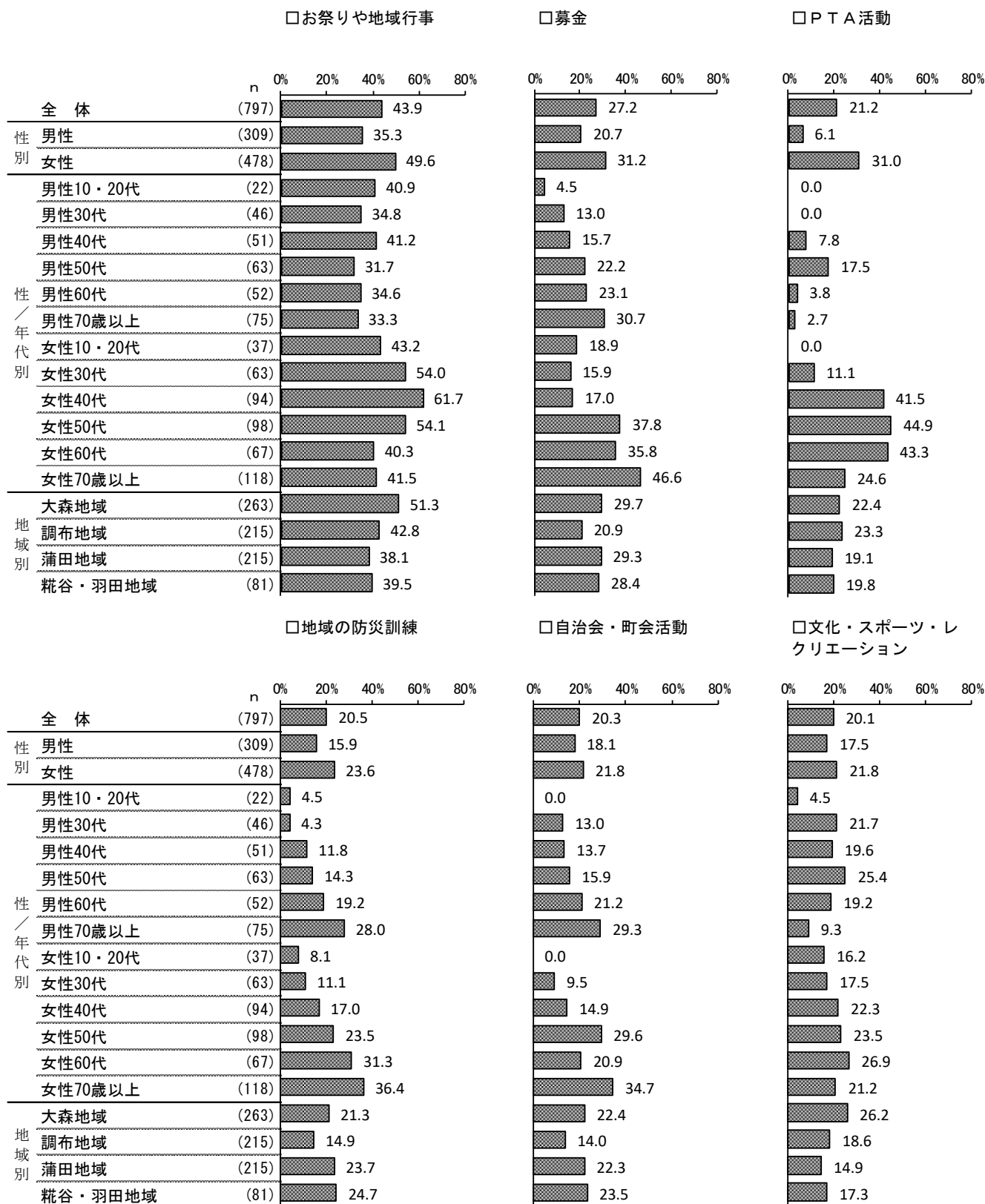
図表2-3 参加したことがある地域活動



今まで参加したことがある大田区内の地域活動を聞いたところ、「お祭りや地域行事」が43.9%で最も高く、次いで、「募金」(27.2%)、「P T A 活動」(21.2%) などとなっている。

一方、「参加したことがない」は28.9%となっている。(図表2-3)

図表2-4 参加したことがある地域活動（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



今まで参加したことがある大田区内の地域活動について、上位6項目を性別で見ると、「お祭りや地域行事」では男性(35.3%)、女性(49.6%)、「募金」では男性(20.7%)、女性(31.2%)、「PTA活動」では、男性(6.1%)、女性(31.0%)と、それぞれ女性が男性を14.3ポイント、10.5ポイント、24.9ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「お祭りや地域行事」では女性40代が61.7%で他の年代より高く、全ての年代で女性が男性を上回っている。「募金」では女性70歳以上が46.6%で他の年代より高くなっている。「PTA活動」は女性の40~60代が4割台となっている。「地域の防災訓練」では男女ともに年代が上がるにつれ高く、全ての年代で女性が男性を上回っている。

地域別で見ると、「お祭りや地域行事」では大森地域が51.3%となっている。(図表2-4)

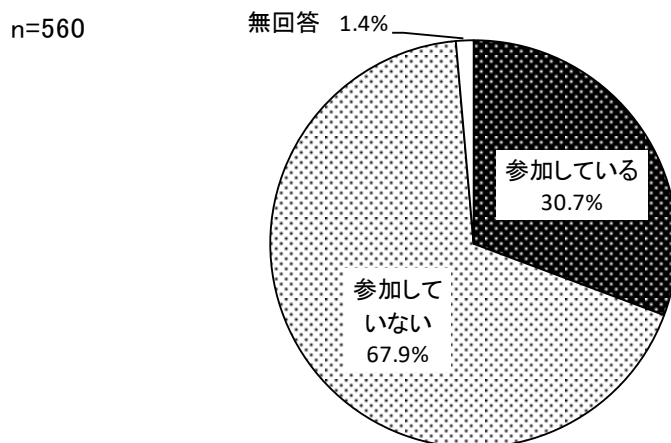
(3) 現在の地域活動への参加状況

◎ 「参加している」は約3割となっている

【問2で「1」～「17」と回答された方（大田区内の地域活動に参加したことがある方）】

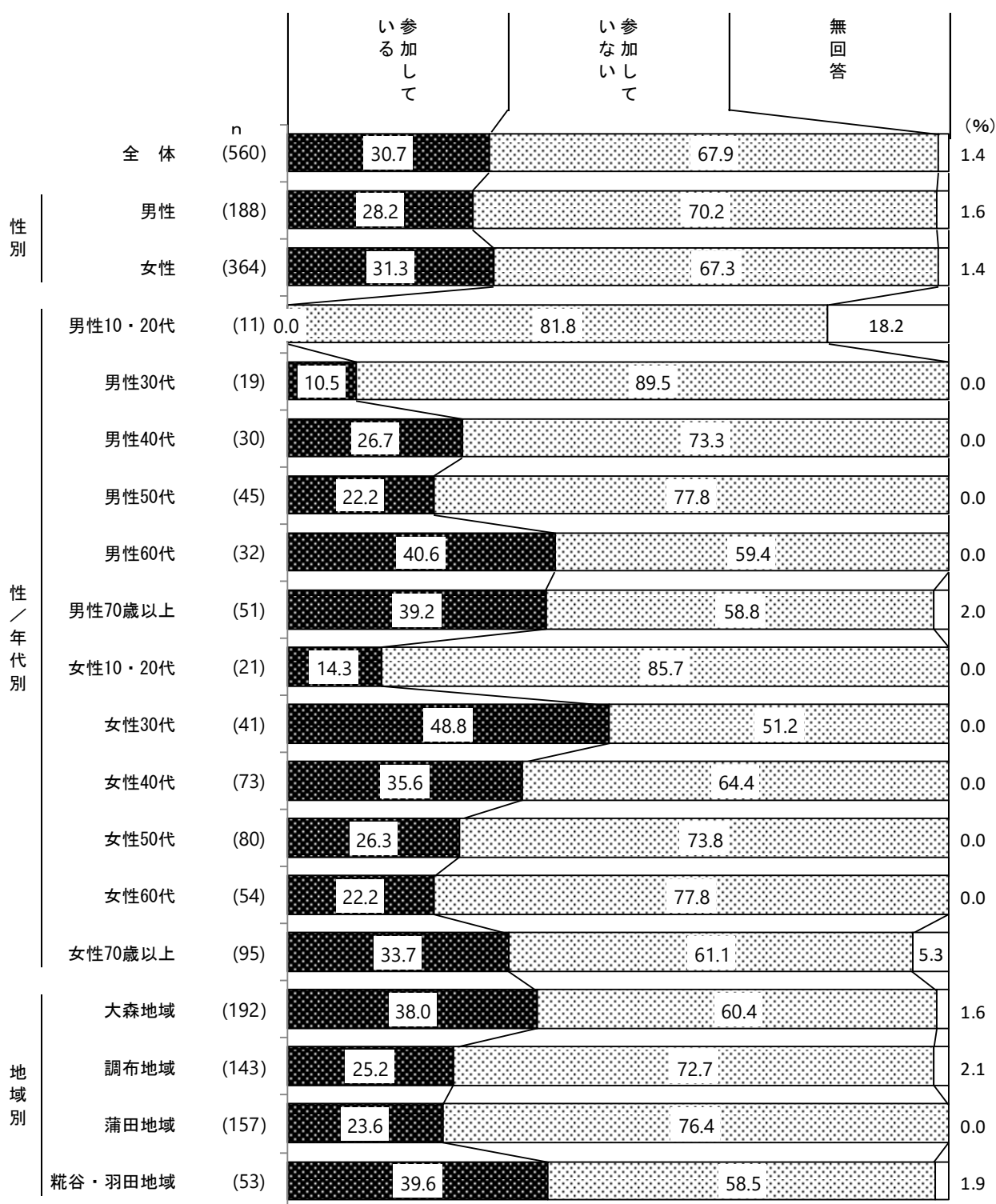
問2-1 現在、地域活動に参加していますか。（○は1つ）

図表2-5 現在の地域活動への参加状況



大田区内の地域活動に参加したことがある方に現在の参加状況を聞いたところ、「参加している」が30.7%、「参加していない」が67.9%となっている。（図表2-5）

図表 2-6 現在の地域活動への参加状況（性別・性／年代別・地域別）



現在の地域活動への参加状況について、性別で見ると大きな差異は見られない。

性／年代別で見ると、「参加している」は男性では60代、70歳以上が約4割と高齢層で高く、女性では30代が48.8%で最も高くなっている。

地域別で見ると、大森地域、糀谷・羽田地域が3割後半となっている。(図表2-6)

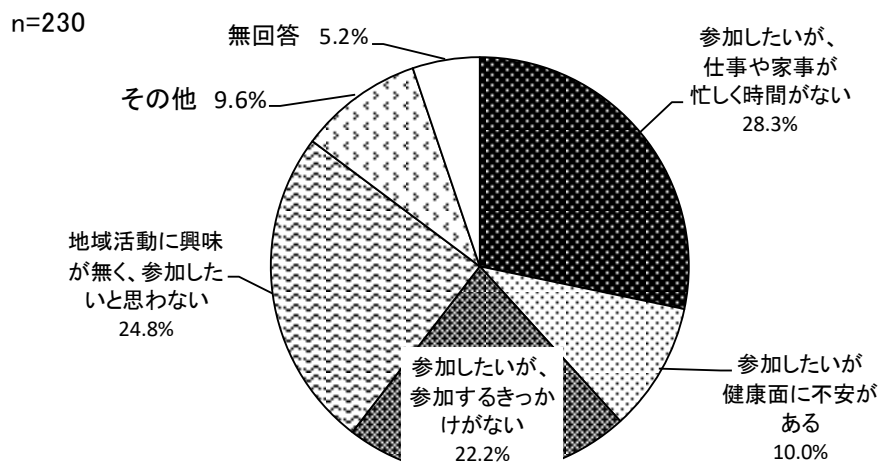
(4) 地域活動に参加しない理由

◎ 「参加したいが、仕事や家事が忙しく時間がない」が2割後半で最も高くなっている

【問2で「18. 参加したことがない」と回答された方】

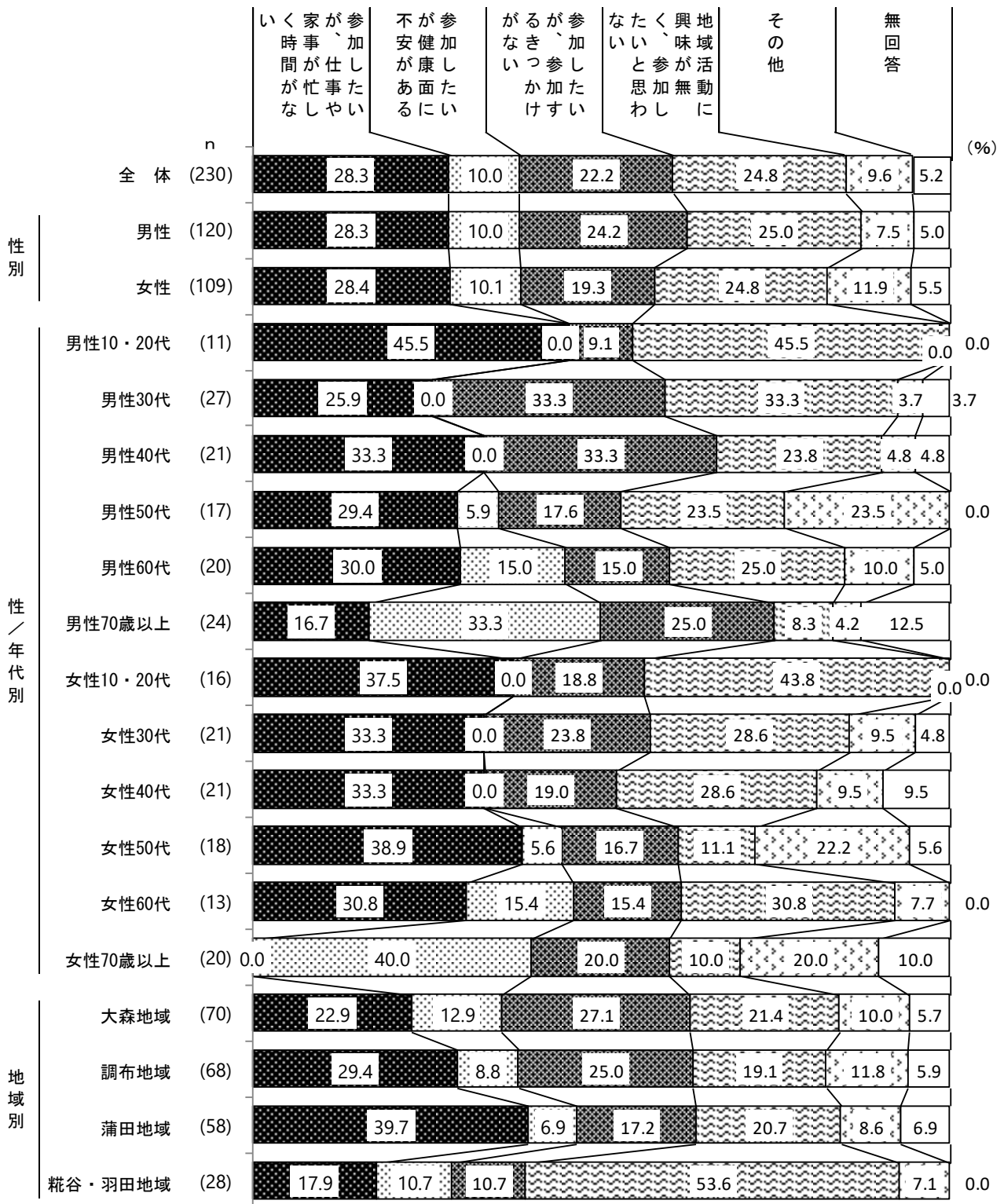
問2-2 地域活動に参加していない最も大きな理由は何ですか。(○は1つ)

図表2-7 地域活動に参加しない理由



大田区内の地域活動に参加したことがない方に、参加していない最も大きな理由を聞いたところ、「参加したいが、仕事や家事が忙しく時間がない」が28.3%で最も高く、次いで、「地域活動に興味無く、参加したいと思わない」(24.8%)、「参加したいが、参加するきっかけがない」(22.2%) などとなっている。(図表2-7)

図表2-8 地域活動に参加しない理由（性別・性/年代別・地域別）



地域活動に参加しない理由について、性別で見ると、男女ともに「参加したいが、仕事や家事が忙しく時間がない」が最も高くなっている。

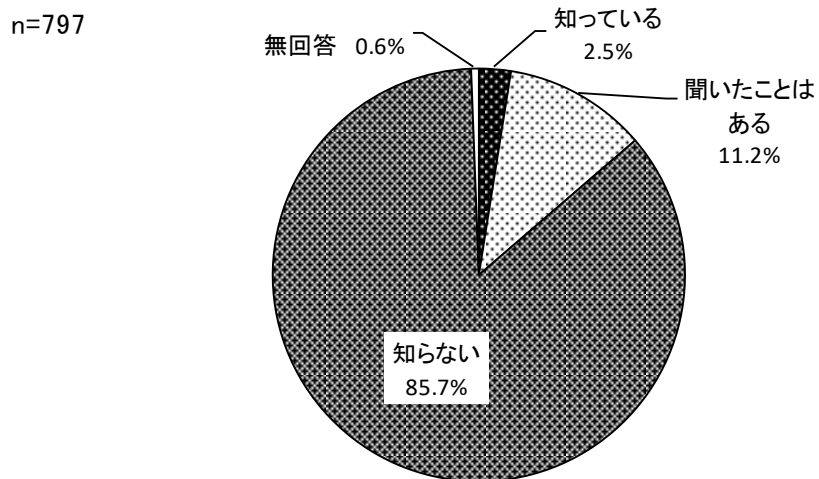
地域別で見ると、「参加したいが、仕事や家事が忙しく時間がない」は蒲田地域が39.7%、調布地域が29.4%、「参加したいが、参加するきっかけがない」は大森地域が27.1%、調布地域が25.0%となっている。(図表2-8)

(5) 区民活動情報サイト「オーちゃんネット」の認知度

◎ 「知らない」が8割半ばとなっている

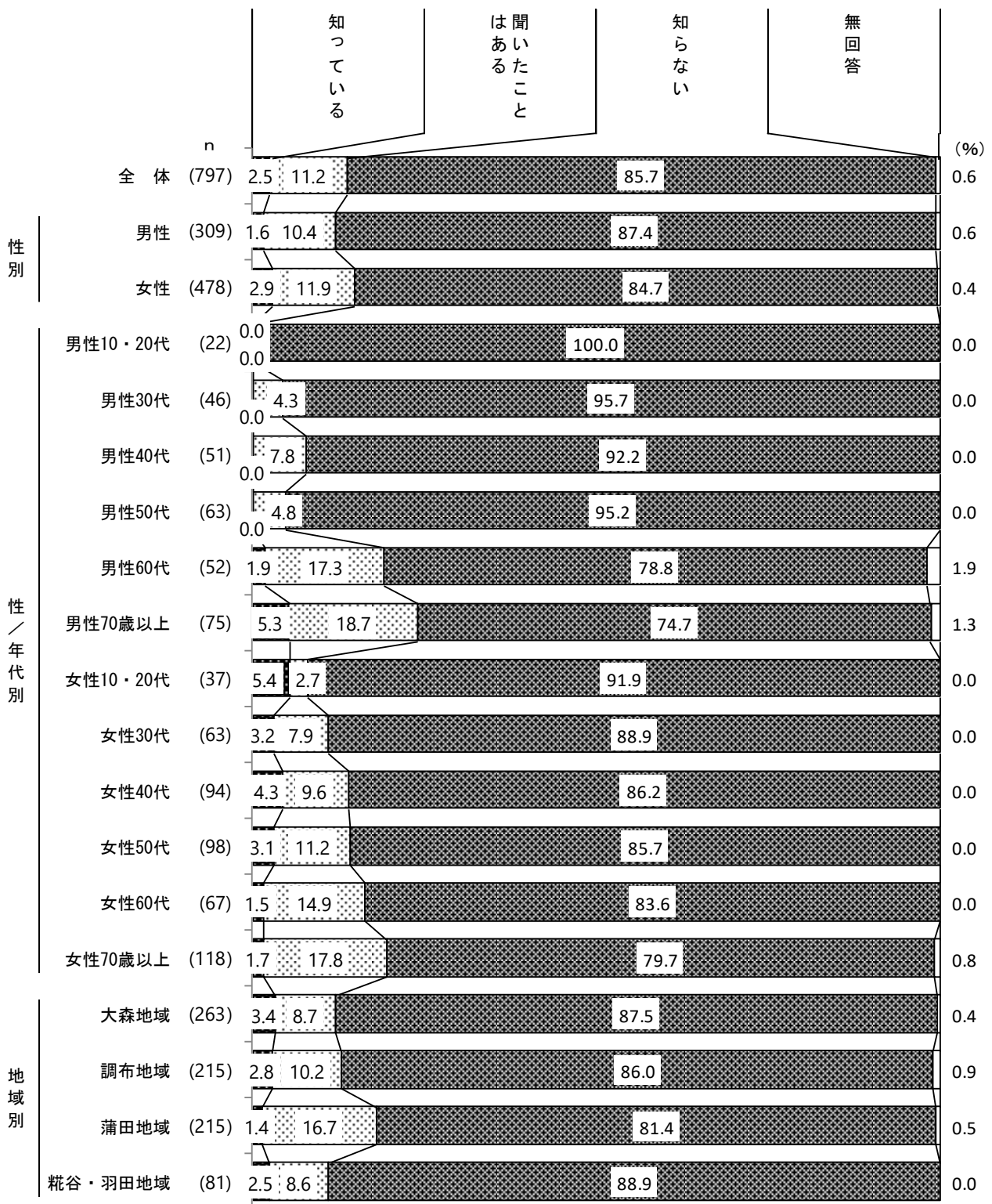
問3 地域活動の情報を発信する区民活動情報サイト「オーちゃんネット」を知っていますか。
(〇は1つ)

図表2-9 区民活動情報サイト「オーちゃんネット」の認知度



区民活動情報サイト「オーちゃんネット」を知っているか聞いたところ、「知っている」が2.5%、「聞いたことはある」が11.2%、「知らない」が85.7%となっている。(図表2-9)

図表2-10 区民活動情報サイト「オーちゃんネット」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



区民活動情報サイト「オーちゃんネット」の認知度について、性別で見ると、大きな差異は見られない。

性／年代別で見ると、「聞いたことはある」は男女ともに年代が上がるにつれ高くなっている。

地域別で見ると、「聞いたことはある」は蒲田地域で16.7%となっている。(図表2-10)

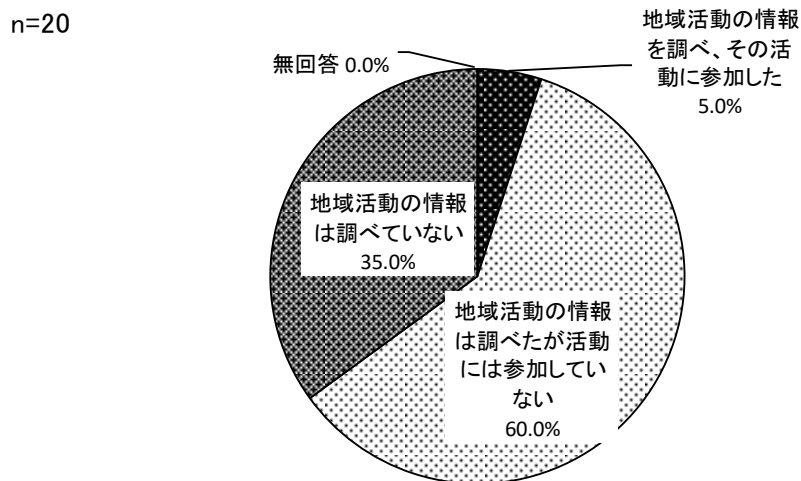
(6) 区民活動情報サイト「オーちゃんネット」の利用状況

◎ 「地域活動の情報は調べたが活動には参加していない」が6割となっている

【問3で「1. 知っている」と回答された方】

問3-1 区民活動情報サイト「オーちゃんネット」で大田区内の地域活動の情報を調べたことがありますか。(○は1つ)

図表2-11 区民活動情報サイト「オーちゃんネット」の利用状況



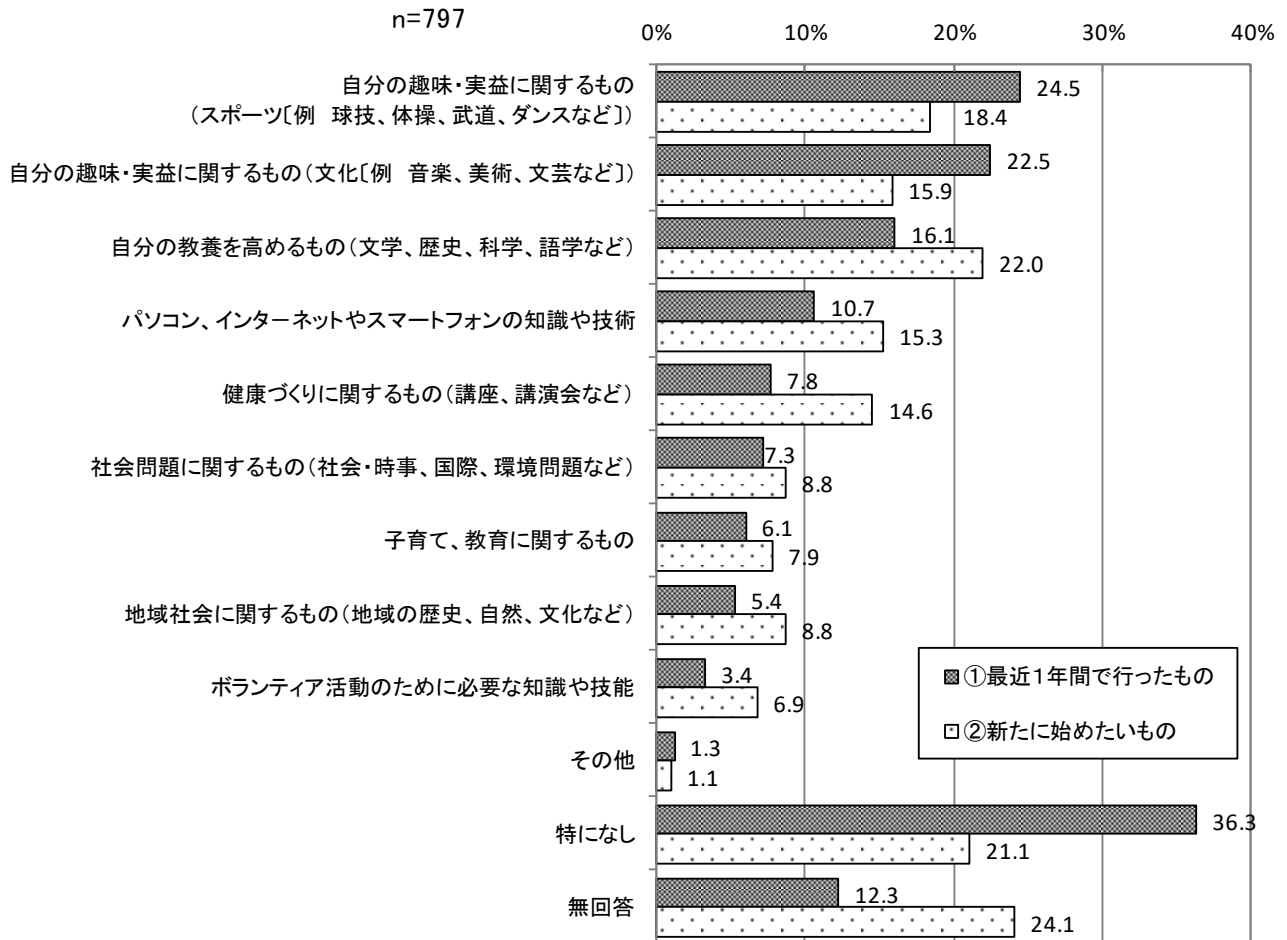
区民活動情報サイト「オーちゃんネット」を知っている方に利用状況を聞いたところ、「地域活動の情報を調べ、その活動に参加した」が5.0%、「地域活動の情報は調べたが活動には参加していない」が60.0%、「地域活動の情報は調べていない」が35.0%となっている。(図表2-11)

(7) 最近1年間の生涯学習の活動と新たに始めたいもの

- ◎ 行った活動は「自分の趣味・実益に関するもの（スポーツ）」が2割半ば、
 新たに始めたい活動は「自分の教養を高めるもの」が2割前半で最も高くなっている

問4 あなたは、最近1年間にどのような生涯学習の活動を行いましたか。
 また、新たに始めてみたいことはありますか。該当する番号に○を付けてください。
 (「①最近1年間で行ったもの」「②新たに始めたいもの」、それぞれ○はいくつでも)

図表2-12 最近1年間の生涯学習の活動と新たに始めたいもの



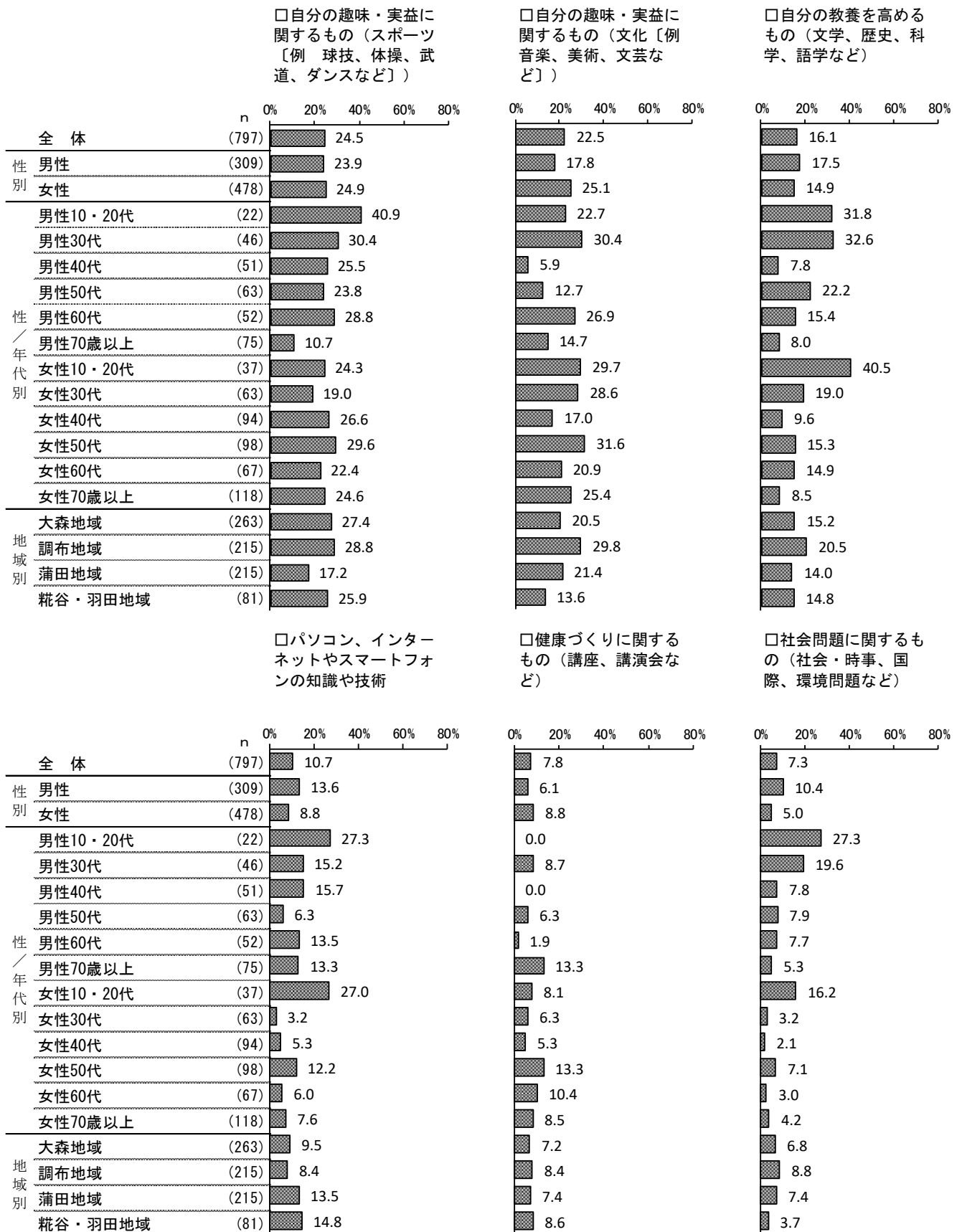
【最近1年間で行った】生涯学習について聞いたところ、「自分の趣味・実益に関するもの（スポーツ）」が24.5%で最も高く、次いで、「自分の趣味・実益に関するもの（文化）」(22.5%)、「自分の教養を高めるもの（文学、歴史、科学、語学など）」(16.1%) などとなっている。

一方、「特になし」は36.3%となっている。

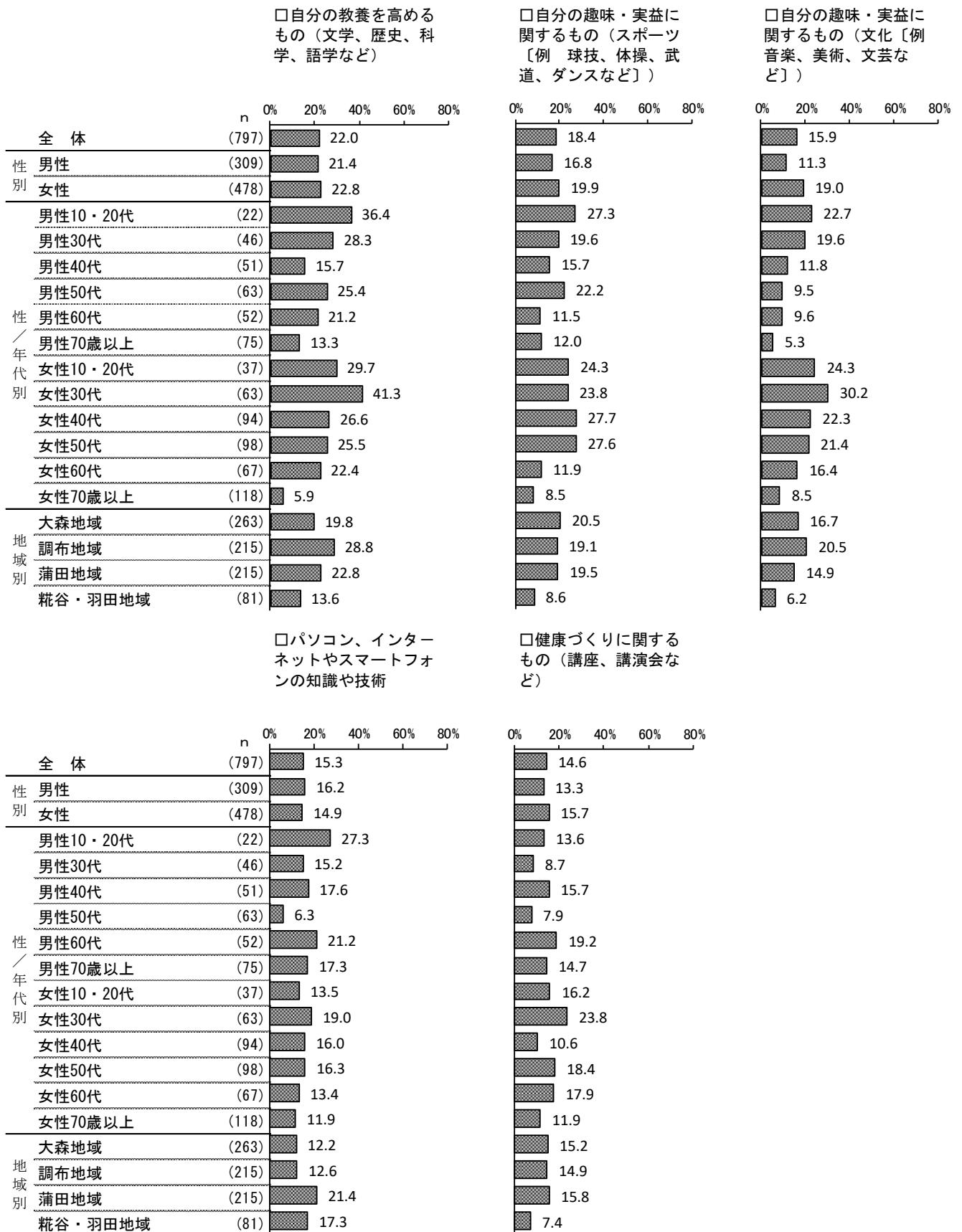
【新たに始めたい】生涯学習について聞いたところ、「自分の教養を高めるもの（文学、歴史、科学、語学など）」が22.0%で最も高く、次いで、「自分の趣味・実益に関するもの（スポーツ）」(18.4%)、「自分の趣味・実益に関するもの（文化）」(15.9%) などとなっている。

一方、「特になし」は21.1%となっている。(図表2-12)

図表2-13 最近1年間の生涯学習の活動（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



図表2-14 新たに始めたい生涯学習の活動（性別・性／年代別・地域別 上位5項目）



【最近1年間で行った】生涯学習について、上位6項目を性別で見ると、「自分の趣味・実益に関するもの（スポーツ）」では大きな差異は見られない。「自分の趣味・実益に関するもの（文化）」では男性（17.8%）、女性（25.1%）と、女性が男性を7.3ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「自分の趣味・実益に関するもの（文化）」では男性は30代、女性は50代が他の年代より高くなっている。「自分の教養を高めるもの（文学、歴史、科学、語学など）」では女性10・20代が40.5%、男性30代が32.6%で他の年代より高くなっている。

地域別で見ると、「自分の趣味・実益に関するもの（文化）」では調布地域が29.8%となっている。
(図表2-13)

【新たに始めたい】生涯学習について、上位5項目を性別で見ると、「自分の教養を高めるもの（文学、歴史、科学、語学など）」では大きな差異は見られない。「自分の趣味・実益に関するもの（文化）」では男性（11.3%）、女性（19.0%）と、女性が男性を7.7ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「自分の教養を高めるもの（文学、歴史、科学、語学など）」で女性30代が41.3%で他の年代より高くなっている。「自分の趣味・実益に関するもの（文化）」では、全ての年代で女性が男性を上回っている。

地域別で見ると「自分の教養を高めるもの（文学、歴史、科学、語学など）」では調布地域が28.8%となっている。(図表2-14)

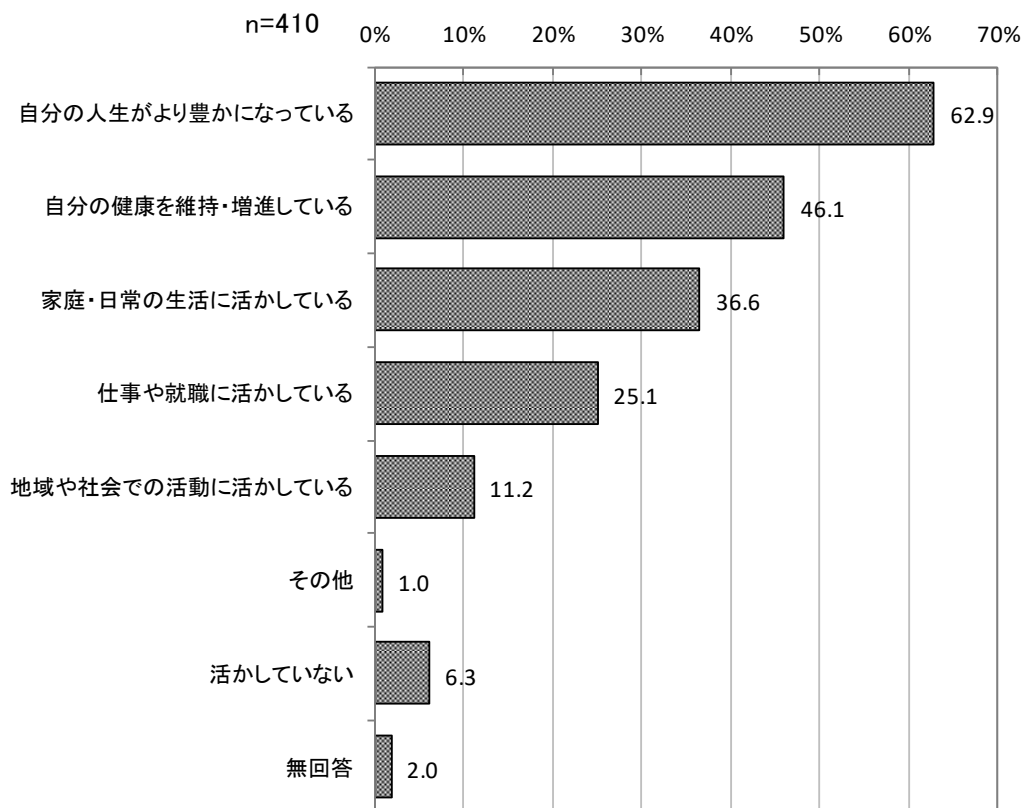
(8) 生涯学習で身に付けた知識・技能・経験を活かしているか

◎ 「自分の人生がより豊かになっている」が6割前半で最も高くなっている

【問4①最近1年間で行ったもので「1」～「10」と回答された方】

問4-1 あなたは生涯学習を通じて身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしていますか。
(〇はいくつでも)

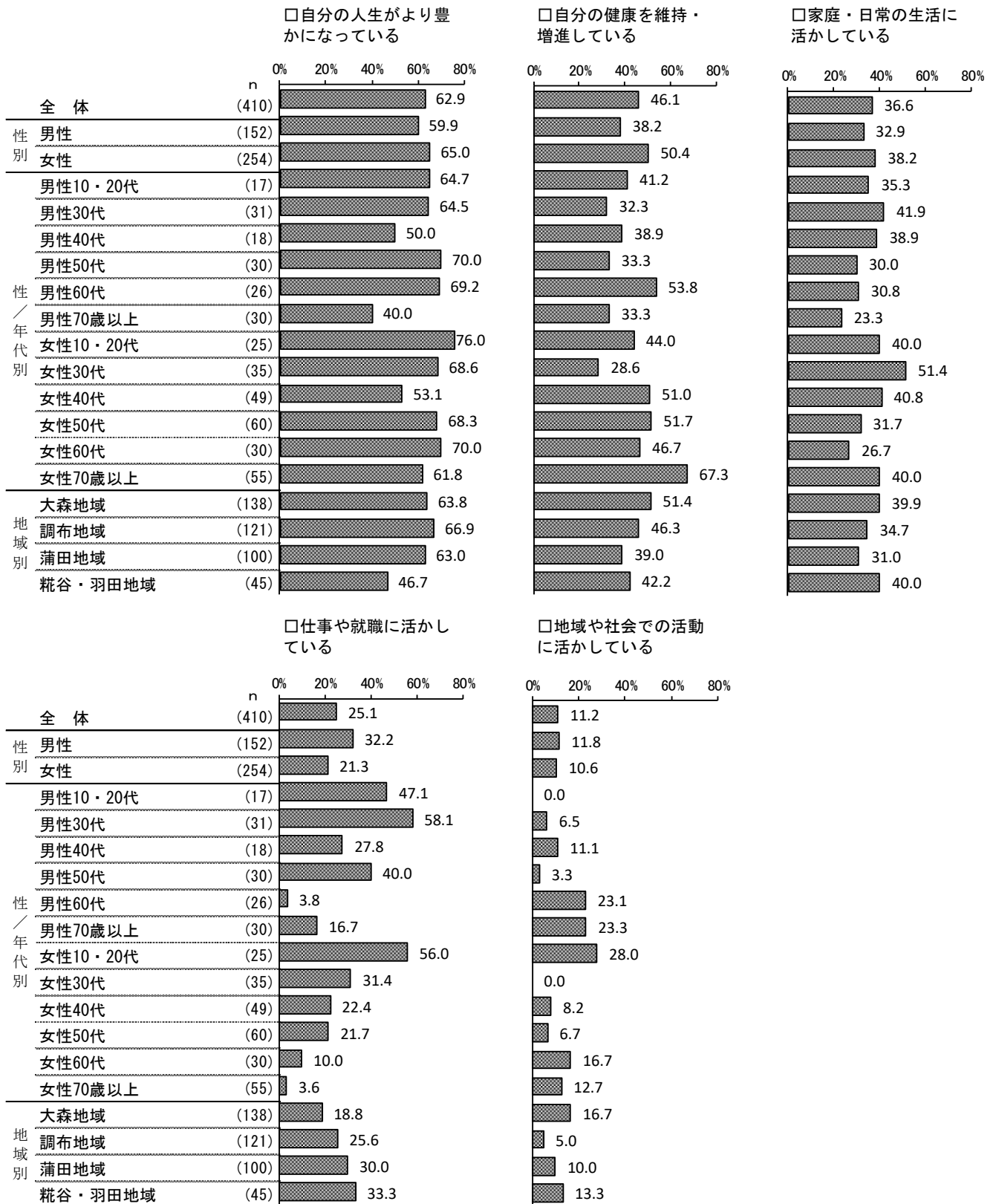
図表2-15 生涯学習で身に付けた知識・技能・経験を活かしているか



最近1年間に生涯学習の活動を行った人に生涯学習で身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」が62.9%で最も高く、次いで、「自分の健康を維持・増進している」(46.1%)、「家庭・日常の生活に活かしている」(36.6%)となっている。

一方、「活かしていない」は6.3%となっている。(図表2-15)

図表2-16 生涯学習で身に付けた知識・技能・経験を活かしているか
(性別・性/年代別・地域別 上位5項目)



最近1年間に生涯学習の活動を行った人が身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしているかについて、上位5項目を性別で見ると「自分の人生がより豊かになっている」、「自分の健康を維持・増進している」、「家庭・日常の生活に活かしている」では女性が男性を上回っている。(図表2-16)

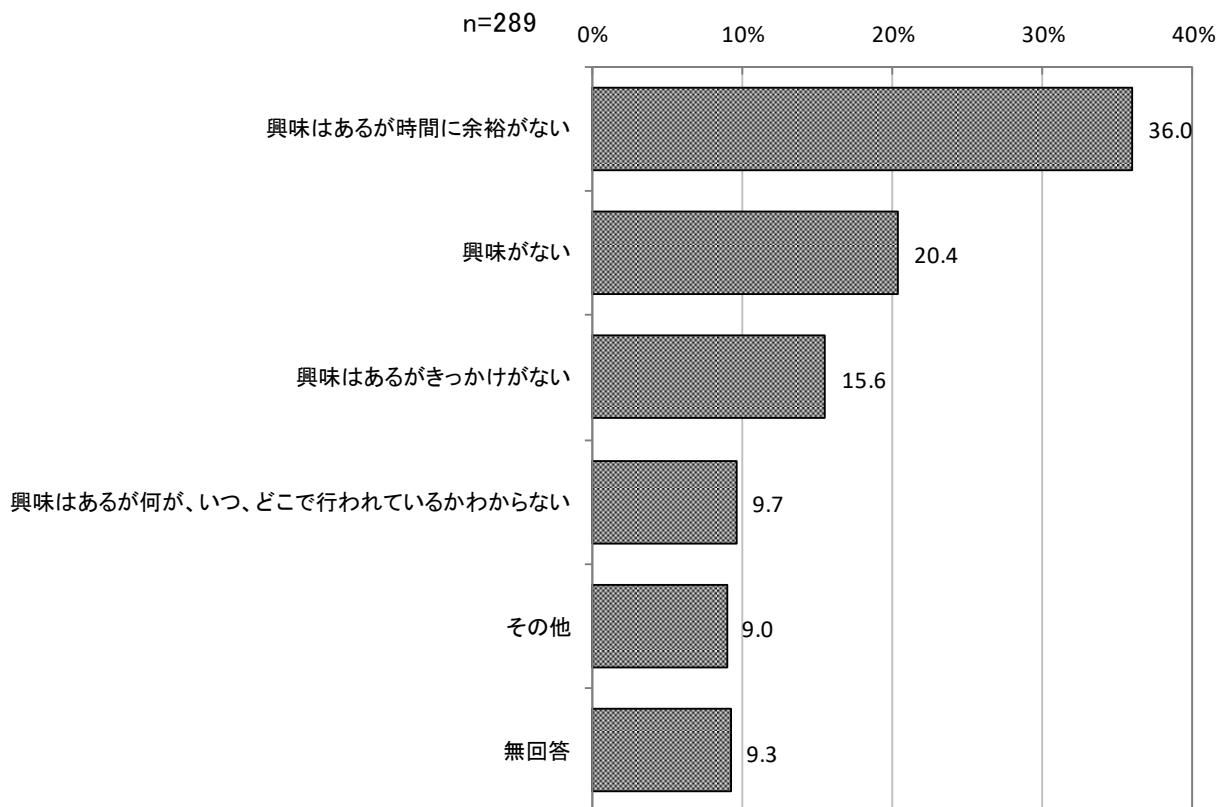
(9) 生涯学習の活動をしていない理由

◎ 興味はあるが時間に余裕がない」が3割半ばで最も高くなっている

【問4①最近1年間で行ったもので「11. 特になし」と回答された方】

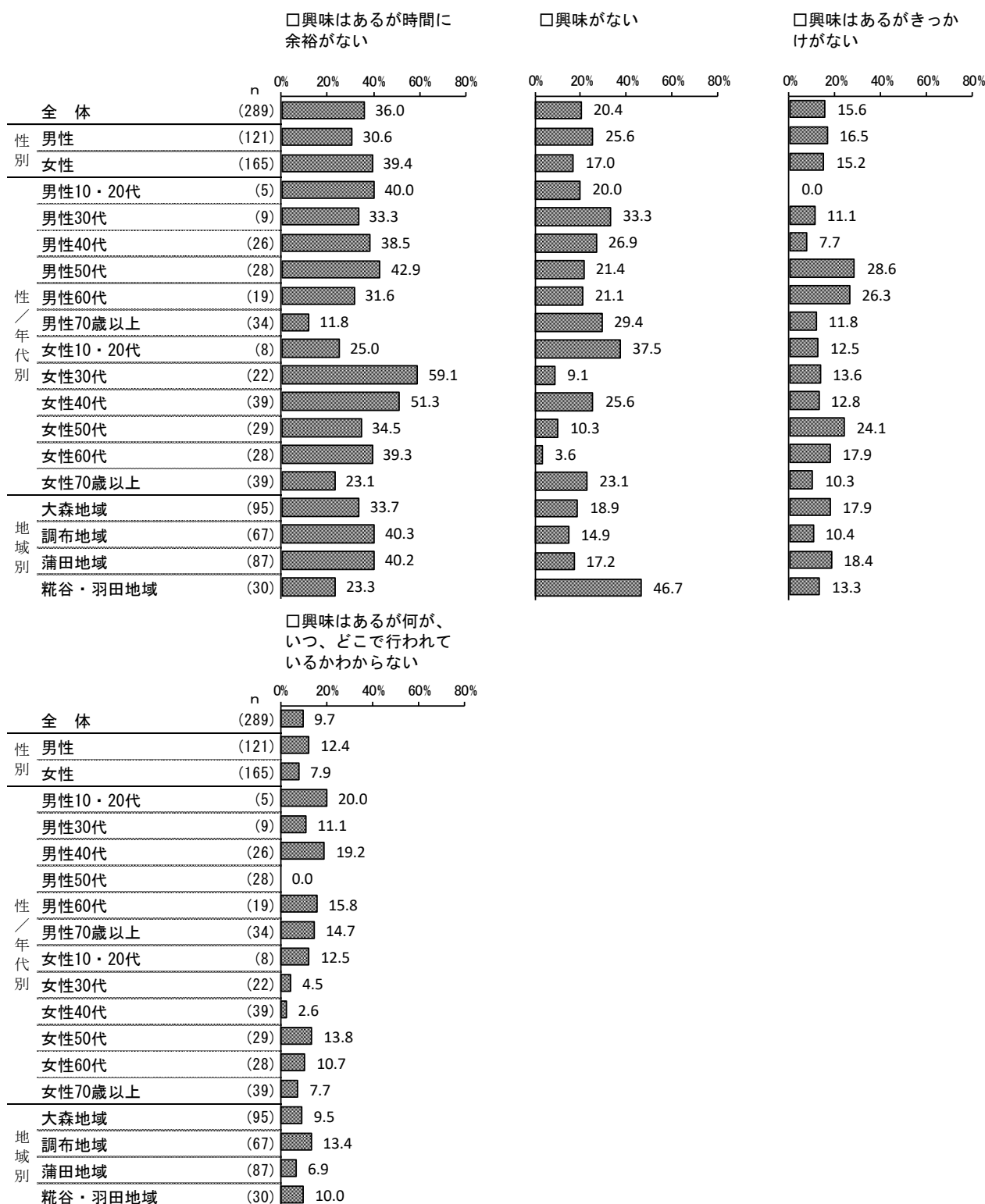
問4-2 生涯学習の活動をされていない理由は何ですか。(○は1つ)

図表2-17 生涯学習の活動をしていない理由



最近1年間で行った生涯学習の活動が特にない人に活動をしていない理由を聞いたところ、「興味はあるが時間に余裕がない」が36.0%で最も高く、次いで、「興味がない」(20.4%)、「興味はあるがきっかけがない」(15.6%) などとなっている。(図表2-17)

図表2-18 生涯学習の活動をしていない理由（性別・性／年代別・地域別 上位4項目）



生涯学習の活動をしていない理由について、性別で見ると「興味があるが時間に余裕がない」は男性（30.6%）、女性（39.4%）と、女性が男性を8.8ポイント上回っている。「興味がない」では男性（25.6%）、女性（17.0%）と、男性が女性を8.6ポイント上回っている。

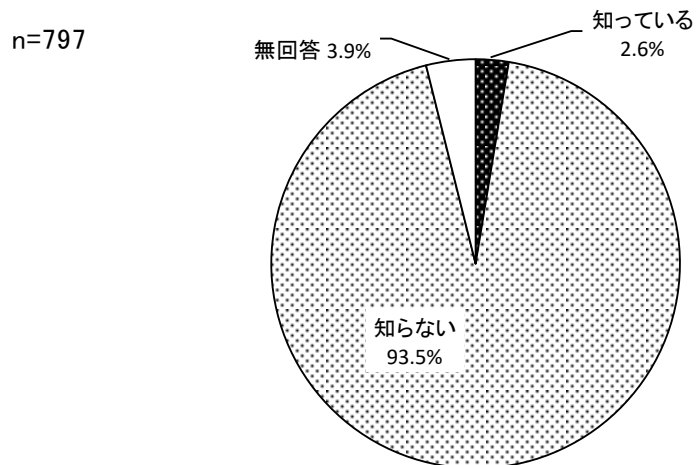
地域別で見ると、「興味があるが時間に余裕がない」では、調布地域、蒲田地域が4割台となっている。（図表2-18）

(10) 生涯学習情報紙「WaKuWaKuおおた」の認知度

◎ 「知らない」が9割前半となっている

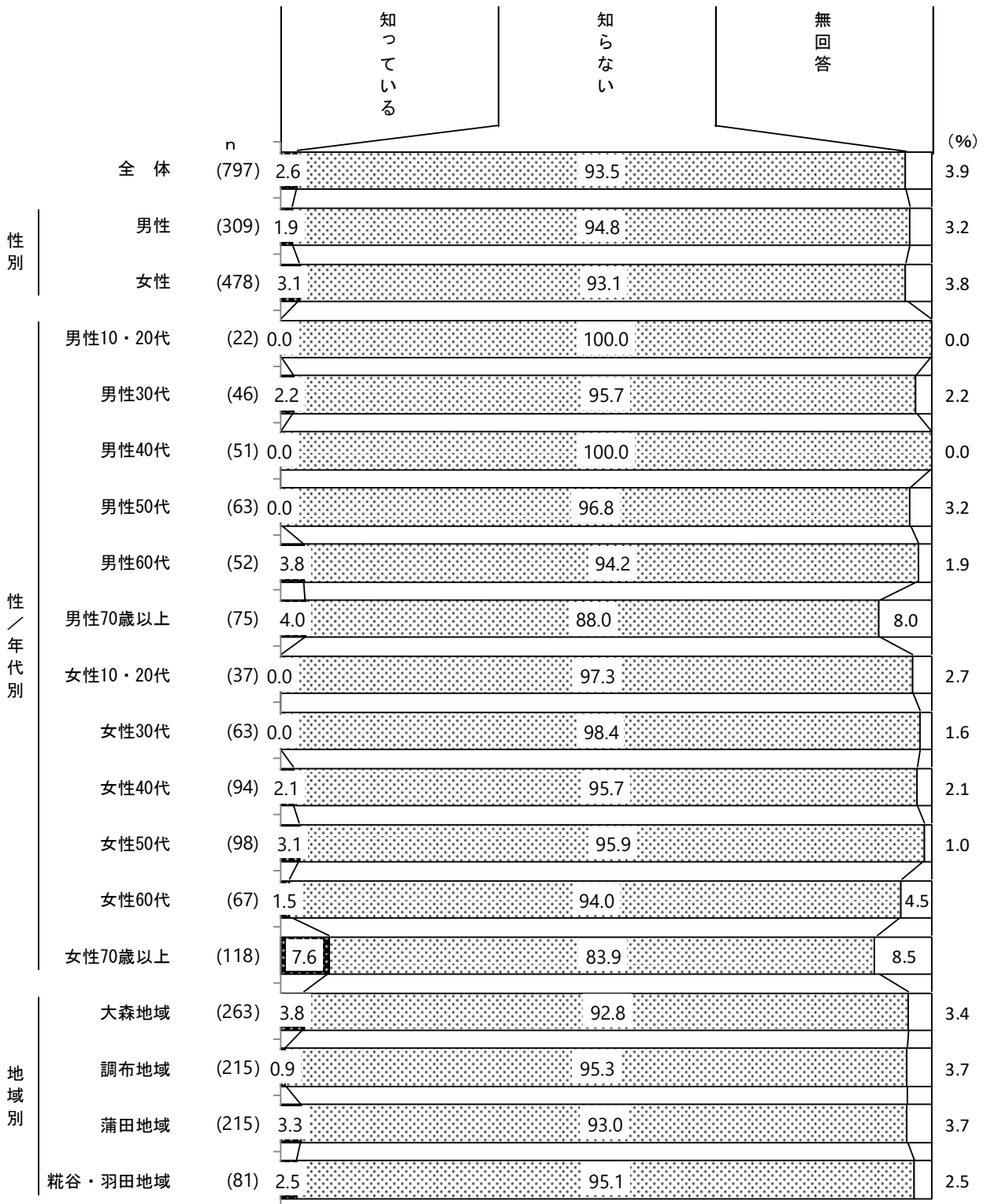
問5 生涯学習情報紙「WaKuWaKuおおた(わくわくおおた)」を知っていますか。(○は1つ)

図表2-19 生涯学習情報紙「WaKuWaKuおおた」の認知度



生涯学習情報誌「WaKuWaKuおおた」を知っているか聞いたところ、「知っている」が2.6%、「知らない」が93.5%となっている。(図表2-19)

図表 2-20 生涯学習情報誌「WaKuWaKuおおた」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



生涯学習情報誌「WaKuWaKuおおた」の認知度について、性別、性／年代別ともに認知度が低くなっている。(図表 2-20)

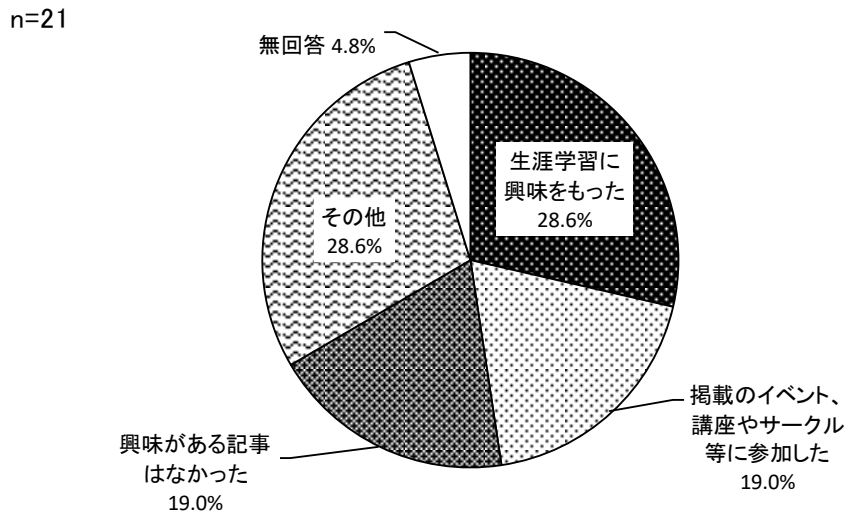
(11) 生涯学習情報紙「WaKuWaKuおおた」について

◎ 「生涯学習に興味をもった」が2割後半となっている

【問5で「1. 知っている」と回答された方】

問5-1 生涯学習情報紙「WaKuWaKuおおた（わくわくおおた）」を読みどのように感じましたか。（○は1つ）

図表2-21 生涯学習情報紙「WaKuWaKuおおた」について



生涯学習情報誌「WaKuWaKuおおた」を知っている人に読んだ感想を聞いたところ、「生涯学習に興味をもった」が28.6%、「掲載のイベント、講座やサークル等に参加した」が19.0%などとなっている。（図表2-21）

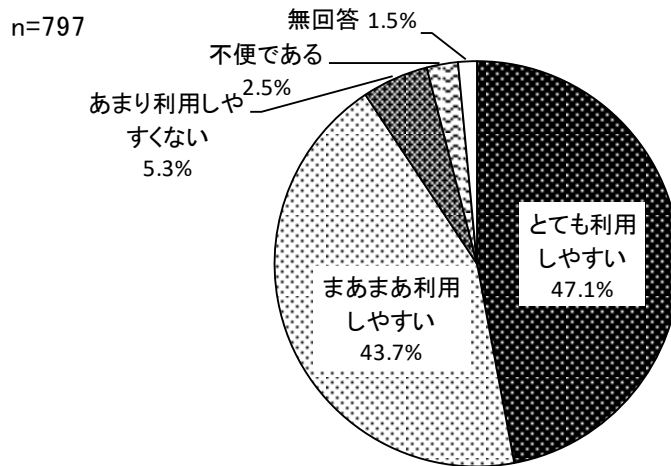
3 公共交通機関・耐震改修について

(1) 公共交通機関の環境

◎ 「とても利用しやすい」が4割後半となっている

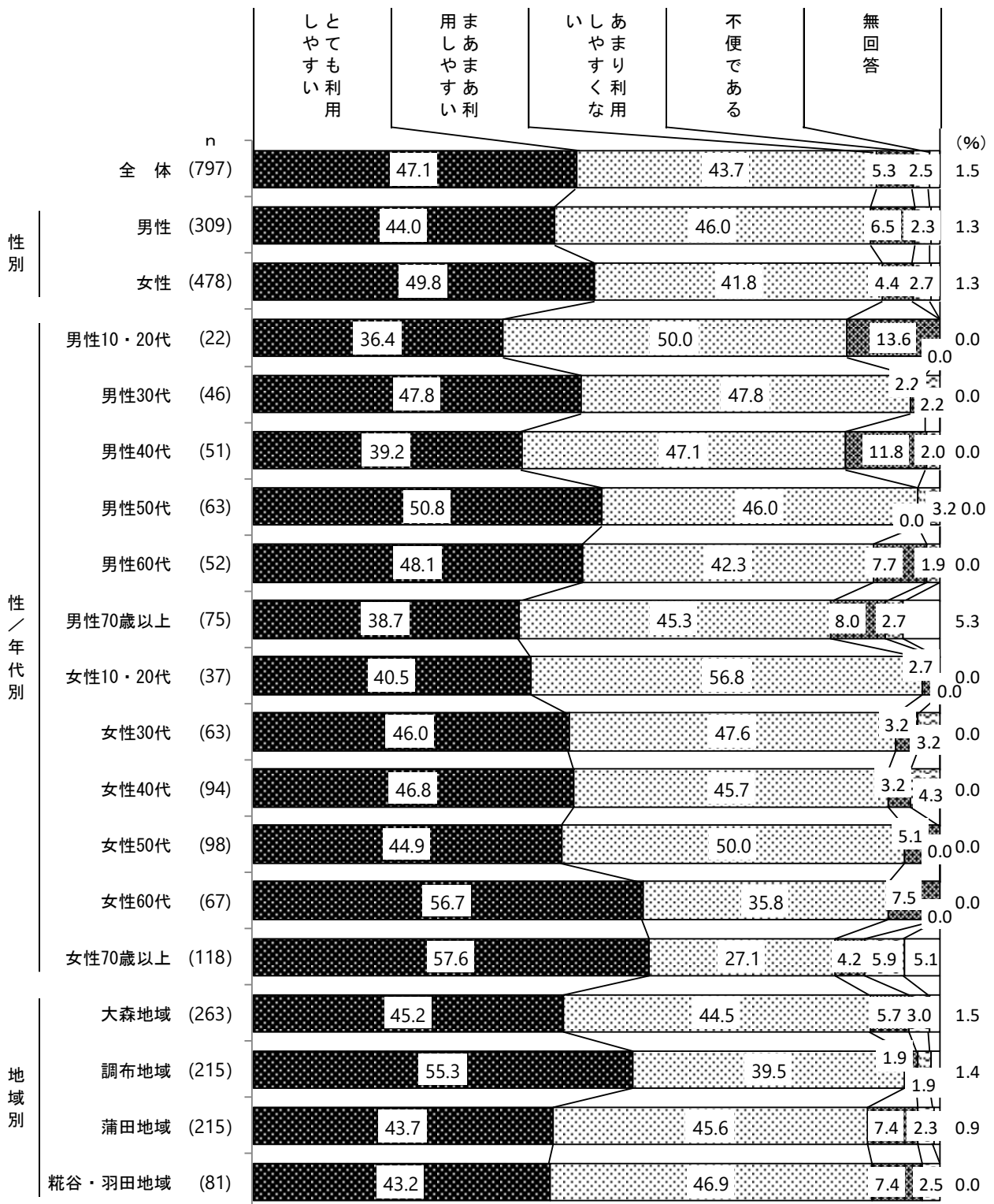
問6 自宅の近くにバス停や駅があるなど、公共交通機関が利用しやすい環境ですか。(○は1つ)

図表3-1 公共交通機関の環境



自宅の近くの公共交通機関の環境について聞いたところ、「とても利用しやすい」が47.1%で最も高く、次いで、「まあまあ利用しやすい」(43.7%)、「あまり利用しやすすくない」(5.3%)、「不便である」(2.5%)となっている。(図表3-1)

図表3-2 公共交通機関の環境（性別・性／年代別・地域別）



公共交通機関の環境について、性別で見ると大きな差異は見られない。

性／年代別で見ると、「とても利用しやすい」は男性50代、女性60代、70歳以上で5割台となっている。

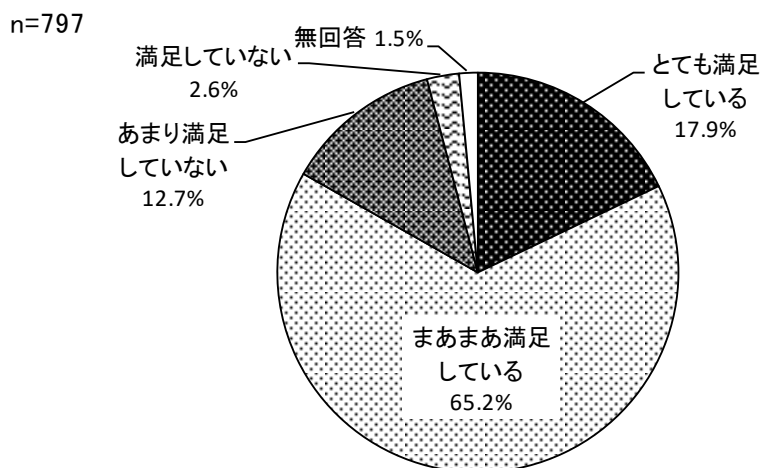
地域別で見ると「とても利用しやすい」は調布地域で55.3%となっている。(図表3-2)

(2) 大田区の公共交通機関網の満足度

◎ 「まあまあ満足している」が6割半ばで最も高くなっている

問7 大田区内の公共交通機関網に満足していますか。(○は1つ)

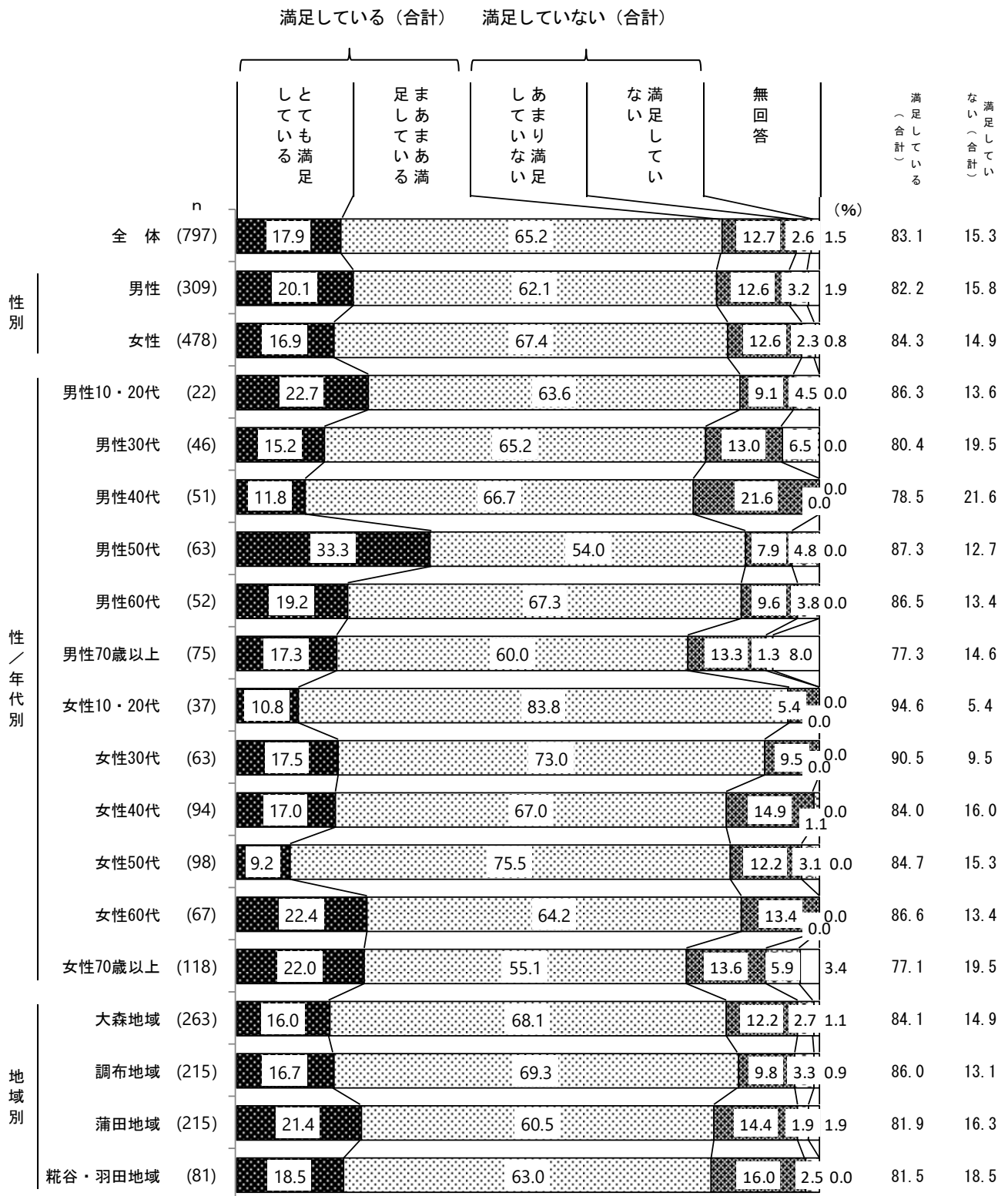
図表3-3 大田区の公共交通機関網の満足度



大田区の公共交通機関網の満足度について聞いたところ、「まあまあ満足している」が65.2%で最も高くなっている。「とても満足している」(17.9%)と合わせた《満足している(合計)》は83.1%となっている。

一方、「あまり満足していない」(12.7%)、「満足していない」(2.6%)を合わせた《満足していない(合計)》は15.3%となっている。(図表3-3)

図表3-4 大田区の公共交通機網の満足度（性別・性／年代別・地域別）



大田区の公共交通機網の満足度について、性別で見ると大きな差異は見られない。

性／年代別で見ると「とても満足している」は男性50代が33.3%で他の年代より高くなっている。

「あまり満足していない」は男性40代が21.6%で他の年代より高くなっている。

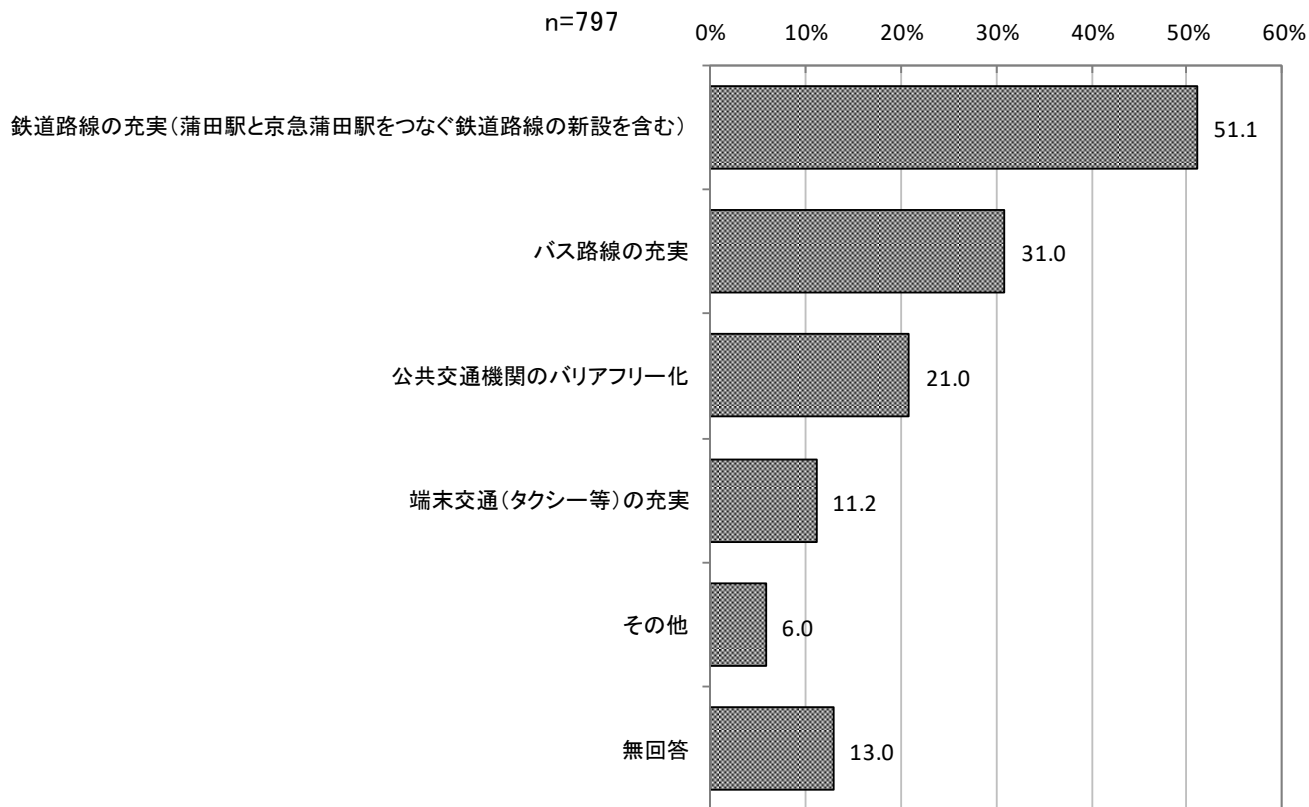
地域別で見ると、全ての地域で《満足している（合計）》が8割台となっている。（図表3-4）

(3) 大田区の公共交通への要望

◎ 「鉄道路線の充実」が約5割で最も高くなっている

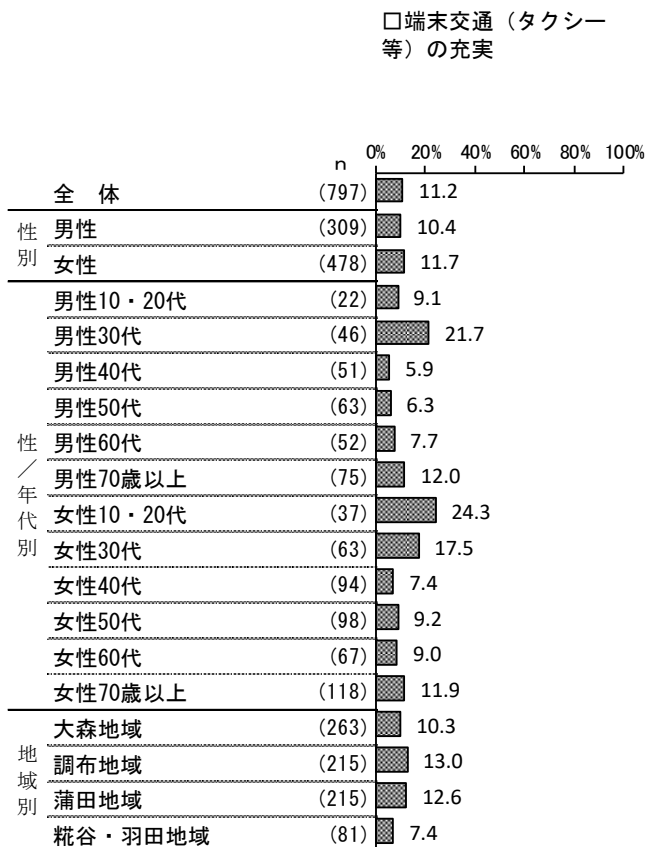
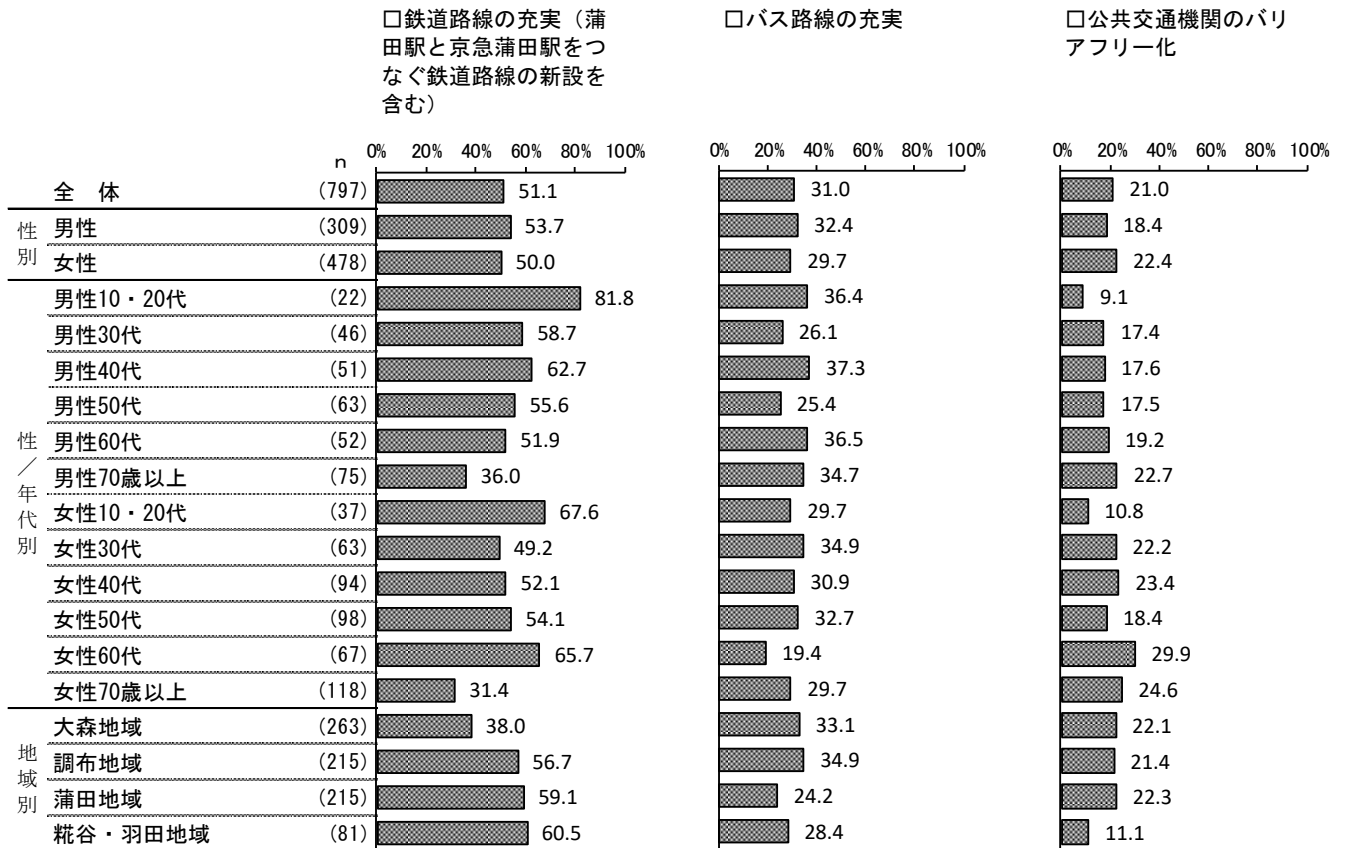
問8 区内の公共交通について、改善を望むものがありますか。(〇はいくつでも)

図表3-5 大田区の公共交通への要望



大田区の公共交通への要望について聞いたところ、「鉄道路線の充実（蒲田駅と京急蒲田駅をつなぐ鉄道路線の 신설を含む）」が51.1%で最も高く、次いで「バス路線の充実」（31.0%）、「公共交通機関のバリアフリー化」（21.0%）などとなっている。（図表3-5）

図表3-6 大田区の公共交通への要望（性別・性/年代別・地域別 上位4項目）



大田区の公共交通機関への要望について、上位4項目を性別では大きな差異は見られない。

性／年代別でみると、「鉄道路線の充実（蒲田駅と京急蒲田駅をつなぐ鉄道路線の新設を含む）」では男女ともに70歳以上が3割台で他の年代より低くなっている。

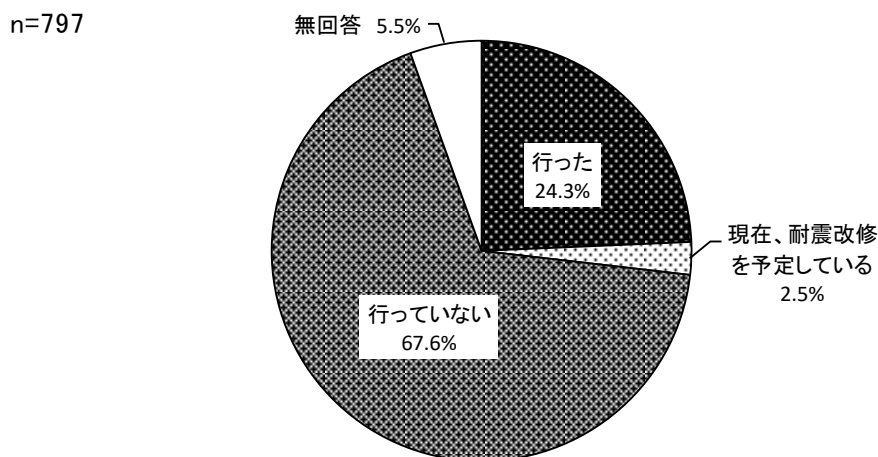
地域別でみると、「鉄道路線の充実（蒲田駅と京急蒲田駅をつなぐ鉄道路線の新設を含む）」では大森地域が38.0%となっている。（図表3-6）

(4) 住まいや所有建築物の耐震改修状況

◎ 「行った」は2割半ばとなっている

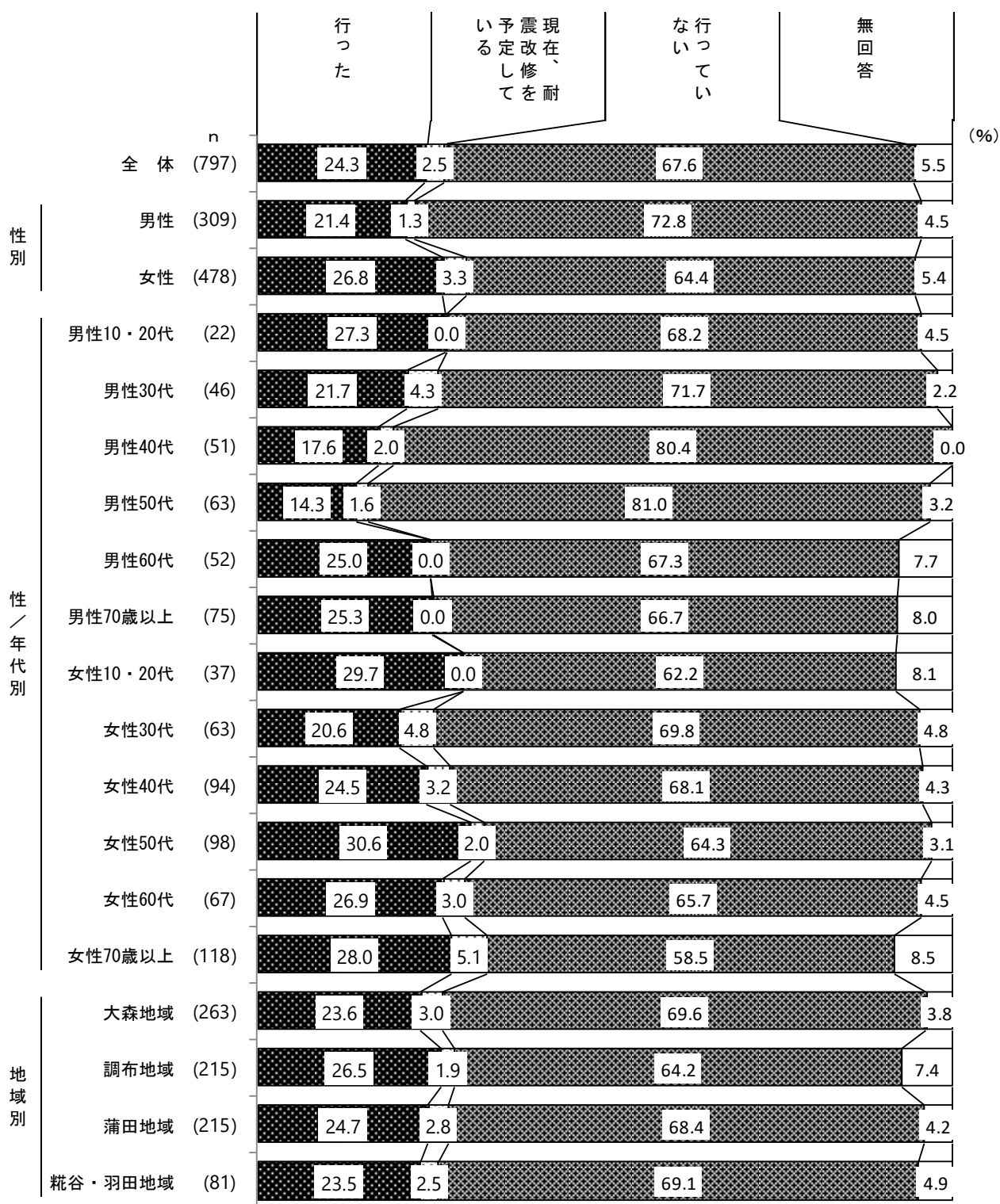
問9 あなたは、現在のお住まいや所有している建物の耐震改修を行いましたか。(○は1つ)

図表3-7 住まいや所有建築物の耐震改修状況



住まいや所有建築物の耐震改修状況を聞いたところ、「行った」が24.3%、「現在、耐震改修を予定している」が2.5%、「行ってない」が67.6%となっている。(図表3-7)

図表3-8 住まいや所有建築物の耐震改修状況（性別・性/年代別・地域別）



住まいや所有建築物の耐震改修状況について、性別で見ると大きな差異は見られない。性/年代別で見ると「行った」は女性50代で30.6%と他の年代より高くなっている。地域別で見ると、全ての地域で「行った」が2割台となっている。(図表3-8)

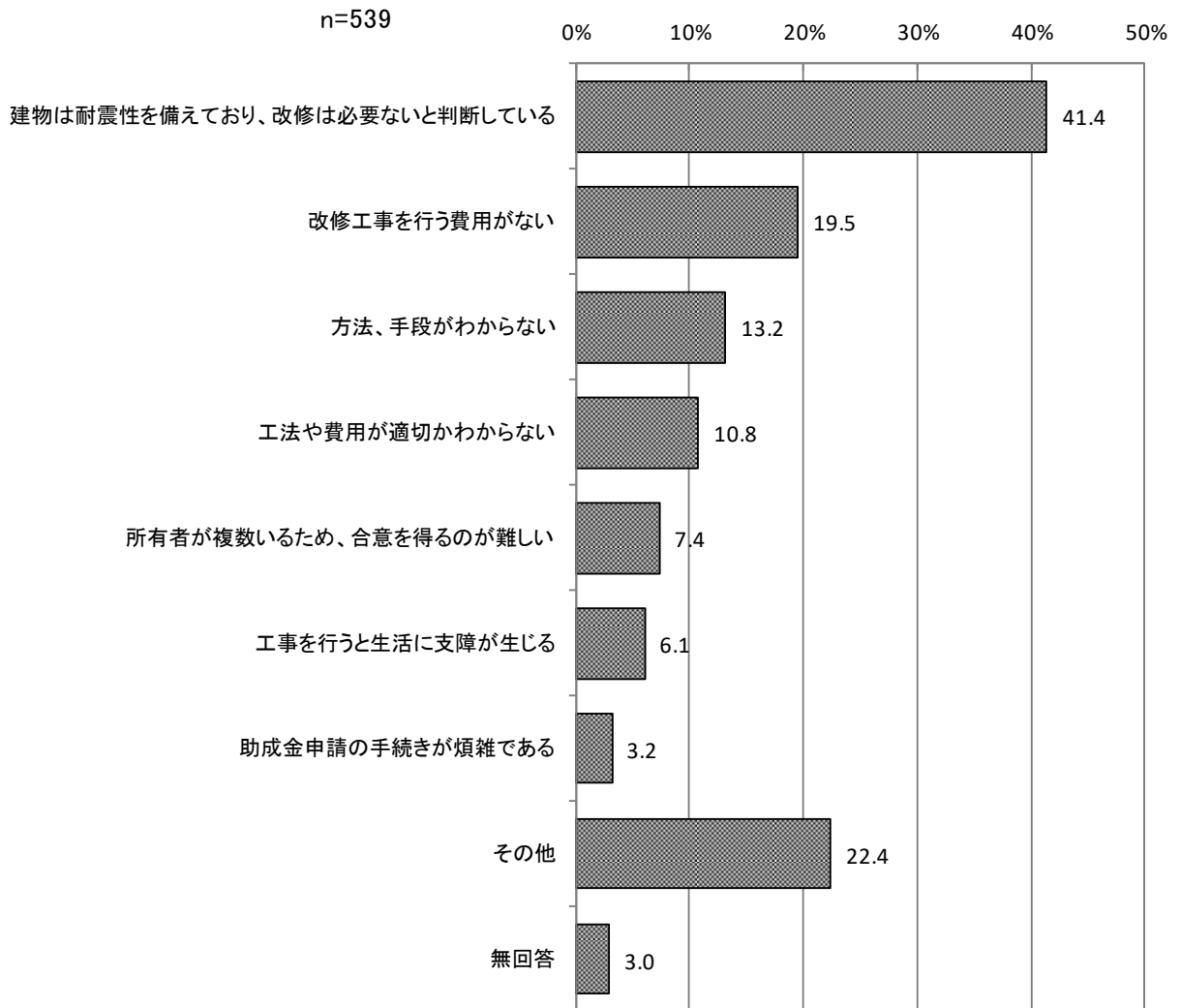
(5) 耐震改修を行わない理由

◎ 「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」が約4割で最も高くなっている

【問9で「3. 行っていない」と回答された方】

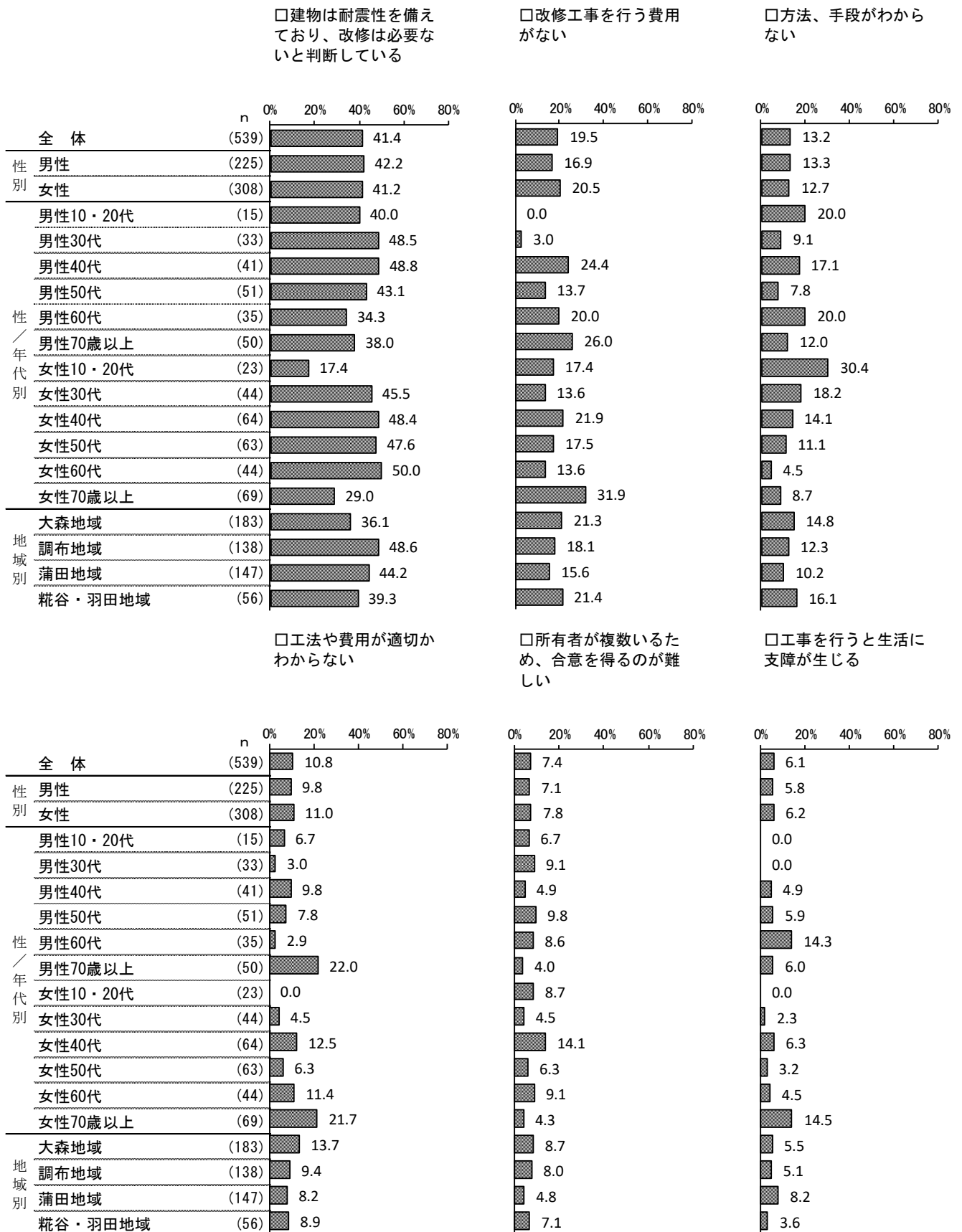
問9-1 耐震改修を行っていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図表3-9 耐震改修を行わない理由



建物の耐震改修を行っていない人にその理由を聞いたところ、「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」が41.4%で最も高く、次いで、「改修工事を行う費用がない」(19.5%)、「方法、手段がわからない」(13.2%)となっている。(図表3-9)

図表 3-10 耐震改修を行わない理由（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



耐震改修を行わない理由について、上位6項目を性別で見ると「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」では男女ともに4割台で大きな差異は見られない。

性／年代別で見ると「工法や費用が適切かわからない」は男女ともに70歳以上が2割台で他の年代より高くなっている。

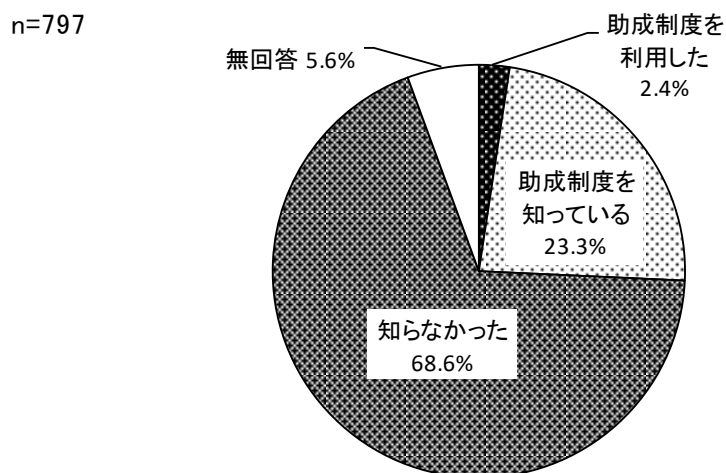
地域別で見ると、「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」では調布地域、蒲田地域が4割台となっている。(図表3-10)

(6) 耐震改修の助成制度について

◎ 「知らなかった」が6割後半となっている

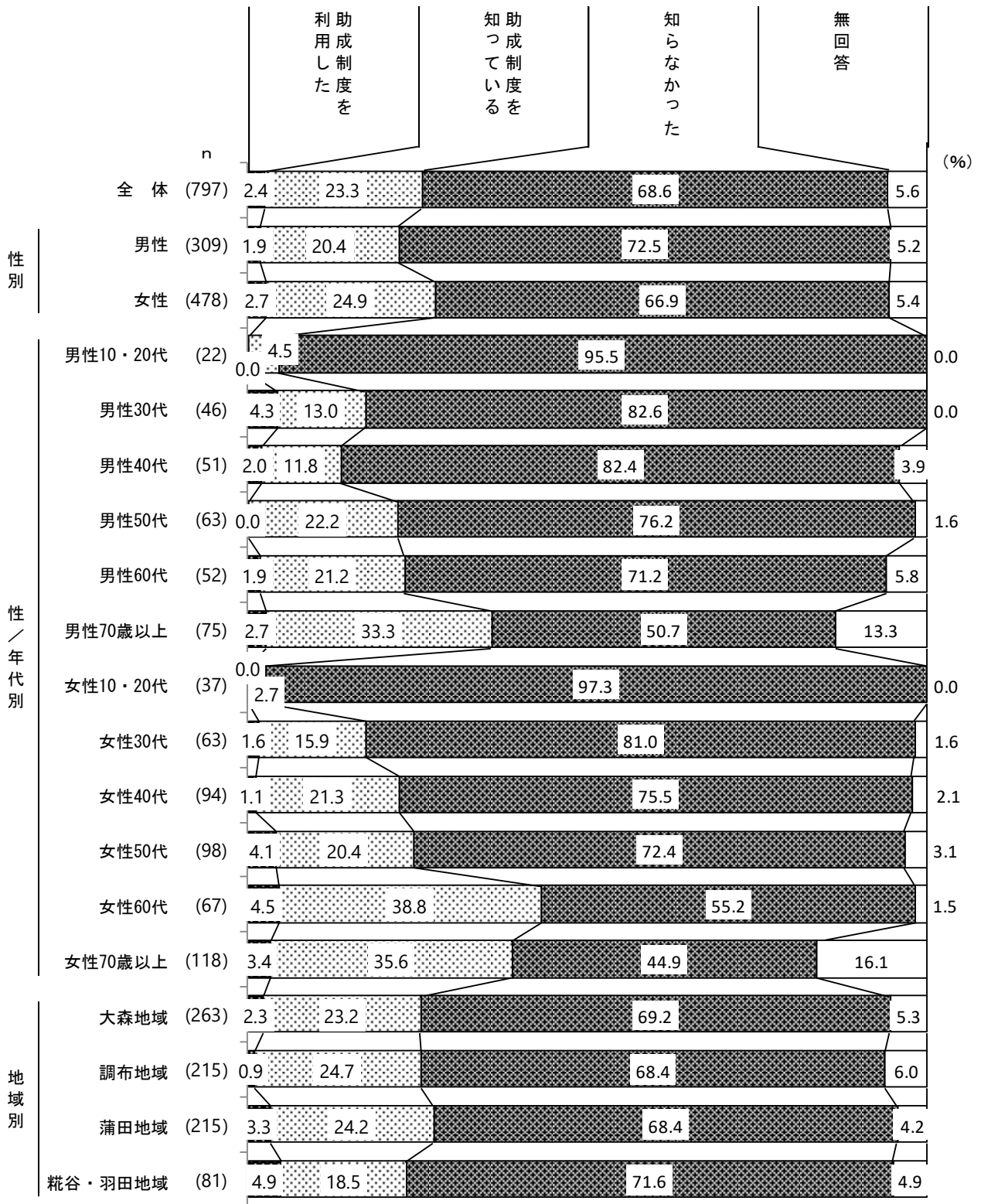
問 10 大田区は昭和 56 年 5 月 31 日以前に新築着工した建物を耐震改修する場合、経費の一部を負担する助成制度を設けています。助成制度があることをご存知でしたか。(〇は1つ)

図表 3-11 耐震改修の助成制度について



耐震改修の助成制度について聞いたところ、「助成制度を利用した」が2.4%、「助成制度を知っている」が23.3%、「知らなかった」が68.6%となっている。(図表3-11)

図表 3-12 耐震改修の助成制度について（性別・性／年代別・地域別）



耐震改修の助成制度について、性別でみると大きな差異は見られない。

性／年代別でみると「助成制度を知っている」は男性 70 歳以上、女性 60 代、70 歳以上が 3 割台で他の年代より高くなっている。

地域別でみると、大きな差異は見られない。(図表 3-12)

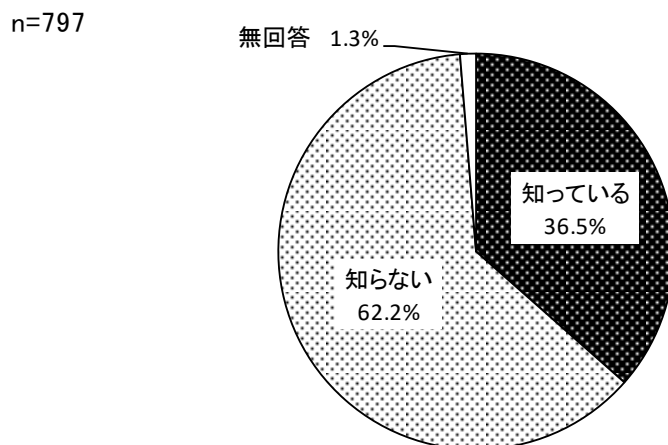
4 自転車の利用について

(1) 大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度

◎ 「知っている」は3割半ば

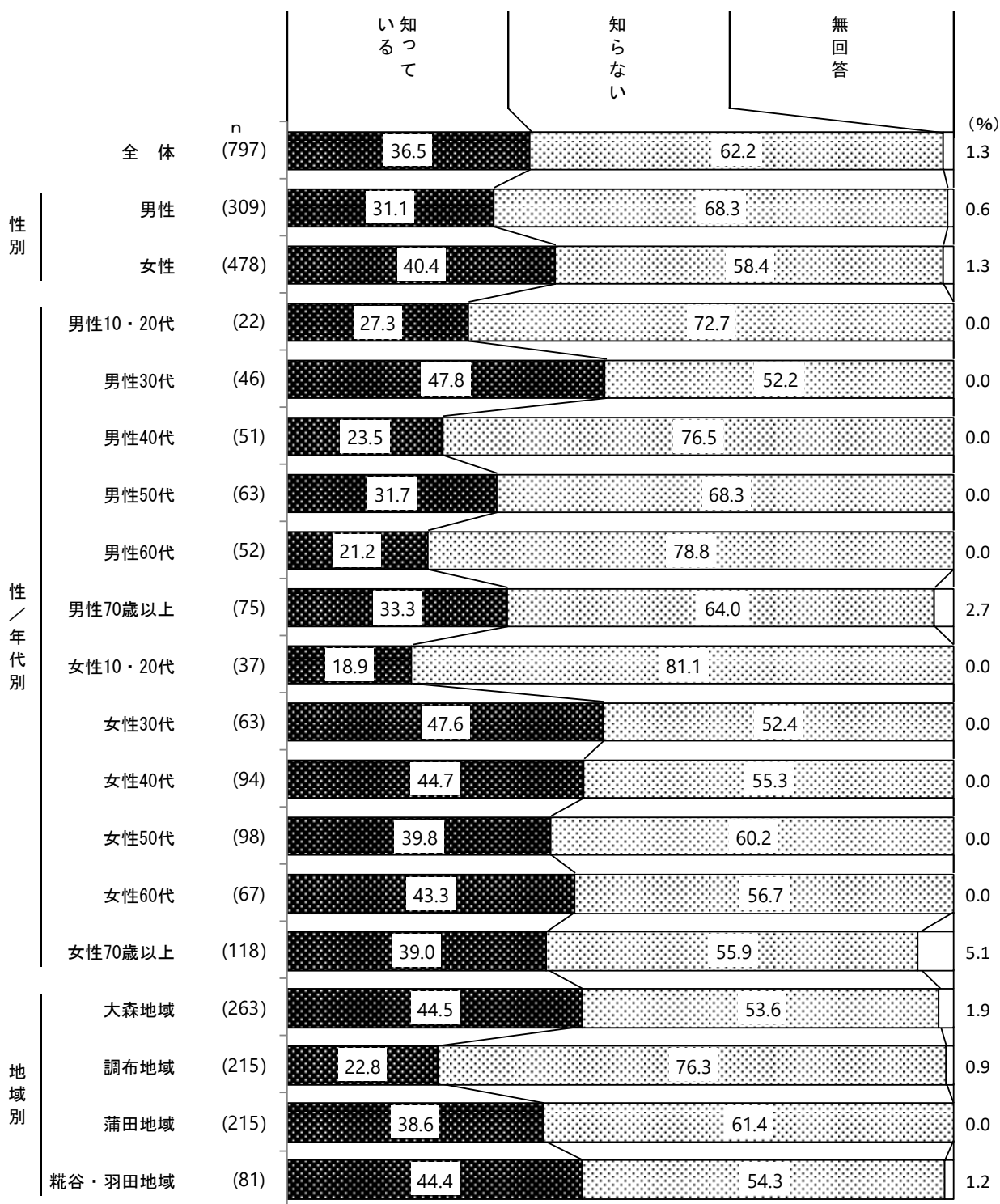
問11 あなたは大田区内で「コミュニティサイクル」が運営されていることを知っていますか。
(○は1つ)

図表4-1 大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度



大田区内でのコミュニティサイクル運営されていることを知っているか聞いたところ、「知っている」が36.5%、「知らない」が62.2%となっている。(図表4-1)

図表4-2 大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度（性別・性/年代別・地域別）



大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度について、性別で見ると「知っている」は男性（31.1%）、女性（40.4%）と、女性が男性を9.3ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「知っている」は男性では30代が47.8%、女性では30代が47.6%でそれぞれ最も高く、40代～70歳以上の全ての年代で女性が男性を上回っている。

地域別で見ると、「知っている」は大森地域、糞谷・羽田地域で4割台となっている。（図表4-2）

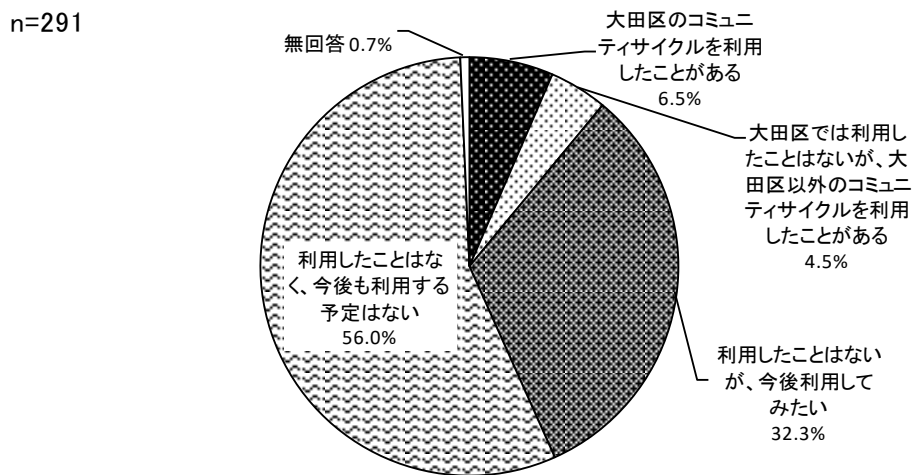
(2) コミュニティサイクルの利用の有無

◎ 「利用したことはなく、今後も利用する予定はない」が5割半ばで最も高くなっている

【問11で「1. 知っている」と回答された方】

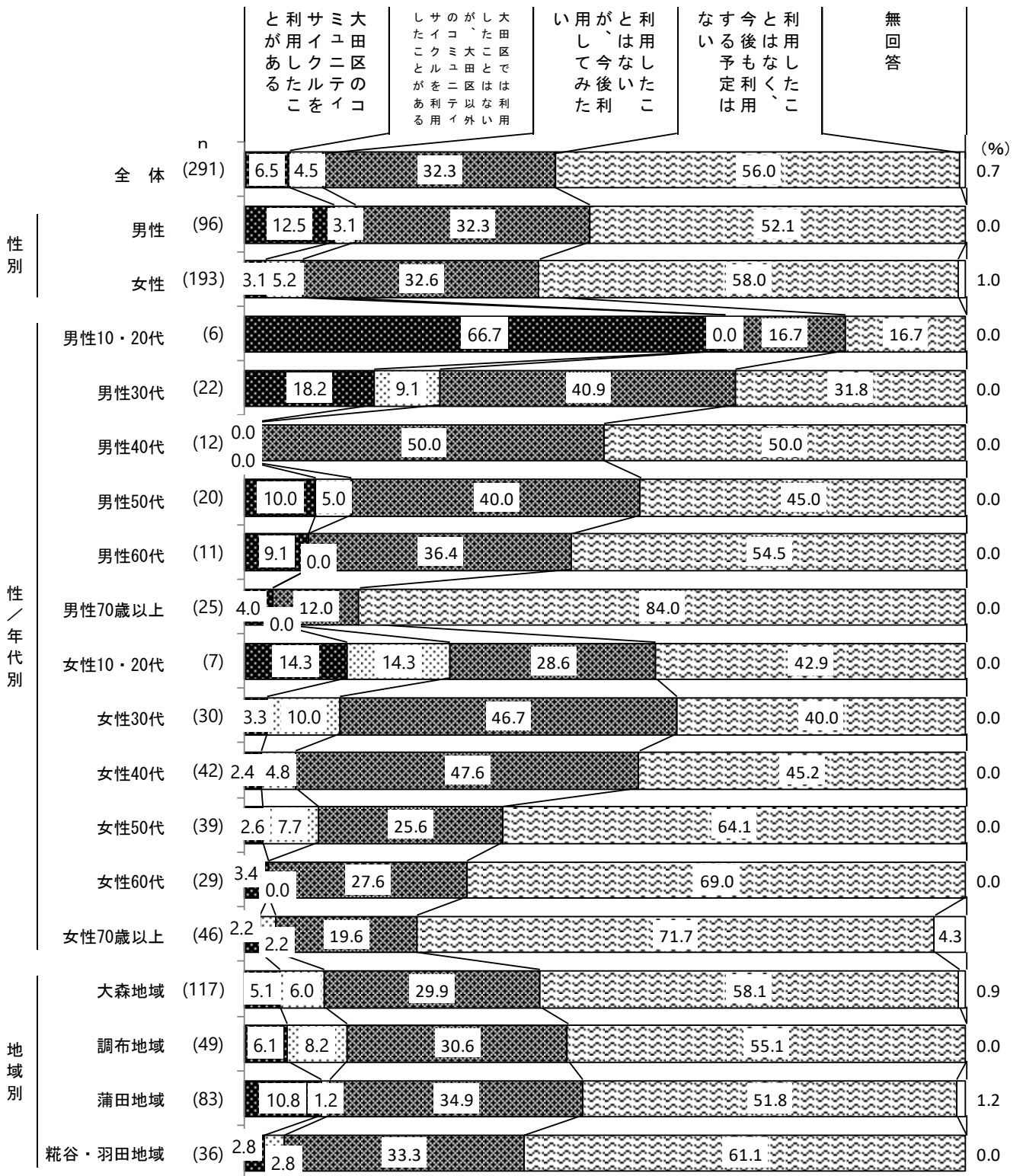
問11-1 あなたはコミュニティサイクルを利用したことがありますか。(○は1つ)

図表4-3 コミュニティサイクルの利用の有無



大田区内でコミュニティサイクルが運営されていることを知っている人に、利用したことがあるか聞いたところ、「大田区のコミュニティサイクルを利用したことがある」が6.5%、「大田区では利用したことはないが、大田区以外のコミュニティサイクルを利用したことがある」が4.5%、「利用したことはないが、今後利用してみたい」が32.3%、「利用したことはなく、今後も利用する予定はない」が56.0%となっている。(図表4-3)

図表 4-4 コミュニティサイクルの利用の有無（性別・性／年代別・地域別）



コミュニティサイクルの利用の有無について、性別で見ると「大田区のコミュニティサイクルを利用したことがある」は男性（12.5%）、女性（3.1%）と、男性が女性を9.4ポイント上回っている。（図表4-4）

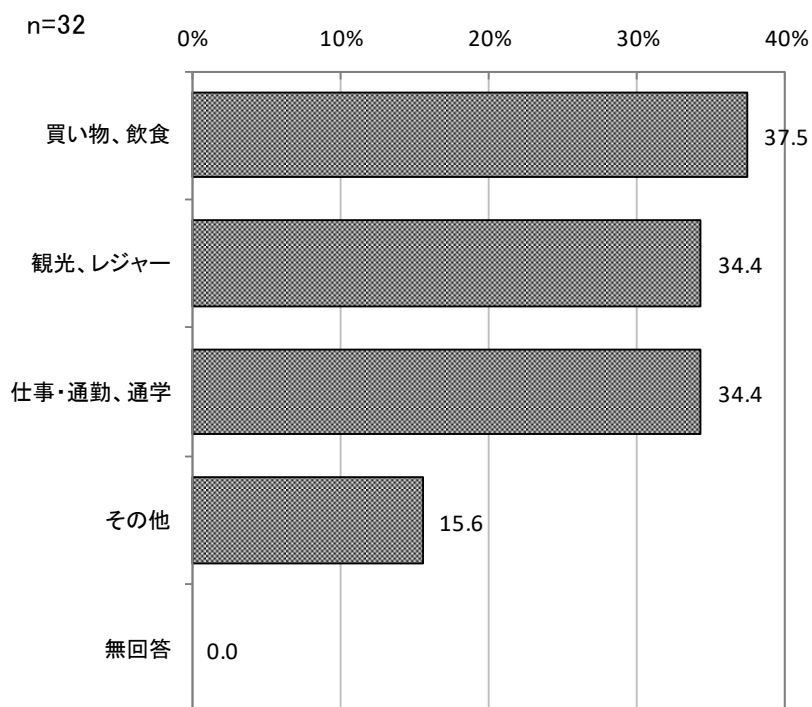
(3) コミュニティサイクルの利用目的

◎ 「買い物、飲食」が3割後半で最も高くなっている

【問11-1で「1」または「2」と回答された方】

問11-1-1 コミュニティサイクルの利用目的は何ですか。(〇はいくつでも)

図表4-5 コミュニティサイクルの利用目的



コミュニティサイクルを利用したことがある人に利用目的を聞いたところ、「買い物、飲食」が37.5%で最も高く、次いで、「観光、レジャー」(34.4%)、「仕事・通勤、通学」(34.4%) などとなっている。(図表4-5)

(4) コミュニティサイクルを利用しない理由

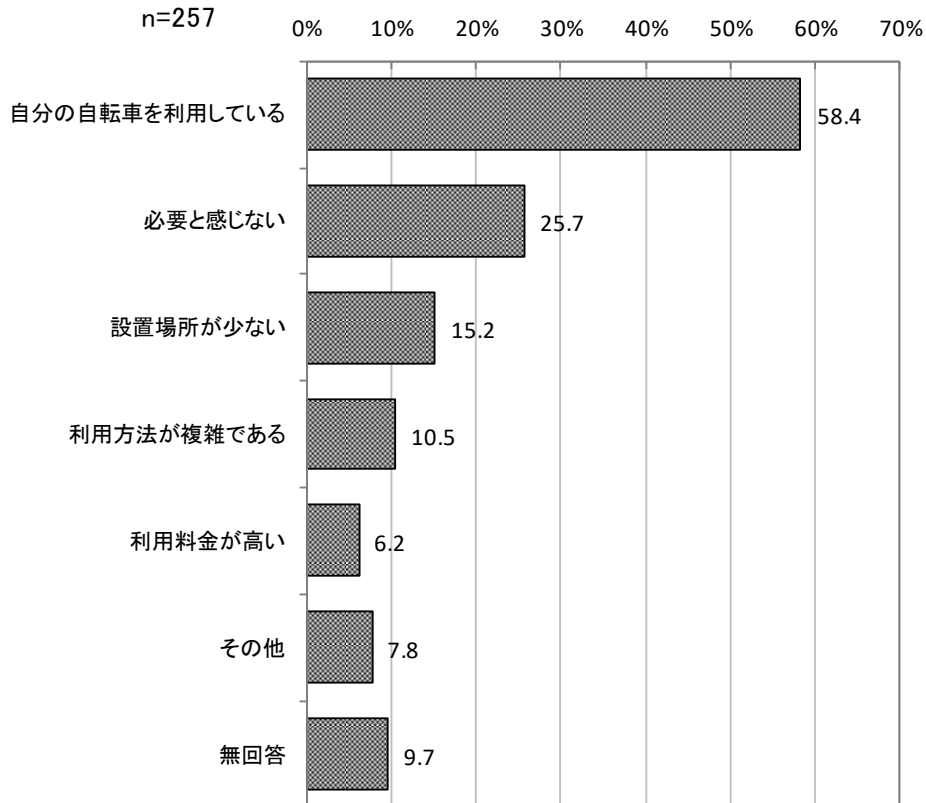
◎ 「自分の自転車を利用している」が5割後半で最も高くなっている

【問 11-1 で「3」または「4」と回答された方】

問 11-1-2 コミュニティサイクルを利用しない（利用したことがない）理由を教えてください。
（〇はいくつでも）

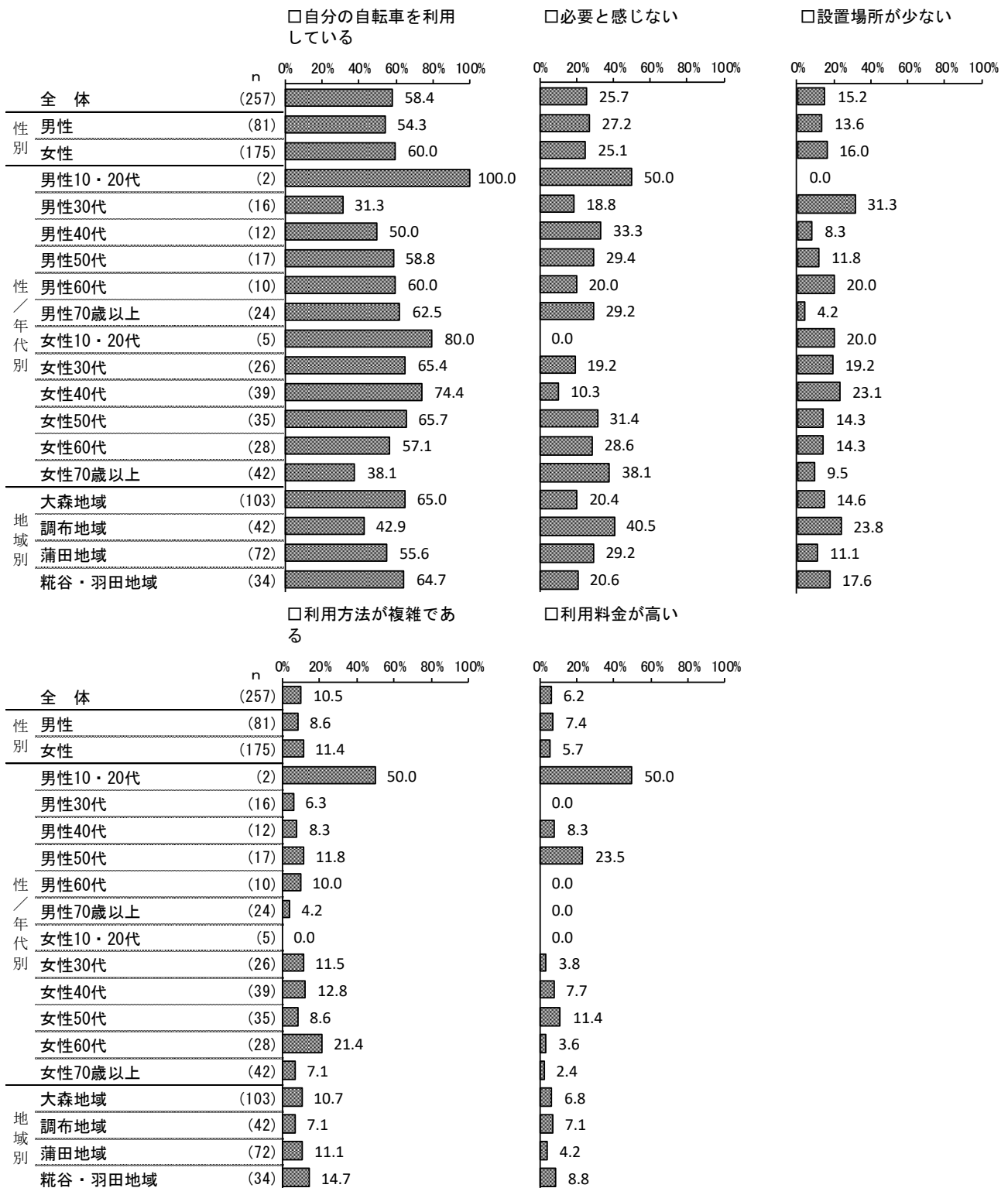
図表 4-6 コミュニティサイクルを利用しない理由

n=257



コミュニティサイクルを利用したことがない人にその理由を聞いたところ、「自分の自転車を利用している」が58.4%で最も高く、次いで、「必要と感しない」(25.7%)、「設置場所が少ない」(15.2%)などとなっている。(図表4-6)

図表4-7 コミュニティサイクルを利用しない理由（性別・性／年代別・地域別 上位5項目）



コミュニティサイクルを利用しない理由について、上位5項目を性別で見ると大きな差異は見られない。

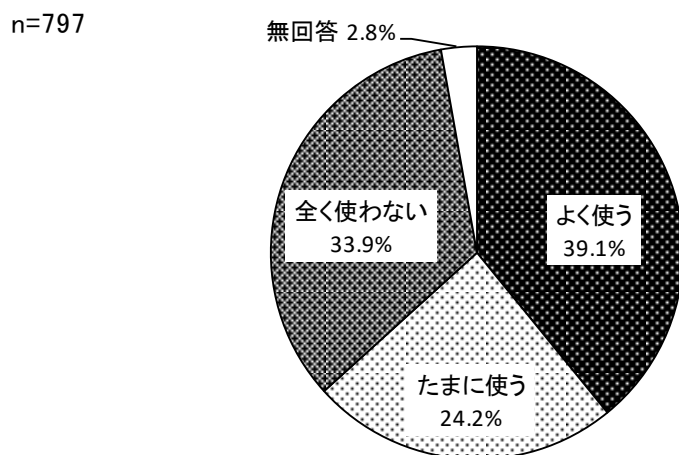
地域別で見ると、「自分の自転車を利用している」では大森地域、糞谷・羽田地域で6割台となっている。「必要と感じない」では調布地域が40.5%となっている。（図表4-7）

(5) 自転車の利用について

◎ 「よく使う」は約4割となっている

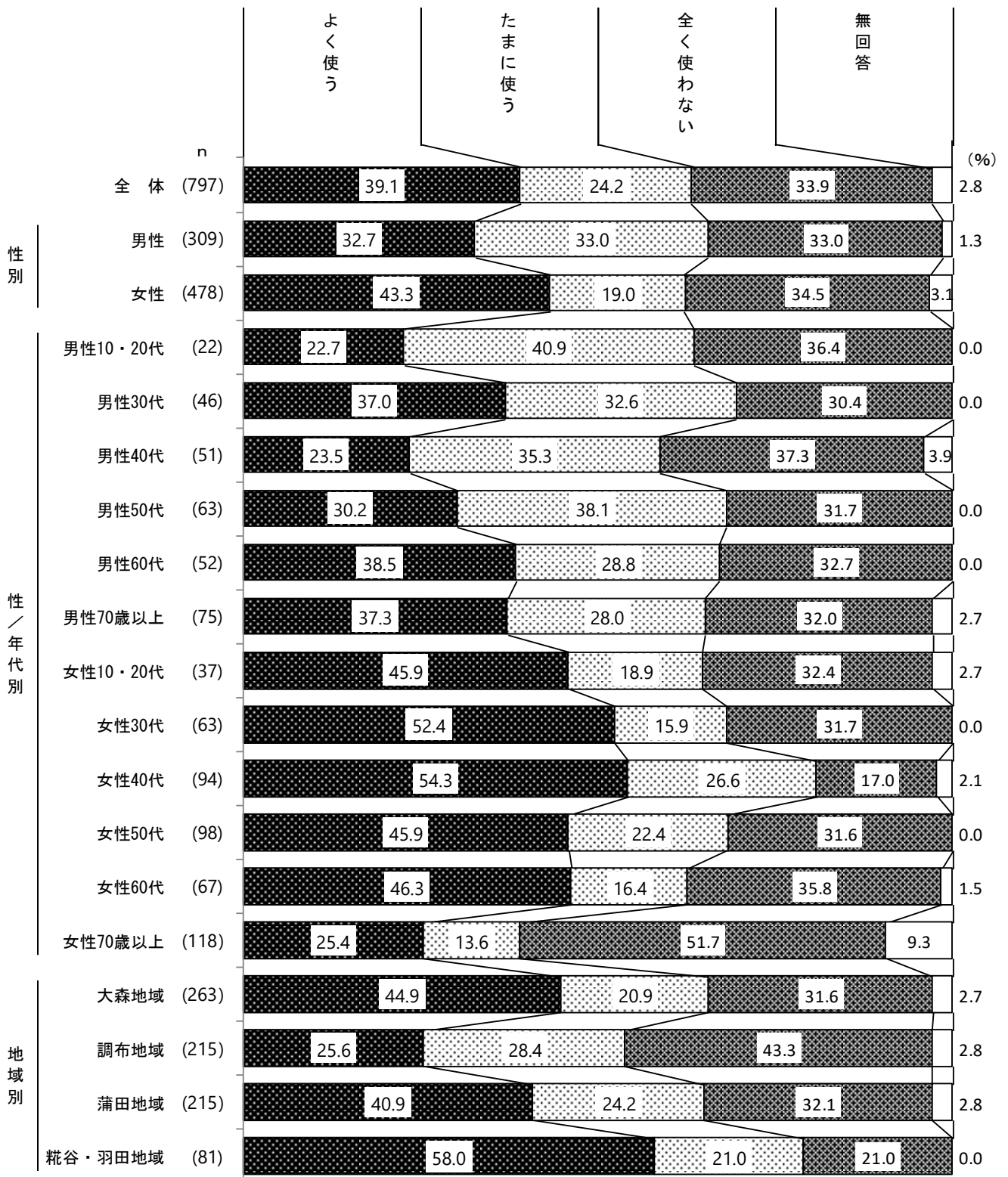
問12 あなたは、普段から自転車を使いますか。(○は1つ)

図表4-8 自転車の利用について



自転車の利用について聞いたところ、「よく使う」が39.1%、「たまに使う」が24.2%、「全く使わない」が33.9%となっている。(図表4-8)

図表4-9 自転車の利用について（性別・性/年代別・地域別）



自転車の利用について、性別で見ると「よく使う」は男性（32.7%）、女性（43.3%）と、女性が男性を10.6ポイント上回っている。「たまに使う」は男性（33.0%）、女性（19.0%）と、男性が女性を14.0ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「よく使う」では女性30代、40代が5割台と高く、70歳以上を除く全ての年代で女性が男性を上回っている。

地域別で見ると、「よく使う」は糺谷・羽田地域が58.0%となっている。（図表4－9）

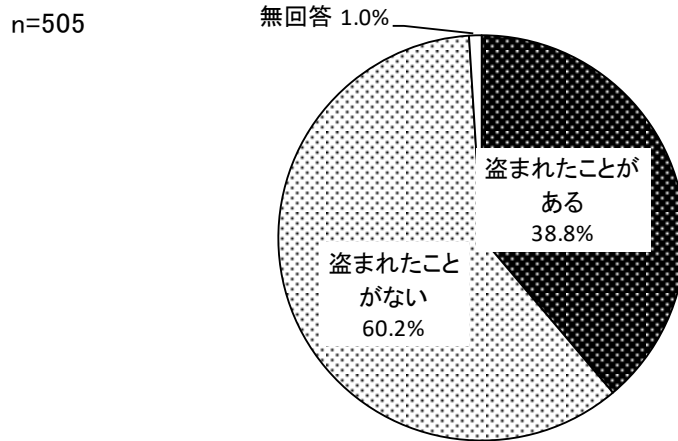
(6) 自転車を盗まれた経験

◎ 「盗まれたことがある」は3割後半

【問12で「1」または「2」と回答された方】

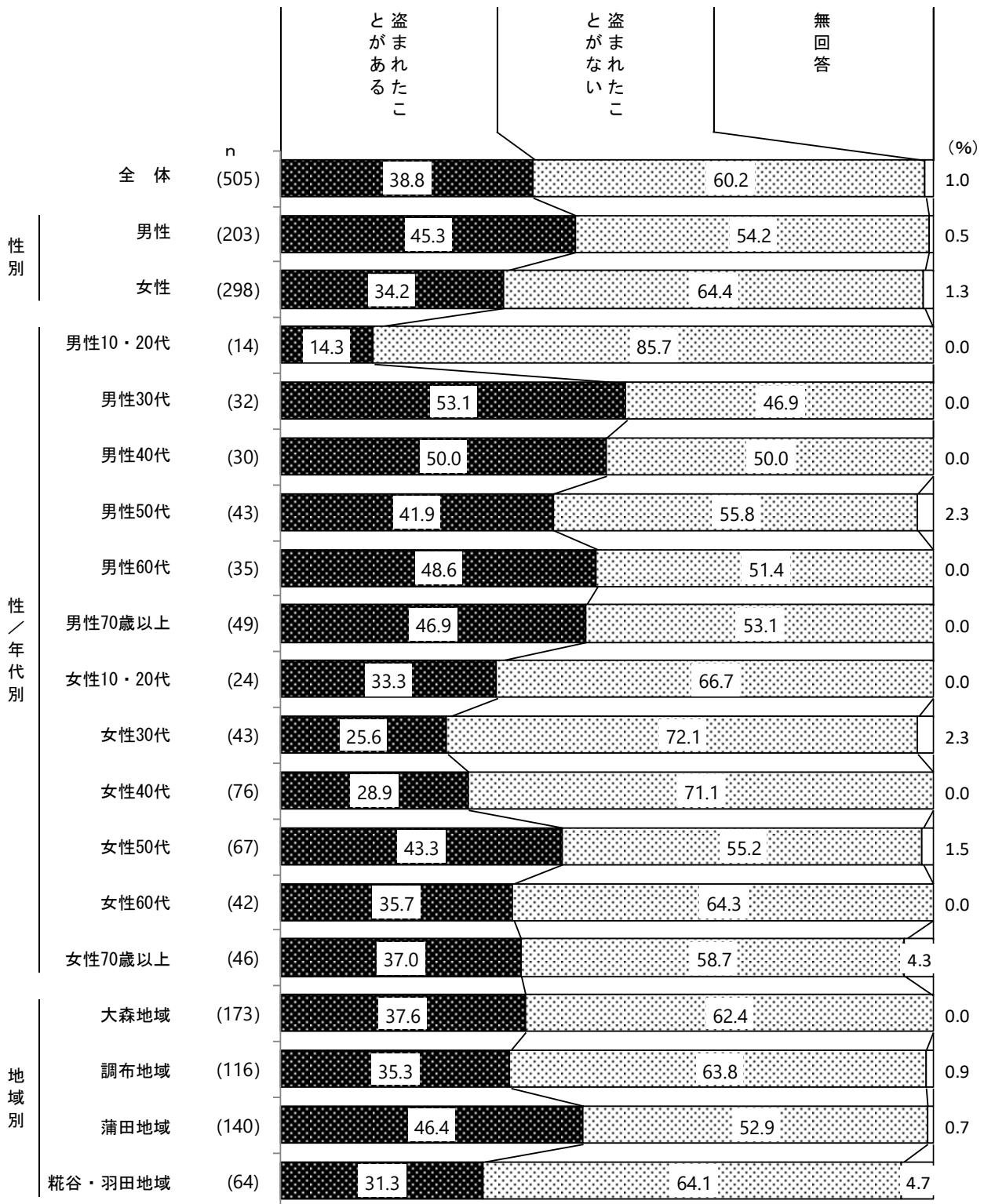
問13 あなたは、過去に自転車を盗まれたことがありますか。(○は1つ)

図表4-10 自転車を盗まれた経験



自転車を使う人に自転車を盗まれた経験を聞いたところ、「盗まれたことがある」が38.8%、「盗まれたことがない」が60.2%となっている。(図表4-10)

図表4-11 自転車に盗まれた経験（性別・性／年代別・地域別）



自転車に盗まれた経験について、性別で見ると「盗まれたことがある」は男性(45.3%)、女性(34.2%)と、男性が女性を11.1ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「盗まれたことがある」は男性30代、40代が5割台と他の年代より高くなっている。(図表4-11)

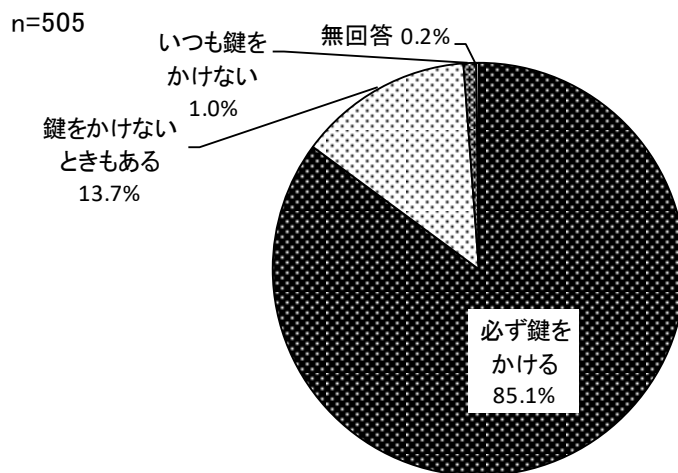
(7) 自転車の鍵をかけるかについて

◎ 「必ず鍵をかける」が8割半ばとなっている

【問12で「1」または「2」と回答された方】

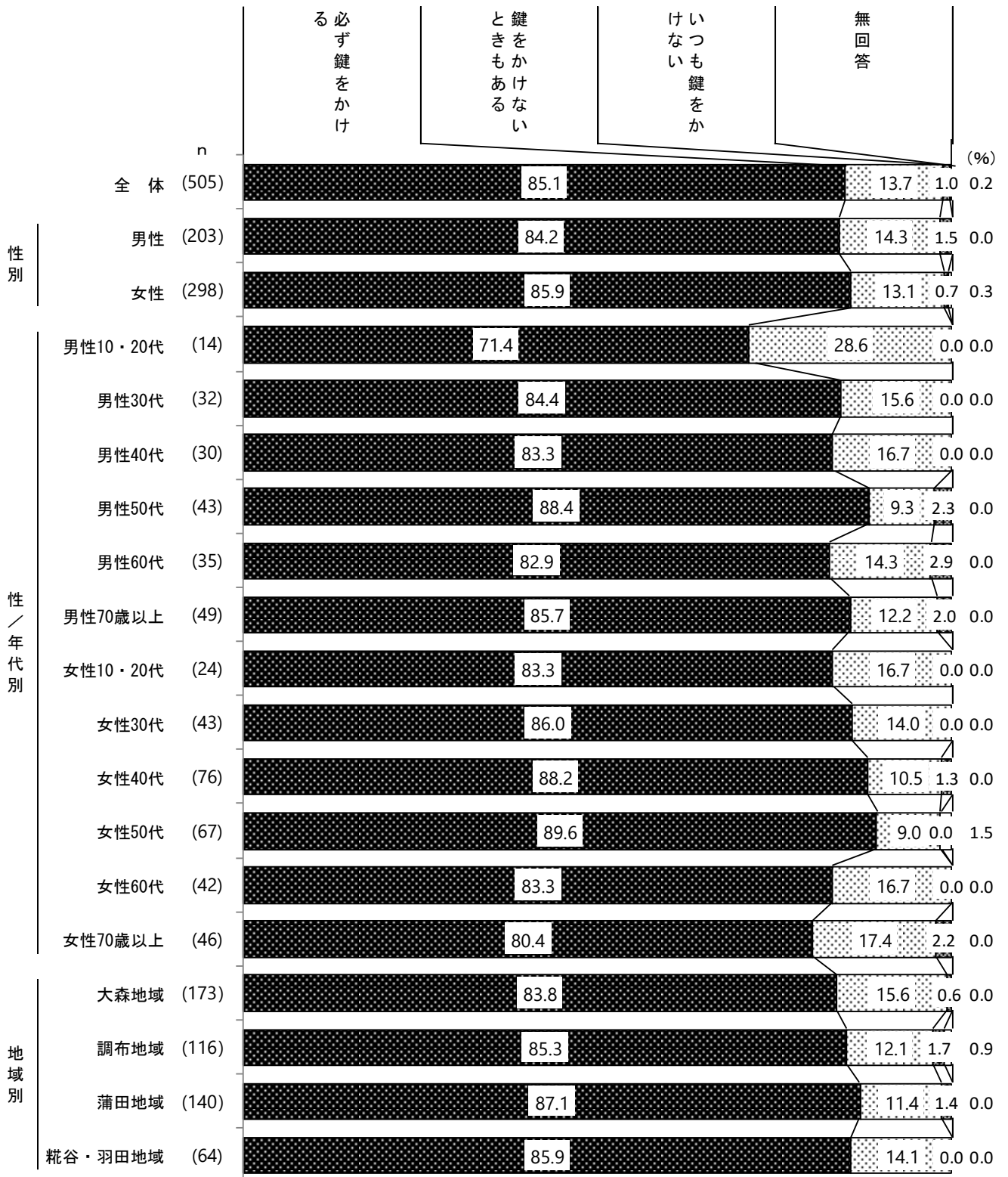
問14 あなたは、普段自転車から降りた後、鍵をかけますか。(○は1つ)

図表4-12 自転車の鍵をかけるかについて



自転車を使う人に自転車の鍵をかけるかについて聞いたところ、「必ず鍵をかける」が85.1%、「鍵をかけないときもある」が13.7%、「いつも鍵をかけない」が1.0%となっている。(図表4-12)

図表4-13 自転車の鍵をかけるかについて（性別・性/年代別・地域別）



自転車の鍵をかけるかについて、性別で見ると「必ず鍵をかける」が男女ともに8割半ばと大きな差異は見られない。

地域別で見ると、全ての地域で「必ず鍵をかける」が8割台となっている。（図表4-13）

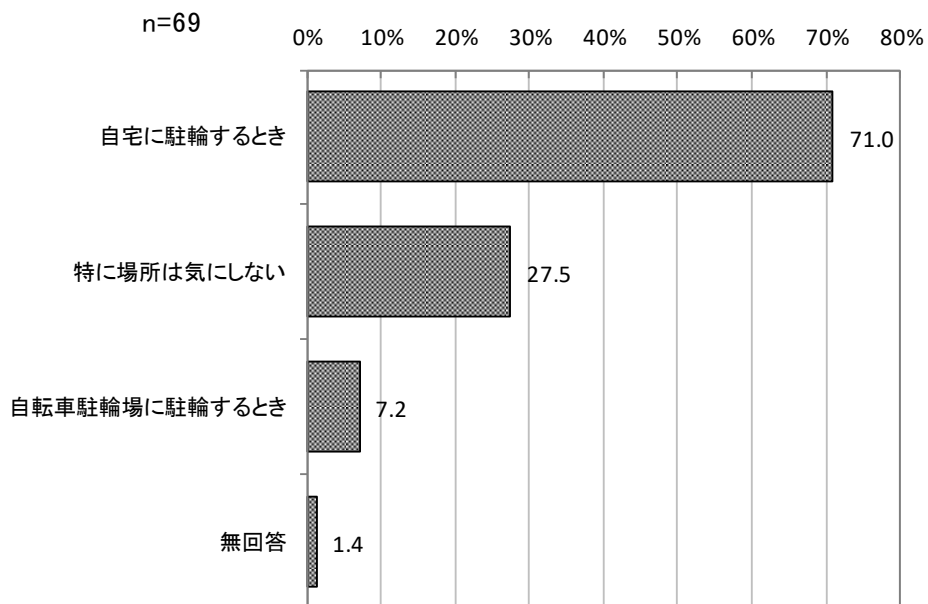
(8) 自転車に鍵をかけない時は、どのような時か

◎ 「自宅に駐輪するとき」が約7割と最も高くなっている

【問14で「2. 鍵をかけないときもある」と回答された方】

問14-1 あなたが自転車に鍵をかけないのは、どのような場所ですか。(〇はいくつでも)

図表4-14 自転車に鍵をかけない時は、どのような時か



自転車に鍵をかけないときもある人に鍵をかけない時は、どのような時か聞いたところ、「自宅に駐輪するとき」が71.0%で最も高く、次いで、「特に場所は気にしない」が27.5%、「自転車駐輪場に駐輪するとき」が7.2%となっている。(図表4-14)

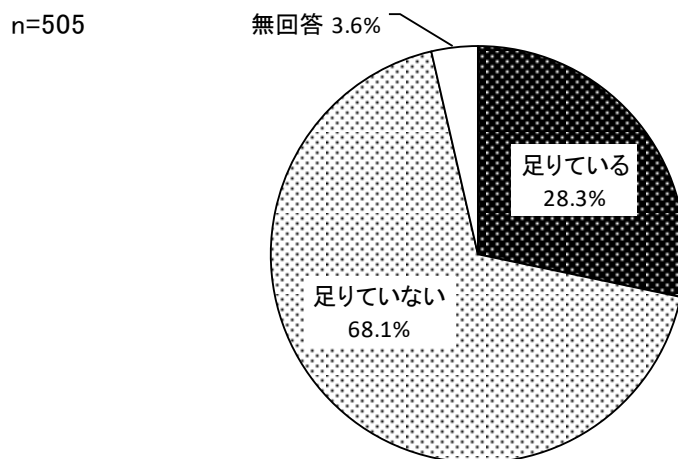
(9) 駅周辺の駐輪場の数について

◎ 「足りていない」が6割後半となっている

【問12で「1」または「2」と回答された方】

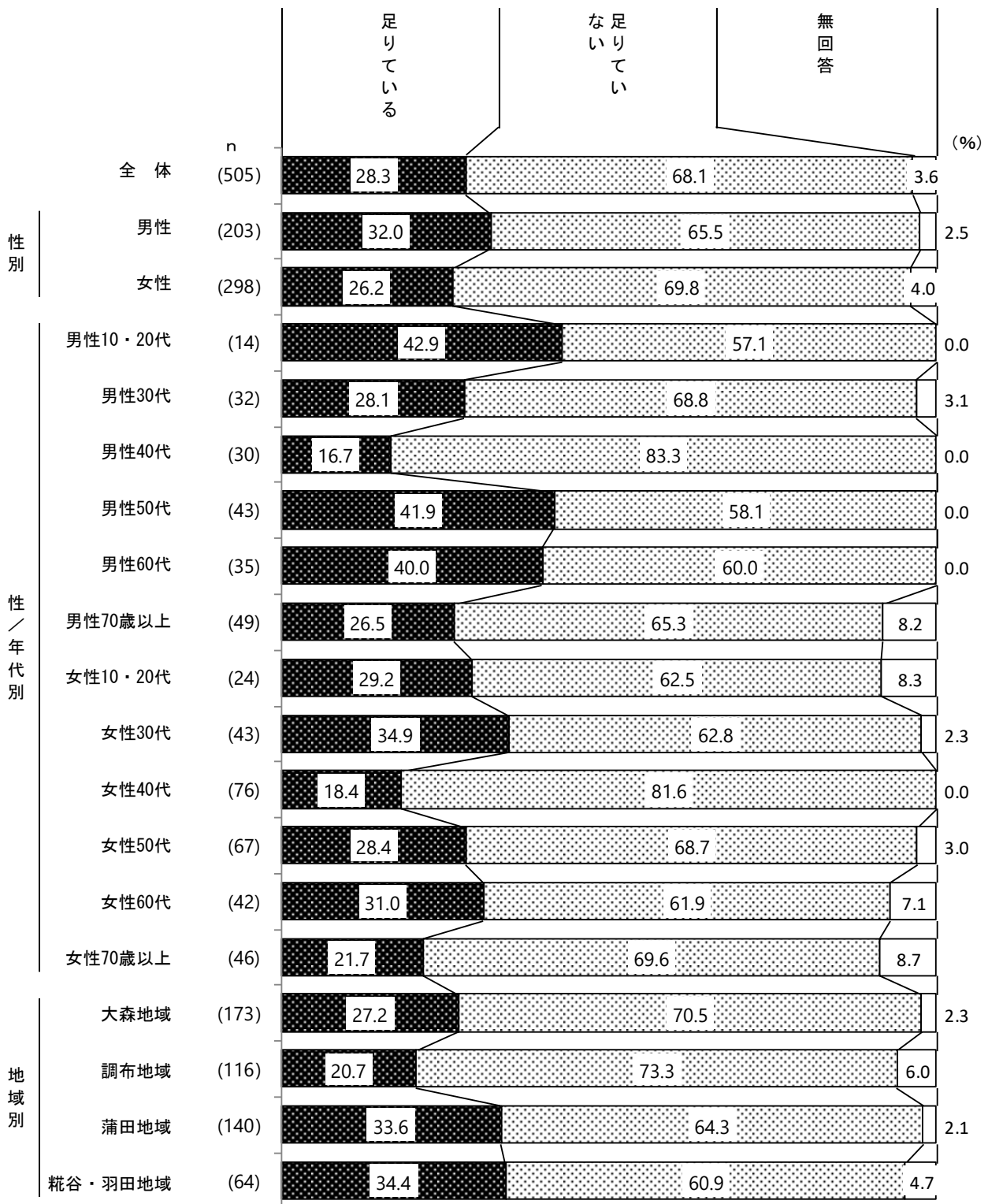
問15 駅周辺の自転車駐輪場の数は、足りていると感じますか。(〇は1つ)

図表4-15 駅周辺の駐輪場の数について



自転車を使う人に駅周辺の駐輪場の数について聞いたところ、「足りている」が28.3%、「足りていない」が68.1%となっている。(図表4-15)

図表 4-16 駅周辺の駐輪場の数について（性別・性/年代別・地域別）



駅周辺の駐輪場の数について、地域別でみると「足りている」は大森地域、調布地域で2割台、蒲田地域、糀谷・羽田地域で3割台となっている。（図表 4-16）

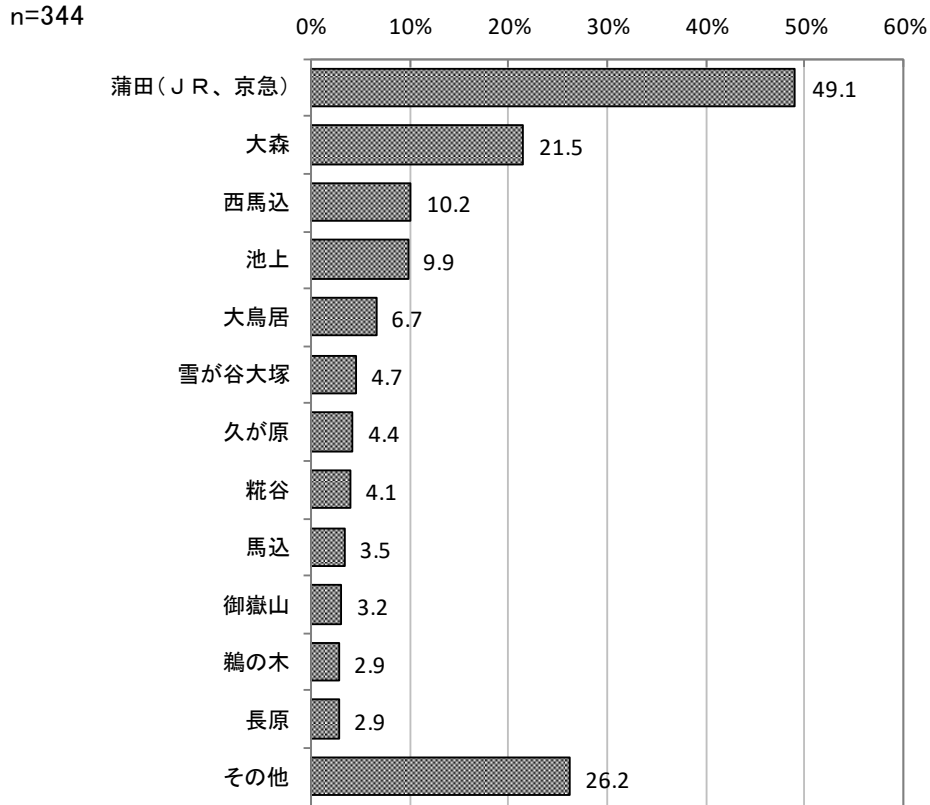
(10) 駐輪場が不足していると感じる駅

◎ 「蒲田」が約5割で最も高くなっている

【問 15 で「2. 足りていない」と回答された方】

問 15-1 何駅周辺で不足していると感じますか。(最大3つまでご記入ください)

図表 4-17 駐輪場が不足していると感じる駅



駐輪場が足りていないと回答した人に不足していると感じる駅を最大3つまで聞いたところ、「蒲田(JR、京急)」が49.1%で最も高く、次いで、「大森」(21.5%)、「西馬込」(10.2%)となっている。(図表4-17)

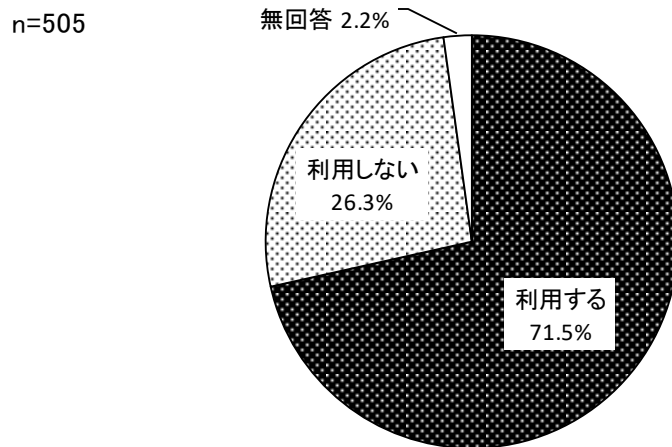
(11) 駐輪場の利用について

◎ 「利用する」が約7割となっている

【問12で「1」または「2」と回答された方】

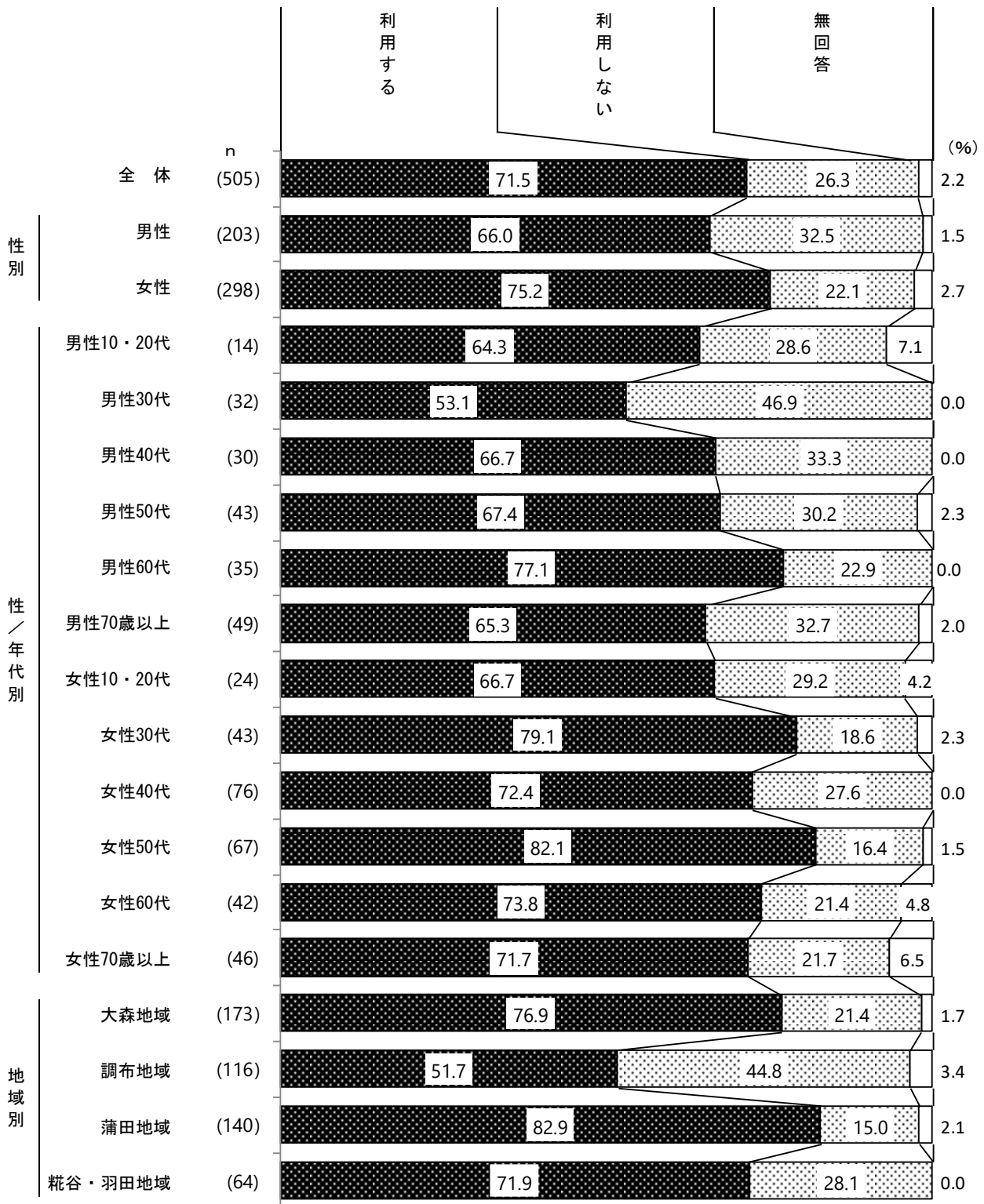
問16 買い物や飲食のために駅まで使った自転車は、駐輪場を利用していますか。(○は1つ)

図表4-18 駐輪場の利用について



自転車を使う人に駐輪場の利用について聞いたところ、「利用する」が71.5%、「利用しない」が26.3%となっている。(図表4-18)

図表 4-19 駐輪場の利用について（性別・性／年代別・地域別）



駐輪場の利用について、性別で見ると「利用する」は男性（66.0%）、女性（75.2%）と、女性が男性を9.2ポイント上回っている。

地域別で見ると、「利用する」は蒲田地域が82.9%となっている。（図表4-19）

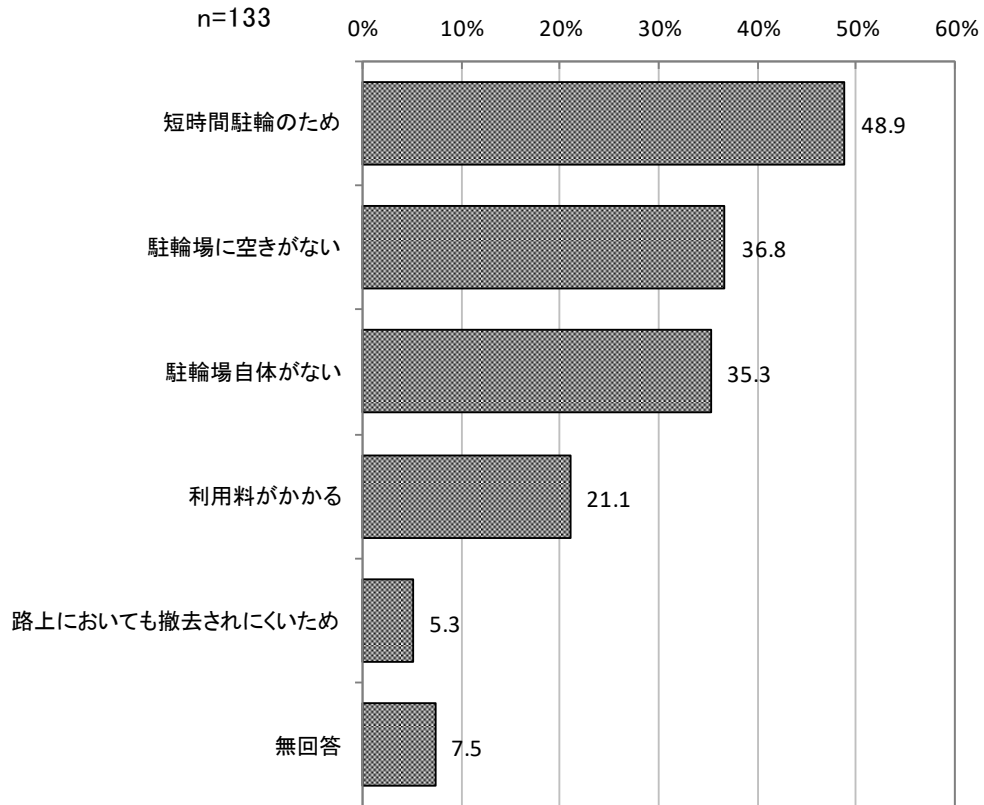
(12) 駐輪場を利用しない理由

◎ 「短時間駐輪のため」が4割後半で最も高くなっている

【問 16 で「2. 利用しない」と回答された方】

問 16-1 あなたが利用しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図表 4-20 駐輪場を利用しない理由



駐輪場を利用しない人にその理由を聞いたところ、「短時間駐輪のため」が 48.9%で最も高く、次いで、「駐輪場に空きがない」(36.8%)、「駐輪場自体がない」(35.3%) などとなっている。(図表 4-20)

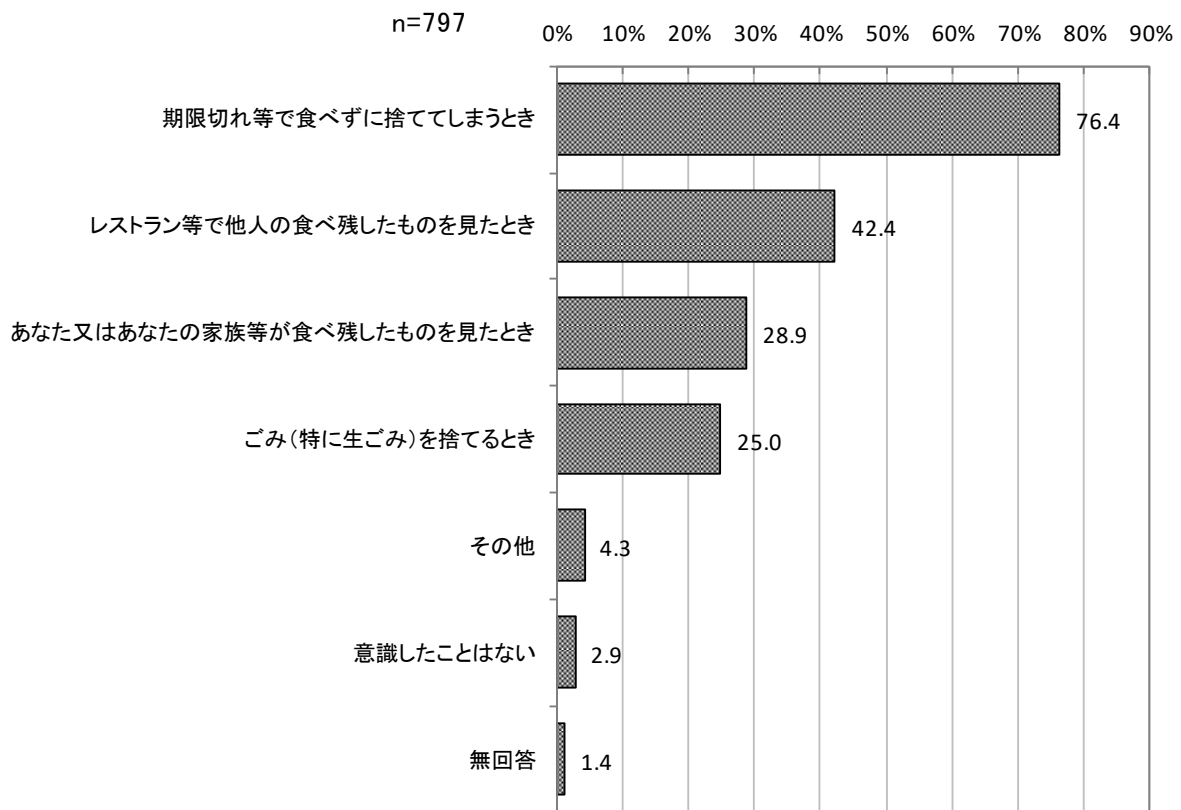
5 食品ロス・フードドライブについて

(1) 食生活の中で「もったいない」と意識したとき

◎ 「期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき」が7割半ばで最も高くなっている

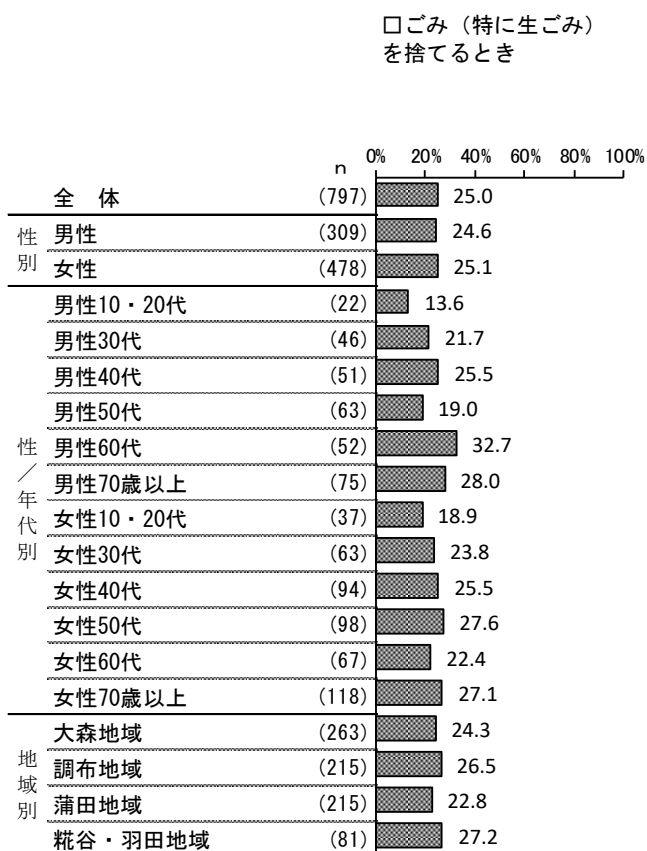
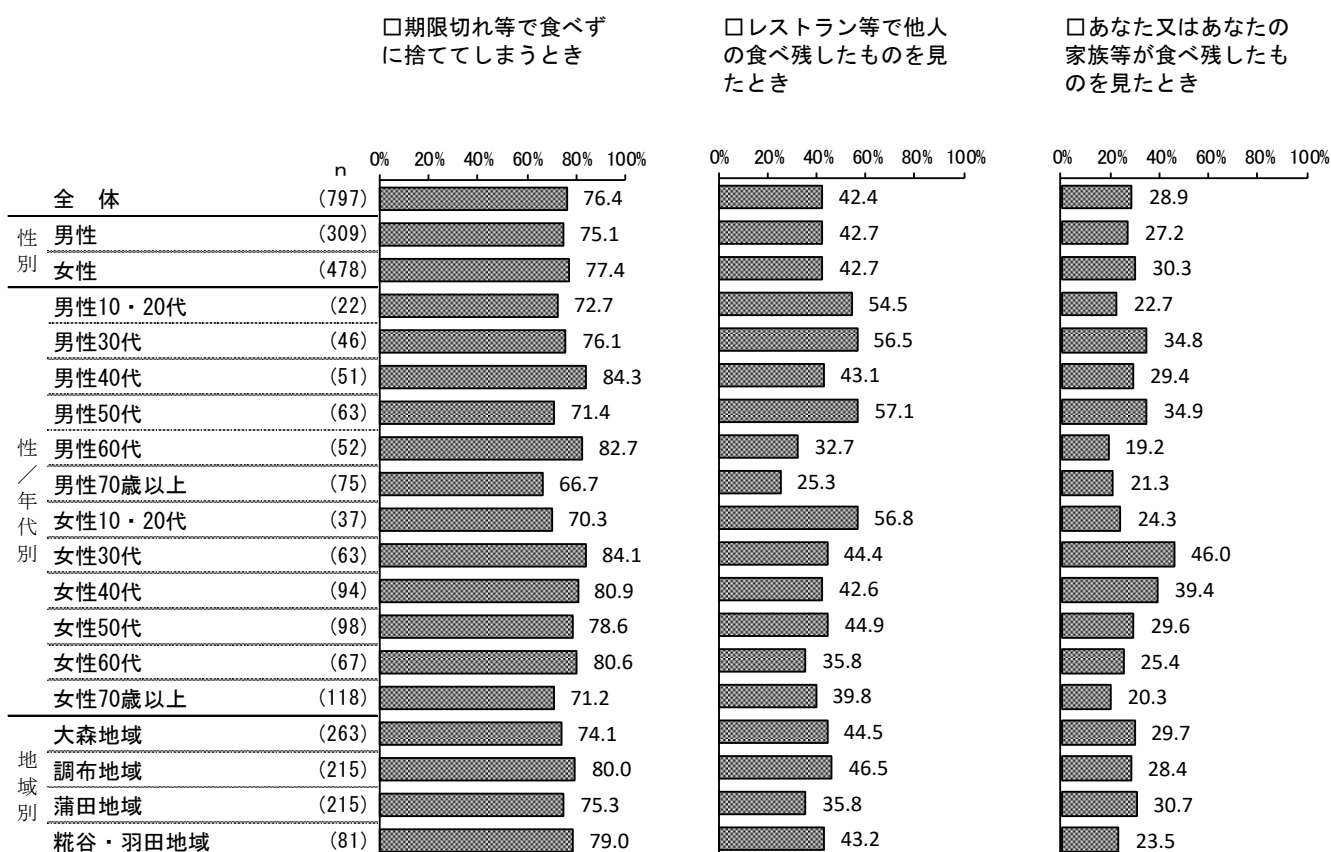
問17 あなたは、食生活の中で「もったいない」と意識したことがあるのはどんなときですか。
(○はいくつでも)

図表5-1 食生活の中で「もったいない」と意識したとき



食生活の中で「もったいない」と意識したときを聞いたところ、「期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき」が76.4%で最も高く、次いで、「レストラン等で他の人の食べ残したのを見たとき」(42.4%)、「あなた又はあなたの家族等が食べ残したのを見たとき」(28.9%)などとなっている。(図表5-1)

図表5-2 食生活の中で「もったいない」と意識したとき（性別・性／年代別・地域別 上位4項目）



食生活の中で「もったいない」と意識したときについて、上位4項目を性別で見ると「期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき」では男女ともに7割台で大きな差異は見られない。

性/年代別で見ると、「期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき」では男性40代、女性30代が8割半ばとなっている。「レストラン等で他人の食べ残したのを見たとき」は男性30代、50代、女性10・20代が5割後半となっている。「あなた又はあなたの家族等が食べ残したのを見たとき」は女性30代が46.0%で他の年代より高くなっている。

地域別で見ると、大きな差異は見られない。(図表5-2)

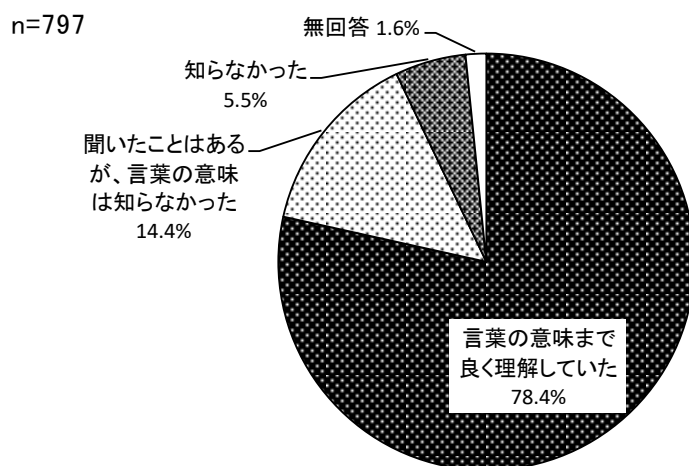
(2) 「食品ロス」の認知度

◎ 「言葉の意味まで良く理解していた」が7割後半となっている

問 18 あなたは、「食品ロス」という言葉をご存知ですか。(○は1つ)

※食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品

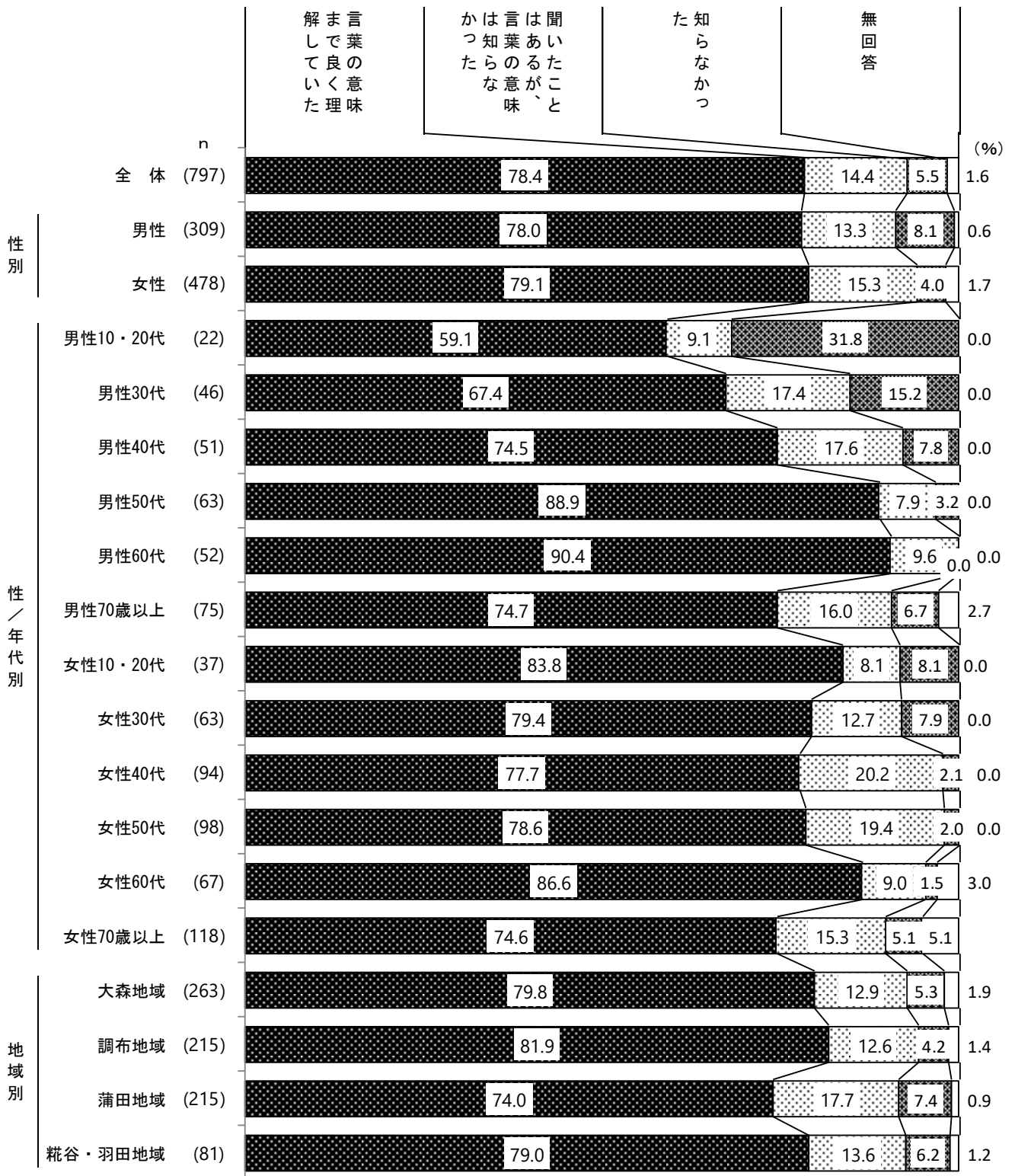
図表 5-3 「食品ロス」の認知度



「食品ロス」について聞いたところ、「言葉の意味まで良く理解していた」が78.4%、「聞いたことはあるが、言葉の意味は知らなかった」が14.4%、「知らなかった」が5.5%となっている。

(図表 5-3)

図表5-4 「食品ロス」の認知度（性別・性/年代別・地域別）



「食品ロス」の認知度について、性別で見ると「言葉の意味まで良く理解していた」は男女ともに7割台と大きな差異は見られない。

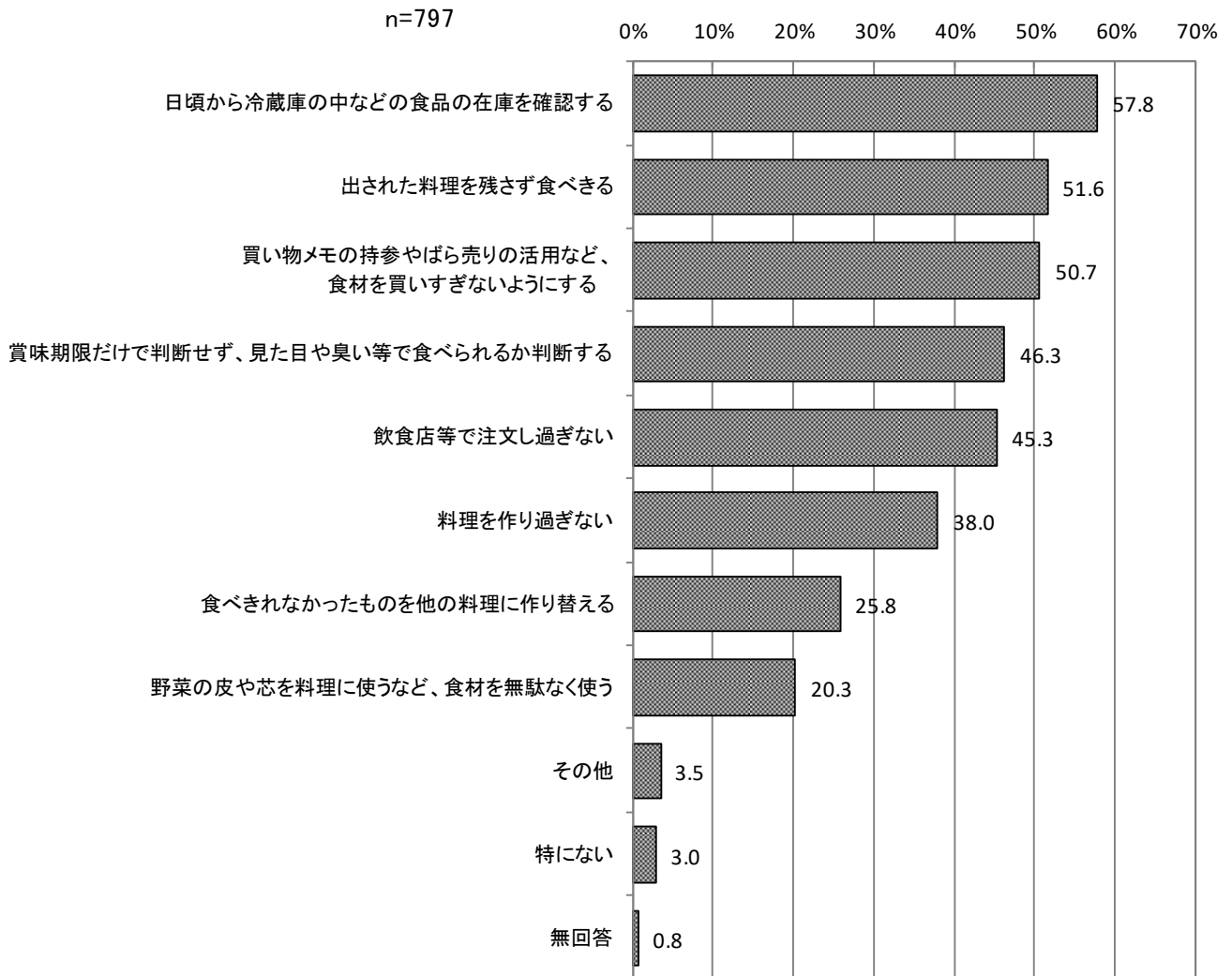
性/年代別で見ると、「言葉の意味まで良く理解していた」は、男性では60代が90.4%、女性では60代が86.6%でそれぞれ最も高くなっている。(図表5-4)

(3) 「食品ロス」を減らすための取り組み

◎ 「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が5割後半で最も高くなっている

問 19 あなたは、生活の中で「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。
(〇はいくつでも)

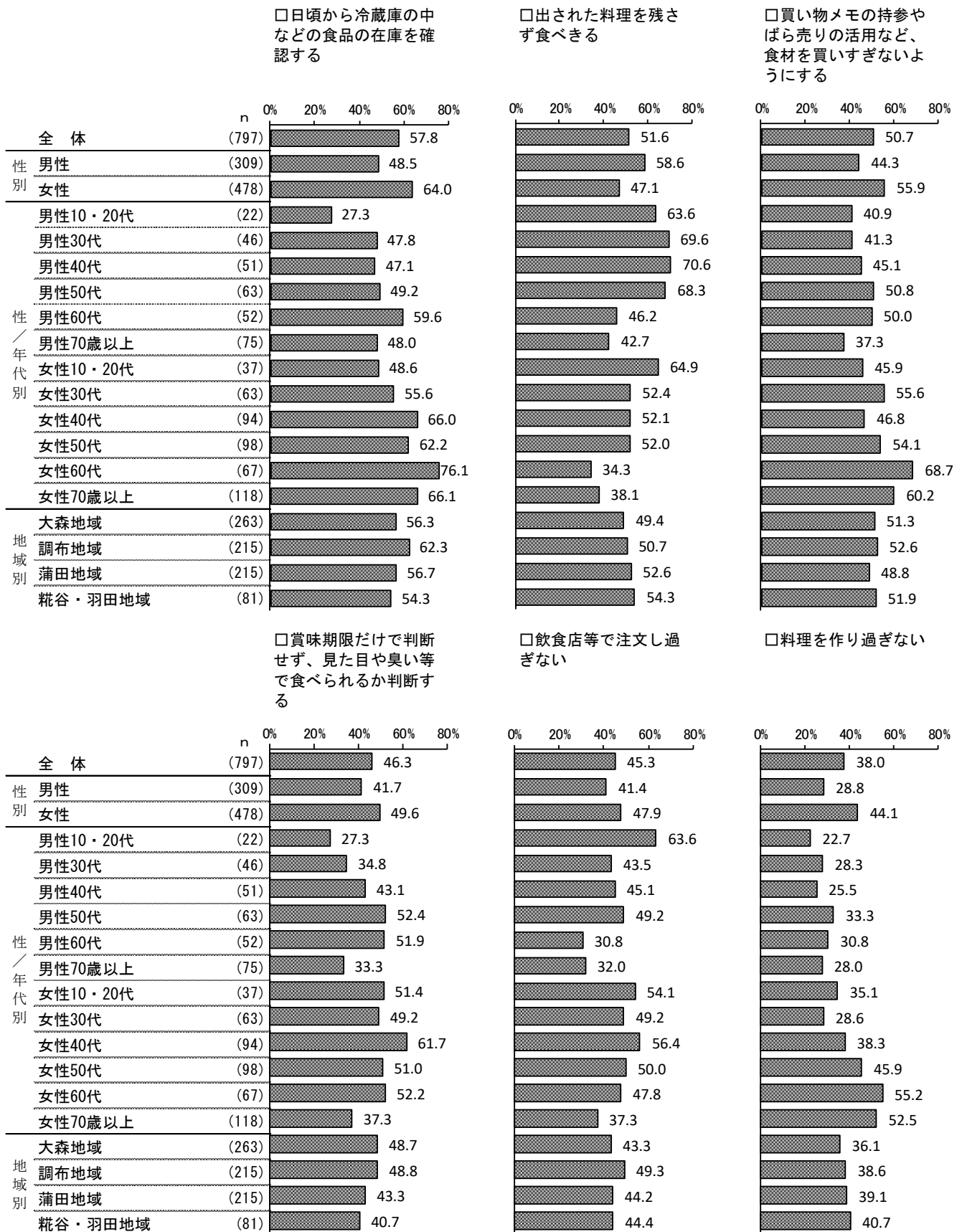
図表5-5 「食品ロス」を減らすための取り組み



食品ロスを減らすために取り組んでいることを聞いたところ、「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が57.8%で最も高く、次いで、「出された料理を残さず食べきる」(51.6%)、「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする」(50.7%) などとなっている。

(図表5-5)

図表5-6 「食品ロス」を減らすための取り組み（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



「食品ロス」を減らすための取り組みについて、上位6項目を性別で見ると「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」では男性（48.5%）、女性（64.0%）、「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする」では男性（44.3%）、女性（55.9%）、「料理を作り過ぎない」では男性（28.8%）、女性（44.1%）と、それぞれ女性が男性を15.5ポイント、11.6ポイント、15.3ポイント上回っている。「出された料理を残さず食べきる」では男性（58.6%）、女性（47.1%）と、男性が女性を11.5ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」では女性60代が76.1%で他の年代より高くなっている。「出された料理を残さず食べきる」では、男女ともに60歳以上が低くなっている。「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする」は女性60代が68.7%で他の年代より高くなっている。（図表5－6）

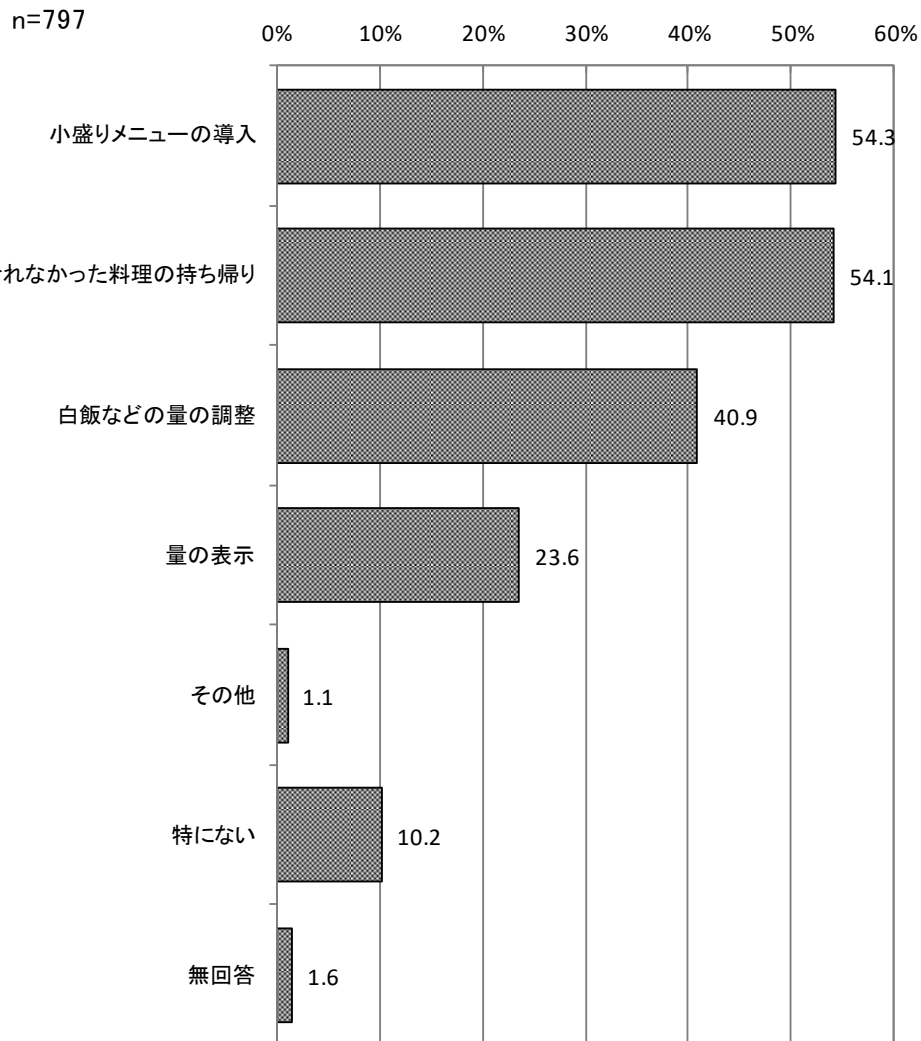
(4) 食べ残しをしないためにお店にして欲しいこと

◎ 「小盛りメニューの導入」、「食べきれなかった料理の持ち帰り」が5割半ば

問 20 外食をするとき、食べ残しをしないためにお店にして欲しいことは何ですか。

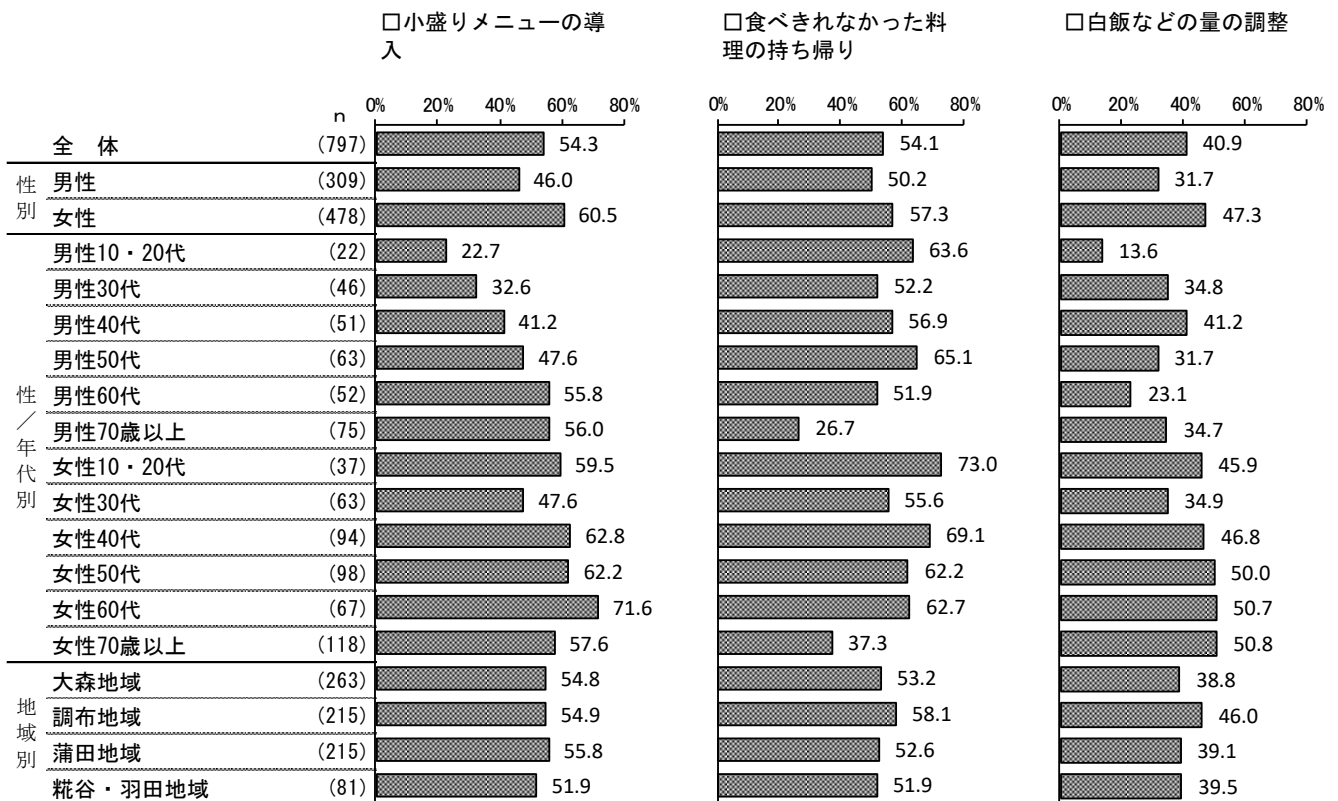
(○はいくつでも)

図表5-7 食べ残しをしないためにお店にして欲しいこと

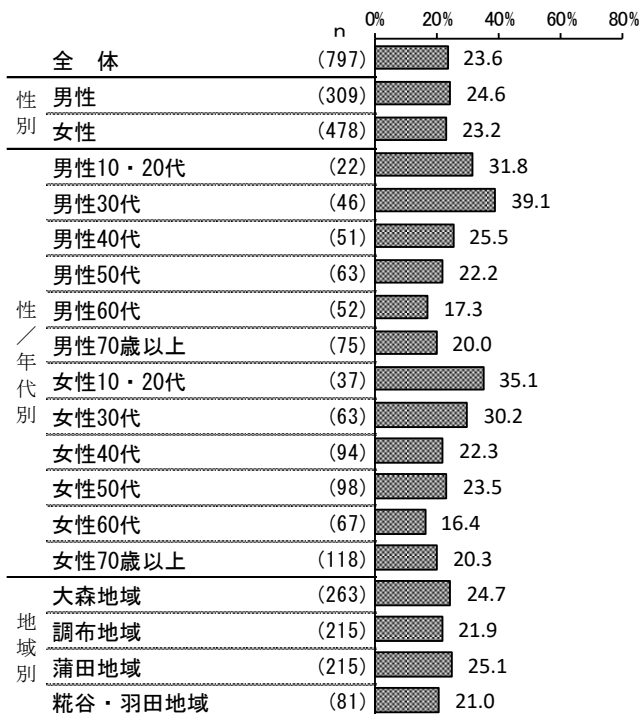


食べ残しをしないためにお店にして欲しいことを聞いたところ、「小盛りメニューの導入」が54.3%で最も高く、次いで、「食べきれなかった料理の持ち帰り」(54.1%)、「白飯などの量の調整」(40.9%)などとなっている。(図表5-7)

図表5-8 食べ残しをしないためにお店にして欲しいこと(性別・性/年代別・地域別 上位4項目)



□量の表示



食べ残しをしないためにお店にして欲しいことについて、性別で見ると「小盛メニューの導入」では男性（46.0%）、女性（60.5%）、「白飯などの量の調整」では男性（31.7%）、女性（47.3%）と、それぞれ女性が男性を14.5ポイント、15.6ポイント上回っている。

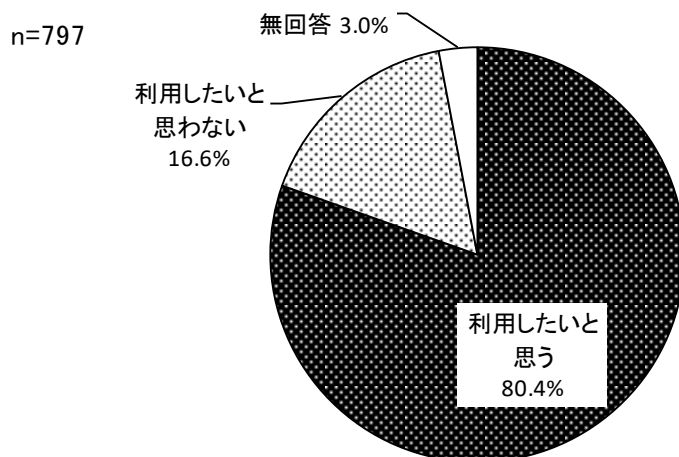
性／年代別で見ると、「小盛メニューの導入」は女性60代が71.6%で他の年代より高く、全ての年代で女性が男性を上回っている。また、男性では年代が上がるにつれ高くなっている。「食べきれなかった料理の持ち帰り」では男女ともに70歳以上が低くなっている。「白飯などの量の調整」では全ての年代で女性が男性を上回っている。（図表5－8）

(5) 「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望

◎ 「利用したいと思う」が約8割となっている

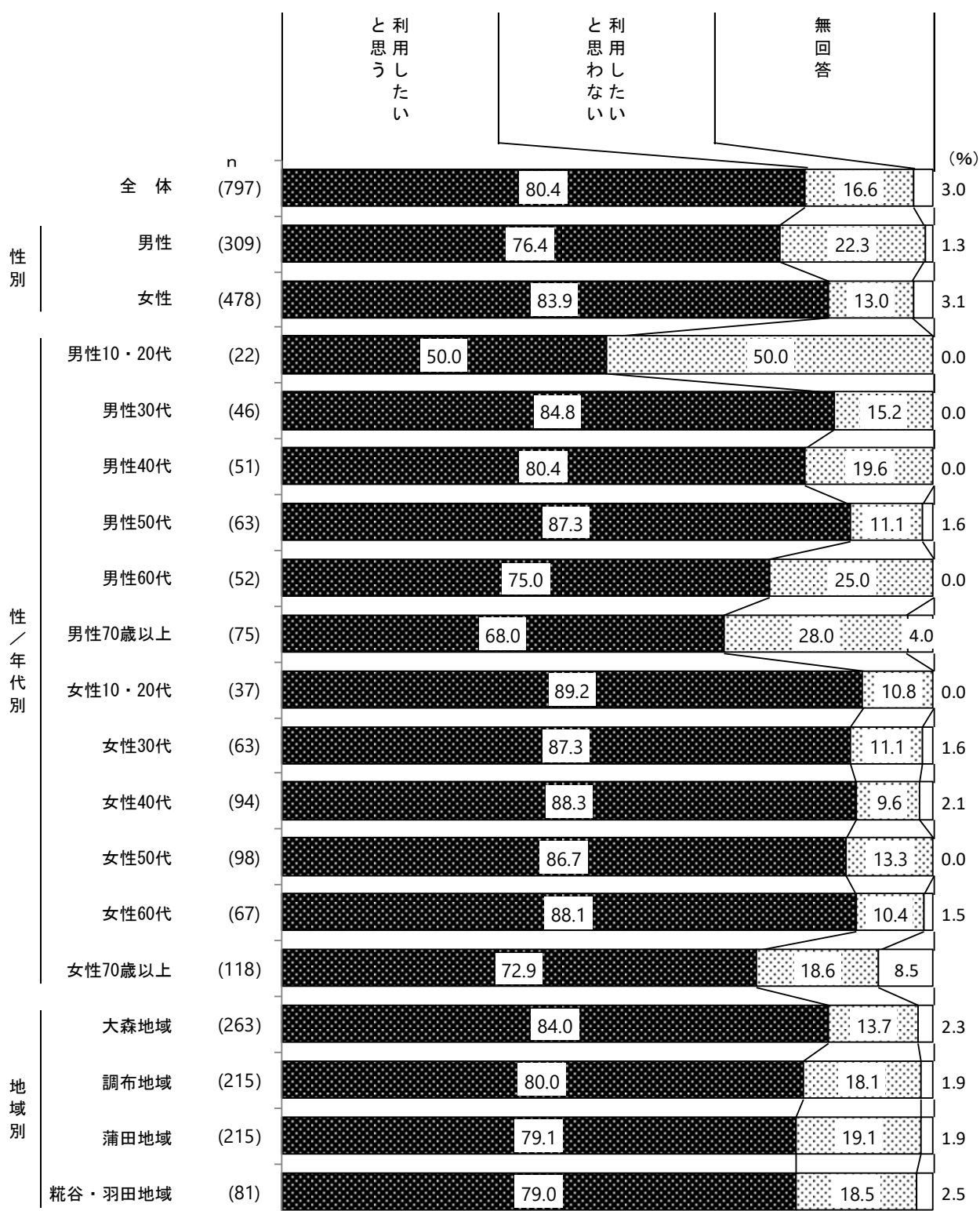
問 21 食品ロス削減に取り組む飲食店や食料品小売店等の情報があれば、そのお店を利用したいと思いますか。(○は1つ)

図表5-9 「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望



食品ロス削減に取り組むお店の情報があれば、そのお店を利用したいか聞いたところ、「利用したいと思う」が80.4%、「利用したいと思わない」が16.6%となっている。(図表5-9)

図表5-10 「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望（性別・性／年代別・地域別）



「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望について、性別で見ると「利用したいと思う」は男性（76.4%）、女性（83.9%）と、女性が男性を7.5ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「利用したいと思う」は男性30代～50代、女性10代～60代で8割台となっている。（図表5-10）

(6) 「フードドライブ」への提供について

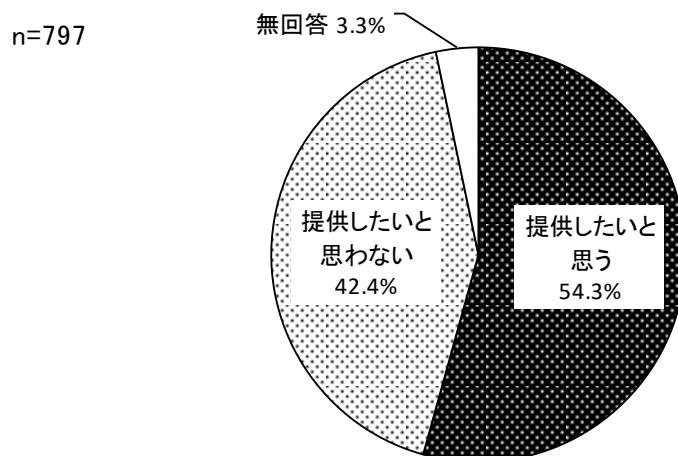
◎ 「提供したいと思う」が5割半ば

問 22 ご家庭の未利用食品を集めて、必要としている団体等に提供する活動を「フードドライブ」といいます。あなたの家で未利用食品が出た際、フードドライブに提供したいと思いませんか。

(○は1つ)

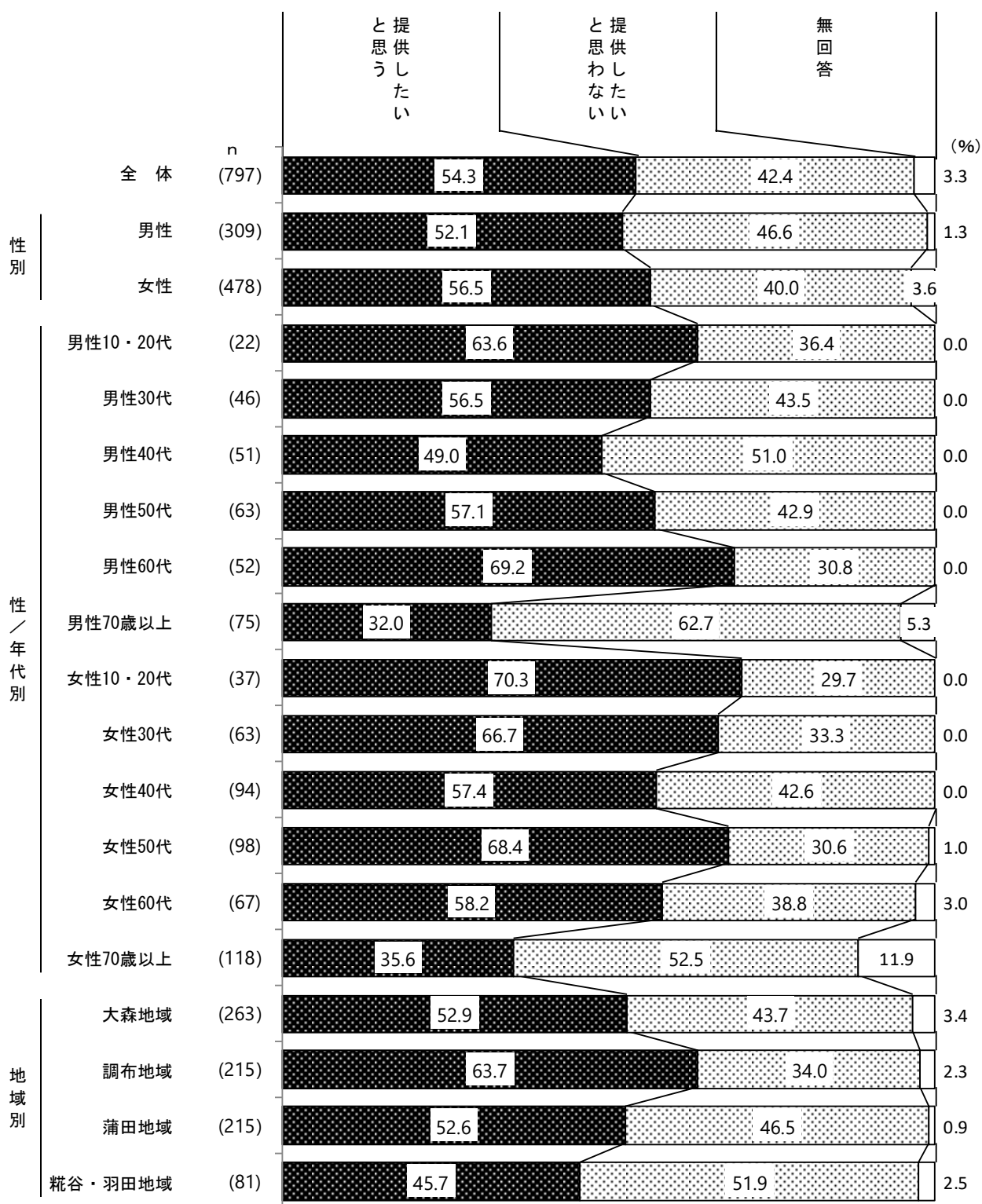
※フードドライブに提供できる食品…主に米などの穀類、調味料、缶詰、インスタント食品など

図表5-11 「フードドライブ」への提供について



「フードドライブ」への提供について聞いたところ、「提供したいと思う」が54.3%、「提供したいと思わない」が42.4%となっている。(図表5-11)

図表 5-12 「フードドライブ」への提供について（性別・性/年代別・地域別）



「フードドライブ」への提供について、性別でみると大きな差異は見られない。

性/年代別でみると、「提供したいと思う」が、女性10・20代が70.3%と他の年代より高くなっている。

地域別でみると、「提供したいと思う」は調布地域が63.7%となっている。(図表5-12)

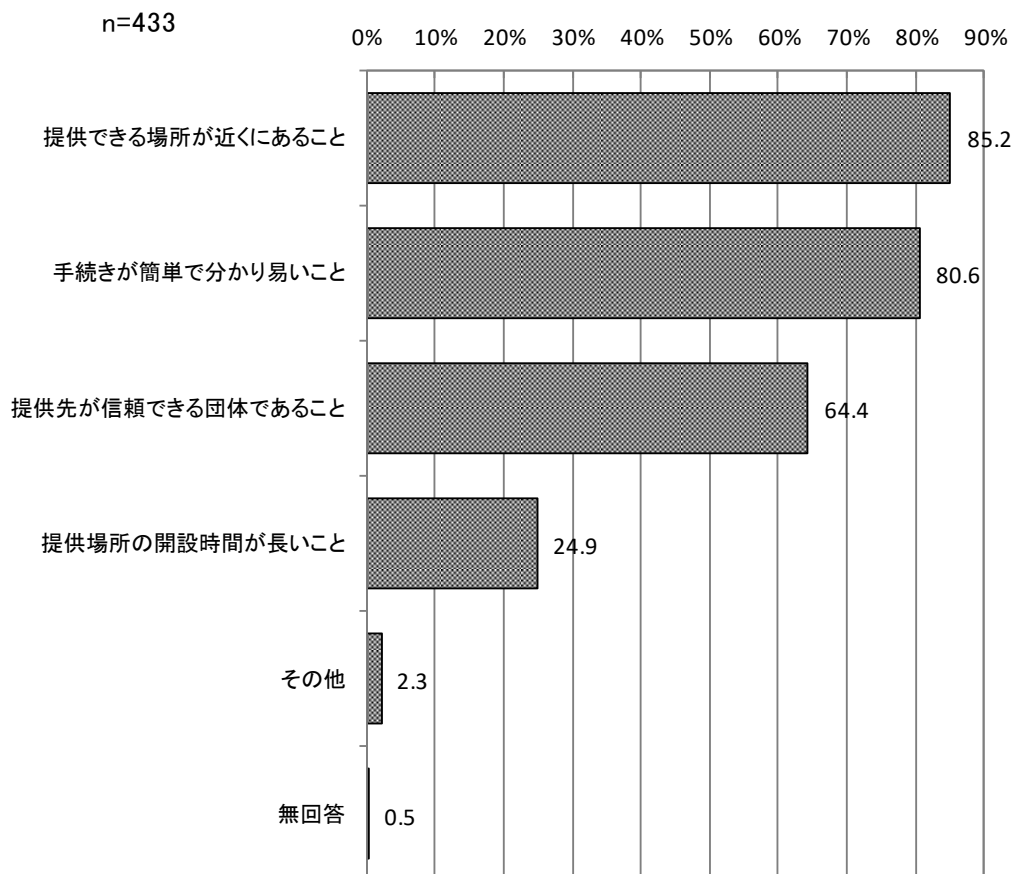
(7) 「フードドライブ」に提供する際、重要視すること

◎ 「提供できる場所が近くにあること」が8割半ばで最も高くなっている

【問 22 で「1. 提供したいと思う」と回答された方】

問 22-1 フードドライブに提供する際、あなたが重要と思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

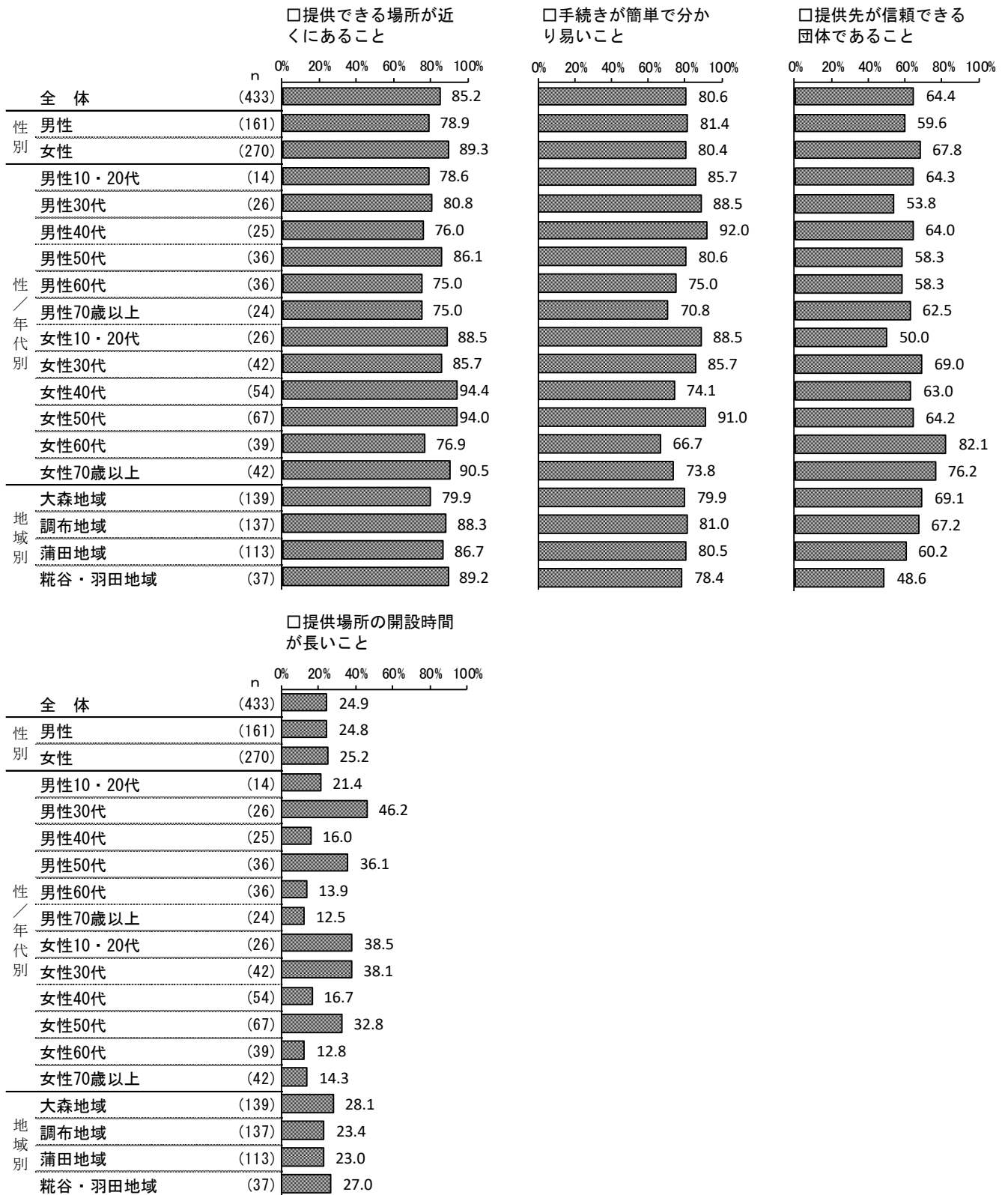
図表 5-13 「フードドライブ」への提供する際、重要視すること



フードドライブに提供したいと思う人に、提供する際に重要視することを聞いたところ、「提供できる場所が近くにあること」が85.2%で最も高く、次いで、「手続きが簡単で分かり易いこと」(80.6%)、「提供先が信頼できる団体であること」(64.4%) などとなっている。(図表 5-13)

図表5-14 「フードドライブ」に提供する際、重要視すること

(性別・性/年代別・地域別 上位4項目)



「フードドライブ」に提供する際、重要視することについて、上位4項目を性別で見ると「提供できる場所が近くにあること」は男性（78.9%）、女性（89.3%）と、女性が男性を10.4ポイント上回っている。（図表5-14）

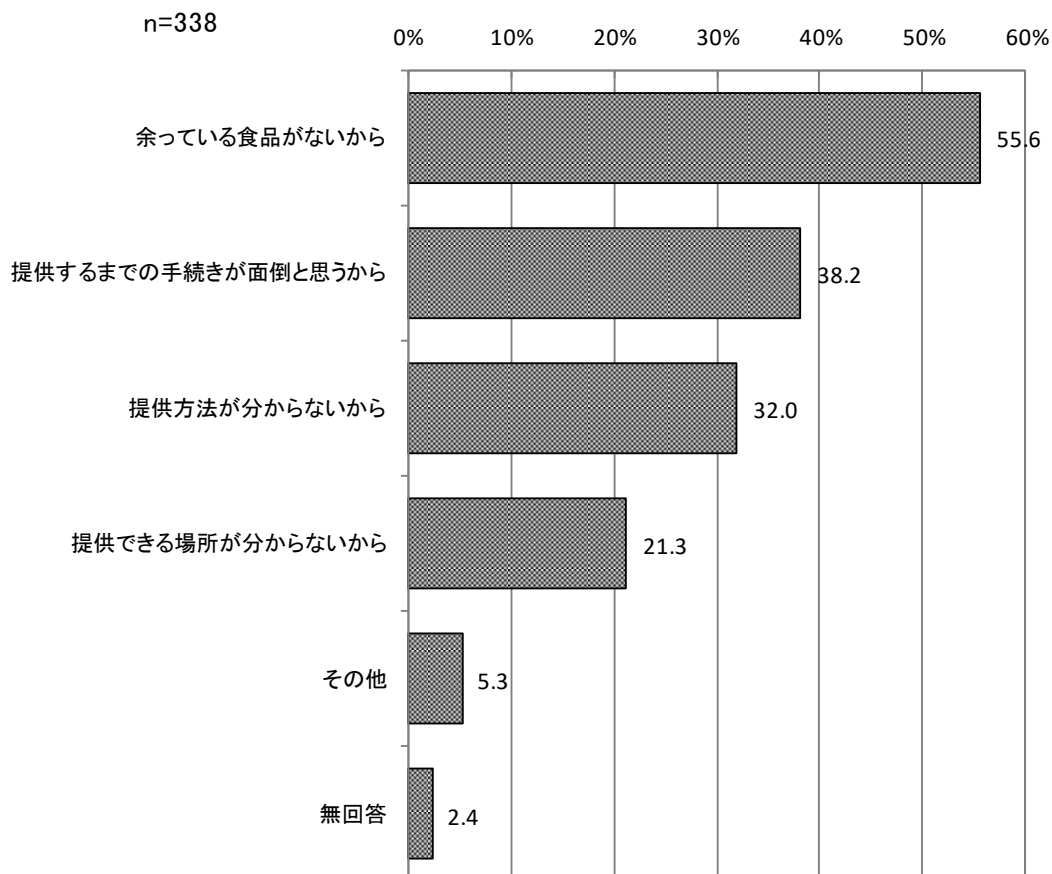
(8) 「フードドライブ」に提供したくない理由

◎ 「余っている食品がないから」が5割半ばで最も高くなっている

【問 22 で「2. 提供したいと思わない」と回答された方】

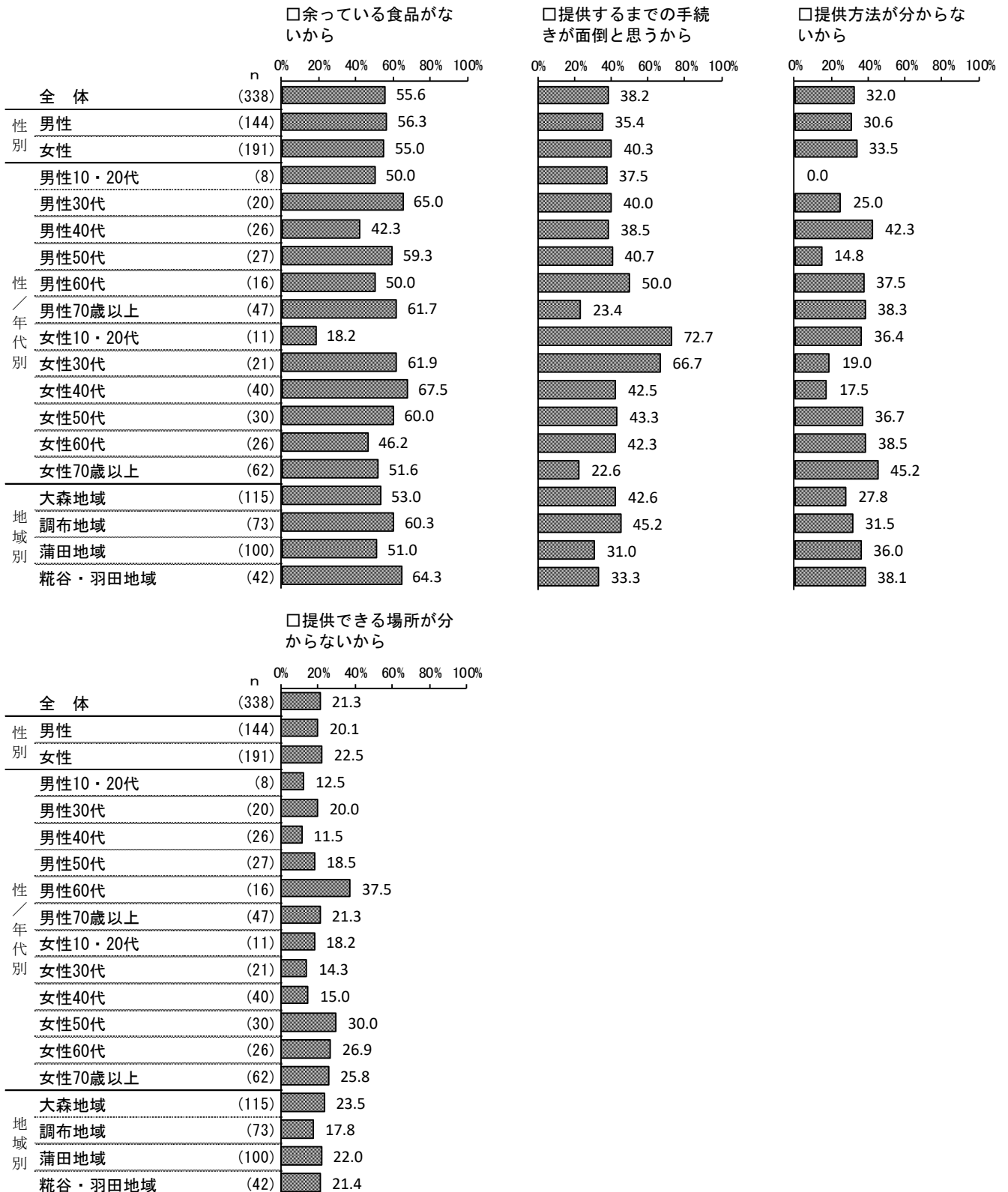
問 22-2 フードドライブに提供したいと思わないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

図表 5-15 「フードドライブ」に提供したくない理由



「フードドライブ」に提供したいと思わない人にその理由を聞いたところ、「余っている食品がないから」が 55.6%で最も高く、次いで、「提供するまでの手続きが面倒と思うから」(38.2%)、「提供方法が分からないから」(32.0%) などとなっている。(図表 5-15)

図表5-16 「フードドライブ」に提供したくない理由（性別・性/年代別・地域別 上位4項目）



「フードドライブ」に提供したくない理由について、上位4項目を性別で見ると、「余っている食品がないから」が男女ともに5割半ばで大きな差異は見られない。

地域別で見ると、「提供方法が分からないから」では蒲田地域、糀谷・羽田地域が3割後半となっている。(図表5-16)